元総社中学校遺跡

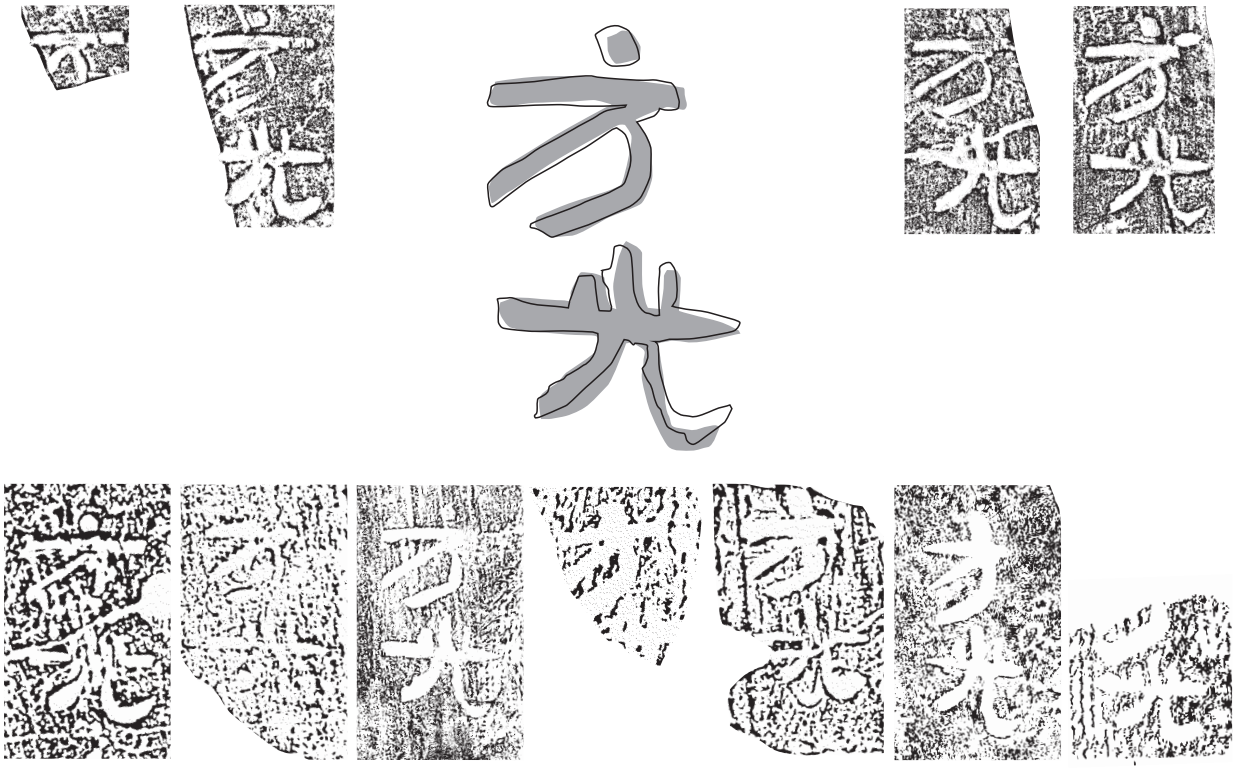
元総社中学校体育館改築建築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１６．９

前橋市教育委員会

元総社中学校遺跡

元総社中学校体育館改築建築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



「方光」銘押印瓦の拓影集成とオーバーラップイメージ

２０１６．９

前橋市教育委員会

【扉絵解説】

上段拓影（Ｓ＝１／２）：本遺跡Ｈ－４－13
中 央 図 （Ｓ＝１／１）：線画・本遺跡Ｈ－４－13（凸面右側縁下端）
網掛・山王廃寺塔跡西（20 Ａ 135 － 24 Ｔ・整理番号 24 － 17）
下段拓影（Ｓ＝１／２）左から：
山王廃寺金堂（６次調査挿図 17 －２）
山王廃寺金堂（６次調査挿図 17 －５）
山王廃寺塔跡西（20 Ａ 135 － 24 Ｔ・整理番号 24 － 17）
山王廃寺金堂（６次調査挿図 17 －４）
山王廃寺金堂（６次調査挿図 17 －３）
山王廃寺金堂（19 Ａ 135 － 12 Ｔ）
元総社明神遺跡Ⅷ（登録番号ゼ 68）

元総社中学校遺跡全景（北東から）

「方光」銘文字瓦（Ｈ－４－13）出土状況（南東から）

Ｈ－２（新）カマド土層断面（北東から）

Ｈ－４－９（須恵器鉢）と篠窯産小型鉢の断面比較

出土した緑釉・灰釉陶器

基本層序（西から）

はじめに

関東平野の北西部に群馬県は位置し、前橋市はその中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。豊かな自然環境にも恵まれ、２万年前から人々が生活を始め、縄文時代の遺跡も、市内の随所に存在します。

古代において前橋台地は、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社中学校遺跡は、上野国府推定区域や上野国分僧寺・国分尼寺などの施設を擁する古代上野国の中枢地域であり、多くの注目が集まっております。今回の調査では、古墳時代から中世にかけての集落跡が見つかりました。出土遺物は奈良時代から平安時代のものが充実し、特に「方光」文字瓦は山王廃寺に関連する遺物で出土例は非常に少ないものです。今回の調査成果をはじめとしてこれまでの調査成果の蓄積は、国府や国府のまちの姿を再現するための資料と考えております。残念ながら、現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進めることができました。また、記録的な猛暑そして寒風の中、発掘調査担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 28 年９月

前橋市教育委員会
教育長　　佐　藤　博　之

例　　言

1　本報告書は元総社中学校体育館改築建築工事に伴う元総社中学校遺跡の埋蔵文化財発掘報告書である。

2　発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名	元総社中学校遺跡
調査場所	前橋市総社町総社 3148 ほか
遺跡コード	27 A 207
発掘・整理担当者	中村岳彦（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	平成 28 年２月８日～平成 28 年２月 29 日
整理・報告書作成期間	平成 28 年３月１日～平成 28 年９月 30 日

3　本書の原稿執筆はＩを小峰　篤（前橋市教育委員会）、他を中村が担当した。

4　発掘調査および整理作業参加者は次のとおりである。

飯島冬子　大川明子　太田英明　加藤知恵子　神坂慶三　北爪二郎　今野妙子　佐藤和彦　佐藤文江
田島君代　土屋和美　中野光雄　畠山勝利　福島禄子　星野博　松本徳雄　丸山和浩　丸山文江　吉澤克夫

5　本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会事務局文化財保護課で保管している。

6　下記の諸氏および機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

淺間陽　池田敏宏　出浦崇　小此木真理　坂口一　高井佳弘　津野仁　永井智教　野村満　日沖剛史
山下歳信　山下工業株式会社

凡　　例

1　挿図中に使用した北は座標北である。

2　挿図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3　遺構名称は、住居跡：H、掘立柱建物跡：B、溝跡：W、井戸：Ｉ、土坑：D、ピット：Ｐである。

4　遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構　住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・井戸・土坑・ピット・その他・・・1/60　全体図・・・1/100

遺物　土器・石製品・・・1/3、1/4、1/6　鉄製品・石製品・・・1/2　玉類・・・1/1

5　本文および表中の計測値については（　）は現存値を、〔　〕は復元値を表す。

6　遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下のとおりである。

遺構　焼土範囲：　灰範囲：　粘土範囲：　硬化面範囲：　地山：

遺物　須恵器（還元焔）断面：　須恵器（酸化焔）断面：　灰釉陶器断面：
灰釉施釉範囲：　緑釉施釉範囲：　黒色処理範囲：　油煙付着範囲：
煤付着範囲：　研磨範囲：

7　主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-A（浅間Ａ軽石：1783）、As-B（浅間Ｂ軽石：1108）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：６世紀中葉）、Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頭）、As-C（浅間Ｃ軽石：３世紀後葉～４世紀前半）

目　　次

巻頭図版１・２

はじめに

例言・凡例・目次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 1

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査範囲と基本方針…… 7

2　調査経過…… 7

Ⅳ　基本層序…… 9

Ⅴ　遺構と遺物

（１）竪穴住居跡…… 9

（２）掘立柱建物跡…… 13

（３）溝跡…… 13

（４）井戸、土坑、ピット…… 14

（５）遺構外出土遺物…… 14

Ⅵ　発掘調査の成果と課題…… 30

挿図目次

Fig.１　遺跡の位置 …… 1
Fig.２　周辺遺跡図 …… 3
Fig.３　周辺調査地点とグリッド設定図 …… 6
Fig.４　全体図 …… 8
Fig.５　基本層序 …… 9
Fig.６　時期別遺構分布（５～11世紀） …… 14
Fig.７　Ｈ－１号住居跡、Ｈ－２号住居跡① …… 15
Fig.８　Ｈ－２号住居跡②、Ｈ－３号住居跡① …… 16
Fig.９　Ｈ－３号住居跡②、Ｈ－４号住居跡① …… 17
Fig.10　Ｈ－４号住居跡② …… 18
Fig.11　Ｈ－５・７号住居跡 …… 19
Fig.12　Ｈ－６・10号住居跡 …… 20
Fig.13　Ｈ－８号住居跡、Ｈ－９号住居跡① …… 21
Fig.14　Ｈ－９号住居跡②、Ｂ－１号掘立柱建物跡、Ｗ－１号溝跡、Ｉ－１号井戸 …… 22
Fig.15　Ｗ－２号溝跡、Ｄ－１～５号土坑、Ｐ－１号ピット …… 23
Fig.16　Ｈ－１～３号住居跡出土遺物 …… 24
Fig.17　Ｈ－４号住居跡出土遺物 …… 25
Fig.18　Ｈ－４～９号住居跡、Ｗ－１・２号溝跡出土遺物 …… 26
Fig.19　Ｗ－２号溝跡、Ｄ－１・３号土坑、Ｐ－１号ピット、遺構外出土遺物 …… 27
Fig.20　上野国府域の緑釉陶器出土状況 …… 31
Fig.21　周辺遺跡出土の竈形土製品と有頸形態の竈形土製品 …… 32
Fig.22　Ｈ－４－９と篠窯産小型鉢の比較 …… 32

表目次

Tab.１　周辺遺跡一覧表…… 4
Tab.２　井戸、土坑、ピット計測表…… 14
Tab.３　出土遺物観察表…… 27
Tab.４　周辺の緑釉陶器出土遺跡…… 31

写真図版目次

PL.１　調査区全景（北から）　調査区北半部全景（北西から）　調査区南半部全景（北西から）　Ｈ－１全景（南東から）　Ｈ－２（新）全景（東から）

PL.２　Ｈ－２（新）カマド全景（北東から）　Ｈ－２（新）掘り方・Ｈ－２（古）全景（西から）　Ｈ－２（古）カマド全景（西から）　Ｈ－２－１緑釉陶器碗出土状況（北から）　Ｈ－３全景（北東から）　Ｈ－４全景（西から）　Ｈ－４カマド遺物出土状況（西から）　Ｈ－４カマド天井石崩落状況（南西から）

PL.３　Ｈ－４－６須恵器小皿出土状況（南西から）　Ｈ－４カマド全景（西から）　Ｈ－４－12・13カマド構築材出土状況（西から）　Ｈ－４－17台石出土状況（南から）　Ｈ－５全景（西から）　Ｈ－５カマド全景（西から）　Ｈ－５－４須恵器小皿出土状況（北西から）　Ｈ－６全景（北西から）

PL.4　H－６－２土師器甕出土状況（南から）　H－７カマド全景（南から）　H－８全景（南東から）　H－８カマド全景（南西から）　H－８カマドSPB北側袖部土層断面（南西から）　H－８貯蔵穴全景（南西から）　H－８掘り方全景（北東から）　H－９カマド全景（北西から）

PL.5　H－10全景（北西から）　B－１全景（東から）　W－１全景（東から）　W－２遺物出土状況（北から）　W－２全景（北から）　I－１全景（東から）　D－１－３灰釉陶器皿出土状況（北から）

PL.6　D－２全景（北から）　D－４全景（東から）　D－５SPA土層断面（北西から）　D－５全景（北西から）　P－１全景（西から）　Ⅷ～Ⅸ層遺構確認状況（南から）　調査風景（北東から）

PL.7　遺物写真（H－１～４）

PL.8　遺物写真（H－４～９、W－１・２）

PL.9　遺物写真（D－１・３、P－１、遺構外）　遺跡説明会の様子（北から）

参考文献

相川竜雄 1934「上野文字瓦考（一）」『上毛及上毛人』220号　上毛郷土史研究会
秋本太郎 2008「戦国城館の遺物」『後北条氏の城－合戦と支配－』　博物館周辺文化財の複合的活用事業実行委員会
阿久澤智和 2016「上野国府を探して～前橋市元総社町における発掘調査成果を中心として～」『発掘された古代の役所～最新の発掘調査からみた上野・北武蔵の律令社会～』　伊勢崎市教育委員会
石井清司 1995「５．篠窯須恵器」『概説　中世の土器・陶磁器』　中世土器研究会
大阪大学考古学研究室篠窯調査団 2012『篠窯跡群大谷３号窯の研究』
尾野善裕 2008「第Ⅲ章　古代の灰釉陶器生産と来姓古窯跡群」『来姓古窯跡群－ 10 世紀～ 13 世紀の窯跡　灰釉陶器・緑釉陶器・山茶碗－』豊田市教育委員会
上高津貝塚ふるさと歴史の広場 2004『青と白への憧憬　施釉陶器がもたらされた場所』第９回特別展
神谷佳明 1988「東国出土の竈形土器についての検討」『群馬の考古学』創立十周年記念論集　群馬県埋蔵文化財調査事業団
神谷佳明 2016「竈形土製品　再考」『研究紀要』34　群馬県埋蔵文化財調査事業団
木津博明 1988「第３章　周辺遺跡」『上野国分僧寺・尼寺中間地域』　群馬県埋蔵文化財調査事業団
京都府埋蔵文化財調査研究センター 1984『篠窯跡群Ⅰ』
京都府埋蔵文化財調査研究センター 1989『篠窯跡群Ⅱ』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1981『清里・陣場遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986『清里・長久保遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988『鳥羽遺跡　Ⅰ・Ｊ・Ｋ区』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990『国分境遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992『鳥羽遺跡　Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ区』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997『出土した古代の土器　展示レポート』
古代の土器研究会 1993『都城の土器集成Ⅱ』　古代の土器２
古代の土器研究会 1994『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東３　施釉陶器－』
小森俊寛 2005『京から出土する土器の編年的研究－日本律令的土器様式の成立と展開、７～ 19 世紀－』
近藤義雄『天狗岩用水の研究』　群馬郡総社小学校　（出版年不詳）
坂口一・三浦京子「奈良・平安時代の土器の編年－住居の重複と共伴関係による土器型式組列の検討－」『群馬県史研究』24　群馬県史編さん委員会
早田勉 1990「第一章　第五節　前橋台地と広瀬川低地帯」『群馬県史』通史編１　原始古代１　群馬県
高橋照彦 1995「３．緑釉陶器」『概説　中世の土器・陶磁器』　中世土器研究会
高松雅文 2012「考古学からみた王朝国家論と篠窯跡群大谷３号窯」『篠窯跡群大谷３号窯の研究』　大阪大学考古学研究室篠窯調査団
巽淳一朗 1985『陶磁（原始・古代編）』No. 235　日本の美術 12　至文堂
田中信 2004「関東における在地土器食器」『中近世土器の基礎研究ＸＶⅢ　中世土器研究の今日的課題－土器編年と中世史研究－』　日本中世土器研究会
東海土器研究会 2009『灰釉陶器のブラインドテスト』No. １・２・３
東海土器研究会 2015『灰釉陶器生産における地方窯の成立と展開－第３回東海土器研究会－』
都丸十九一 1947『天狗岩堰開鑿史－江戸初期水利開發の一例－』群馬國語文化研究所
中沢悟 1981「第５節　清里、陣場遺跡の特徴と問題点について」『清里・陣場遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
楢崎彰一 1973『三彩　緑釉　灰釉』陶器大系５　平凡社
奈良文化財研究所 2004『古代の官衙遺跡』Ⅱ遺物・遺跡編
奈良文化財研究所 2015『官衙・集落と土器１－宮都・官衙と土器－』奈良文化財研究所研究報告　第 15 冊
日沖剛史 2016「群馬県前橋市元総社地域における地形の形成と土地利用」『地域考古学』１号　地域考古学研究会
前橋市教育委員会 2009『山王廃寺～平成 19 年度調査報告～』
前橋市教育委員会 2010『山王廃寺～平成 20 年度調査報告～』
前橋市教育委員会 2012a『山王廃寺～平成 22 年度調査報告～』
前橋市教育委員会 2012b『山王廃寺～平成 22 年度調査報告　別冊～　－続　瓦整理から－』
前橋市教育委員会 2013『元総社蒼海遺跡群（41）元総社蒼海遺跡群（42）元総社蒼海遺跡群（43）』
前橋市教育委員会 2014『元総社蒼海遺跡群（60）』
前橋市教育委員会 2015『元総社蒼海遺跡群（85）・（88）～（90）・（96）～（98）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1990『元総社明神遺跡Ⅷ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1991『元総社明神遺跡Ⅸ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1993『元総社明神遺跡ＸＩ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1994『元総社明神遺跡ＸⅡ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000『元総社小見遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001a『総社甲稲荷塚大道西遺跡　総社閑泉明神北Ⅱ遺跡　総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001b『元総社小見内遺跡Ⅲ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002a『元総社小見Ⅱ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002b『元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002c『総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡　総社閑泉明神北Ⅲ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005『元総社小見Ⅵ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006『元総社蒼海遺跡群（１）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2007『元総社蒼海遺跡群（８）』
前橋市埋蔵文化財調査事業団 2008『元総社蒼海遺跡群（13）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009『元総社蒼海遺跡群（24）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2010『元総社蒼海遺跡群（26）』
前橋文化財研究会 1980『山王廃寺跡第６次発掘調査報告書』
松田徳松・新井房夫 1971「第一編　第三節　自然の推移」『前橋市史』第一巻　前橋市
三浦京子 1988「群馬県における平安時代後期の土器様相－灰釉陶器を中心にして－」『群馬の考古学』創立十周年記念論集　群馬県埋蔵文化財調査事業団
渡邊一弘 2000「天狗岩用水をめぐる町村」『群馬文化』264　群馬県地域文化研究協議会

※主要な文献以外は割愛した。

Ⅰ　調査に至る経緯

前橋市立元総社中学校の体育館改築工事にあたり、前橋市長　山　本　　龍（教育施設課）と前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）は埋蔵文化財の取り扱いについて協議を重ね、既存建物の解体後に試掘調査を実施することで合意に至った。平成 27 年 9 月 25 日付けで試掘調査依頼が提出された。これを受け既存建物解体後の平成 27 年 12 月 24 日～ 25 日に試掘調査を実施した。調査の結果、既存建物の工事影響を受けていない箇所で住居跡等を検出した。遺構の検出深度、体育館改築工事に伴う掘削計画などを考慮すると遺構の保存が図れないものと判断し、記録保存に向けた発掘調査実施について協議をおこなった。

平成 28 年 1 月 12 日付けで、前橋市長　山　本　　龍（教育施設課）より埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼が市教委に提出された。市教委では既に発掘調査を実施中であり、市教委直営による発掘調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ業務委託することで依頼者である前橋市と合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。

平成 28 年 2 月 1 日付けで前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「元総社中学校遺跡」（遺跡コード：27A207）については、学校名を採用した。

Fig.1　遺跡の位置

Ⅱ　遺跡の位置と環境

遺跡の位置（Fig. 1・2）　その名に国府関連地名を冠する元総社中学校は、前橋市の南西部に位置する。利根川を越えて約 2.5km 東には群馬県庁が、南約 2.5km には本市の玄関口である前橋インターチェンジが所在する。遺跡地は中学校が当地へ移転した 1977 年以前、五千石堰用水を基幹水路とする田園地帯だったが、1970 年代に市内中小企業の近代化を目指して前橋問屋団地が造成されると、当地の周辺にも市街化が及んだ。さらに近年では、前橋－安中－富岡を結ぶ西毛広域幹線道路を中軸とする、元総社蒼海土地区画整理事業の進展によって、市街地はさらに拡大しつつあり、遺跡地の周辺は今日、新旧の景観が混濁した過渡的な様相の中にある。

遺跡地は、榛名山南東麓に伸びる相馬ヶ原扇状地と前橋台地の移行地帯にあり、牛池川の浸食作用によって形成された低地平野と台地との崖線近くに立地する。約２万年前、浅間山は山体崩落を起こし、前橋泥流が生じた。十数メートルも堆積した泥流層は前橋台地の母体となり、その表層には川が流れた。この頃の元利根川は、現利根川よりも西側の総社や元総社の辺りを流れていたと考えられている。約 1.8 ～ 1.3 万年前、榛名山の山体崩落によって陣場岩屑なだれが発生し、その堆積物が相馬ヶ原扇状地の母体となった。約 1.1 万年前、遺跡地の周辺は、元利根川の作用によって後背湿地化が進んでいたらしく、井戸跡などの深部には前橋泥炭層が観察できる。元利根川が残した低地はその後、相馬ヶ原扇状地を水源とする染谷川・牛池川・八幡川などの流れに影響を与えた。これらの中小河川は榛名山の裾野を南東へ流れるが、低地の影響を受け、ちょうど遺跡地の辺りで流れを大

きく南へ変える。急激な流れの変化は洪水の温床となり、度重なる洪水層が堆積した結果、遺跡地の周辺には約2.5 mの深さにも及ぶ総社砂層が形成された。総社砂層の堆積と中小河川の開析作用の反復は、わずかな高台と低地を残しつつ台地を形成した。台地が安定すると、中小河川の流れも現在の場所に落ち着いて、今日に至るまで下刻を続けている。台地の上部には黒ボク土が形成され、歴史時代に起きた度重なる火山災害や人為的な地形改変の累積を経て、台地表層は次第に平坦化してきたと推測できる。

歴史的環境（Fig. 2・3、Tab. 1）　紙数の都合上、国府周辺地域を見据えた広域的な叙述は既存の報告書にたのみ、ここでは、本遺跡の様相に合わせて地域を限定し、記載する。

総社砂層より上層で確認される最も古い遺構は現在のところ、縄文時代前期に遡る。遺構の覆土には黒ボク土が混ざることから、台地上に黒ボク土が形成されたのは、この直前と考えられる。該期の住居跡は、蒼海遺跡群（3・4・13・40・41 ※以下「蒼海」）・小見Ⅴ～Ⅶ遺跡などで確認され、現状では、染谷川左岸の自然堤防に沿って帯状に分布するが、遺物は多くの遺跡で出土し、本地点でも土器片がわずかに出土した。続く中期の住居跡は、蒼海（3・40）・小見内Ⅶ遺跡などに確認される。蒼海（10）を除くこの一帯は、染谷川自然堤防の北端と、榛名山南東裾の最末端にあたり、緩やかな南斜面で、広い微高地を面的に確保できる地帯である。後期～晩期の住居跡は少ないが、蒼海（10・100・101）・小見Ⅴ遺跡などに確認される。中期からの微高地上に加え、台地内の谷地に立地する蒼海（101）でも、この時期の遺構が分布するほか、小見Ⅴ遺跡は染谷川、蒼海（10・100）は牛池川の低地に立地する。牛池川の低地に面した本遺跡では、わずかながら晩期の土器片が出土した。

弥生時代の遺構は少ないが、前期末～後期の遺物は、蒼海（37・39・61）・小見内Ⅲ遺跡などで出土しており、現状の分布は台地の北端をなす牛池川右岸の一帯に集中する。牛池川の低地平野を北に望む立地だが、低地内の元総社北川遺跡や元総社牛池川遺跡では、遺物は出土するものの、水田跡などの生産域は確認されていない。

古墳時代前期の遺構は、ひとつには蒼海（38・39・17 街区）・小見内Ⅲ遺跡のように、弥生時代後期の分布を踏襲する。また、蒼海（40・48）・小見Ⅴ遺跡など染谷川の自然堤防上と、蒼海（38・56・61）など牛池川左岸の一帯にも住居跡が分布する。牛池川左岸の一帯では集落域のほか、低地平野に立地する閑泉明神北Ⅳ・Ⅴ遺跡で水田跡が確認され、蒼海（62・81・100）などには周溝墓と推定される溝跡が確認されており、該期における集落域・生産域・墓域を含む、一体的な生活の単位が確認されつつある。中期になると、牛池川の一帯では左岸を中心に遺跡が分布し、本遺跡や蒼海（35・81・91）・甲稲荷大道西Ⅱ遺跡などで、多くの住居跡が確認される。元総社北川遺跡・閑泉明神北Ⅳ・Ⅴ遺跡など、低地内の遺跡ではことごとく、Hr-FA 洪水層に覆われた小区画水田跡が確認されており、この頃までには、牛池川低地平野の広い範囲が生産域として開拓されていたと推測できる。後期になると遺跡は爆発的に増え、周辺遺跡のほぼ全域で住居跡が確認される。しかしながら該期の古墳は確認されておらず、蒼海（10・23・28）などで埴輪片が出土した程度である。やや離れて約 1 km 東に稲荷山古墳［42］が位置し、直径約 30 m程度の円墳で、6 世紀後半頃の築造と考えられている。7 世紀になると、約 2 km 北に、総社古墳群を代表する愛宕山古墳［ロ］・宝塔山古墳［ハ］・蛇穴山古墳［ニ］の大型方墳や山王廃寺［ホ］が建立されて、政治的中枢を形成する。本遺跡の周辺では、蒼海（9・10・35）で、建物の方向が一定の規則性を示す、大規模な掘立柱建物跡群が確認されている。7 世紀の住居跡は、周辺に広く分布するが、前段階に比べると減少し、現状では数軒単位の小規模な群構成が点在するように見える。山王廃寺の約 1 km 南に立地する本遺跡では、山王廃寺の寺号である「放光寺」に由来する「方光」銘の押印瓦が出土した。

奈良時代、本遺跡の南は牛池川を挟んで推定上野国府域にあたり、国庁の位置には A ～ D の 4 案が推定されている。その内、宮鍋神社南面の国庁 C 案では、蒼海（99）・上野国府等範囲確認調査 28・33・34 トレンチで掘込地業をもつ建物跡が確認され、蒼海（95）では方形の柱穴掘り方をもつ大型掘立柱建物跡が確認されている。一方、この域内では 8 世紀後半から 9 世紀末葉まで、現状で住居跡は確認されていない。国府域の特殊性は周辺遺跡の出土遺物にも反映され、内面に放射状暗文を施す土師器暗文坏や、須恵器盤・高盤の出土率は他の地域に

比べて高く、蒼海（22・40・41）・小見Ⅵ遺跡など30地点以上に出土例があり、蒼海（13・41）では三彩陶器、蒼海（1・38・40）では腰帯具、蒼海遺跡群（26・60）では円面硯なども該期の遺構から出土している。推定国府域の北側隣接地にあたる本遺跡では数軒の住居跡を調査した。

平安時代になると、前代にも増して各遺跡に中小規模の住居跡が数多く確認される。国庁や曹司によって構成される国衙、国司館や市・津、それらの機能を支えた徭丁が一時滞留する宿所的集落など、上野国府域の空間構成の検討は、歴史地理学的な手法によるところが大きかったが、近年では発掘調査の進展によって、域内における地点ごとの考古学的な差異が、おぼろげながら把握されつつある。例えば、国府域の北西端で国分僧寺・尼寺にも近い、蒼海（26・40・41）、小見Ⅱ遺跡などには、住居跡が高い密度で分布する。この地点は、腰帯具・円面硯の出土率が高く、鉄鉢形土器・三足盤・金の付着した灰釉陶器などの特徴的な遺物や、「大館」「市」「金」などの墨書土器が出土している。また、国府域の西端にあたる染谷川左岸の自然堤防上は、緑釉陶器の出土が多い国府域の中でも、特に高い出土率を示す一帯で、蒼海（8・13）では合計49点もの破片が出土している。なお、国府域の北東端にあたる牛池川右岸の蒼海（37・39・53）などでも、特に多くの住居跡が確認され、馬具・小札・刀装具・鉄鏃など武器・武具の出土が目立つ。牛池川を挟みその対岸に立地する本遺跡では、住居跡や総柱式の掘立柱建物跡、緑釉陶器・灰釉陶器・竈形・鉄鉢形土器・三足土器などの特徴ある遺物群が出土した。平安時代中期、国府域は平将門の乱の舞台となった。将門は天慶2年（939年）に国衙を攻略するが、これに関わる考古資料は、現在のところ確認されていない。

国府域の空間構成復元を困難としている要因の一つとして、蒼海城［ｉ］の大規模な地形改変がある。国庁推定域内に位置する、蒼海（23・29・65）などでは蒼海城中枢部の堀跡群が、蒼海（21）では、二の丸に展開する無数の柱穴群が確認され、その帰属時期は15世紀を中心とする。蒼海城に関連する遺物としては、蒼海（23・25）で、12～15世紀の青白磁梅瓶、青磁酒会壺蓋・袴腰香炉などの貿易陶磁が多数出土している。

慶長6年（1601年）、秋元長朝が総社領主になると蒼海城は廃城となり、総社城［ⅱ］が築城された。長朝は戦乱で荒廃した総社領を復興するために灌漑体系の整備を行い、天狗岩用水［ａ］を開削した。天狗岩用水を基幹とする水路網の整備によって領内の新田開発は進み、6,000石程度だった石高は、開削が成った慶長9年（1604年）頃、10,000石に達したと言われる。天狗岩用水の水路網は、五千石堰用水［ｂ］や小笠原堰用水［ｃ］によって補われるが、これらの用水路は一

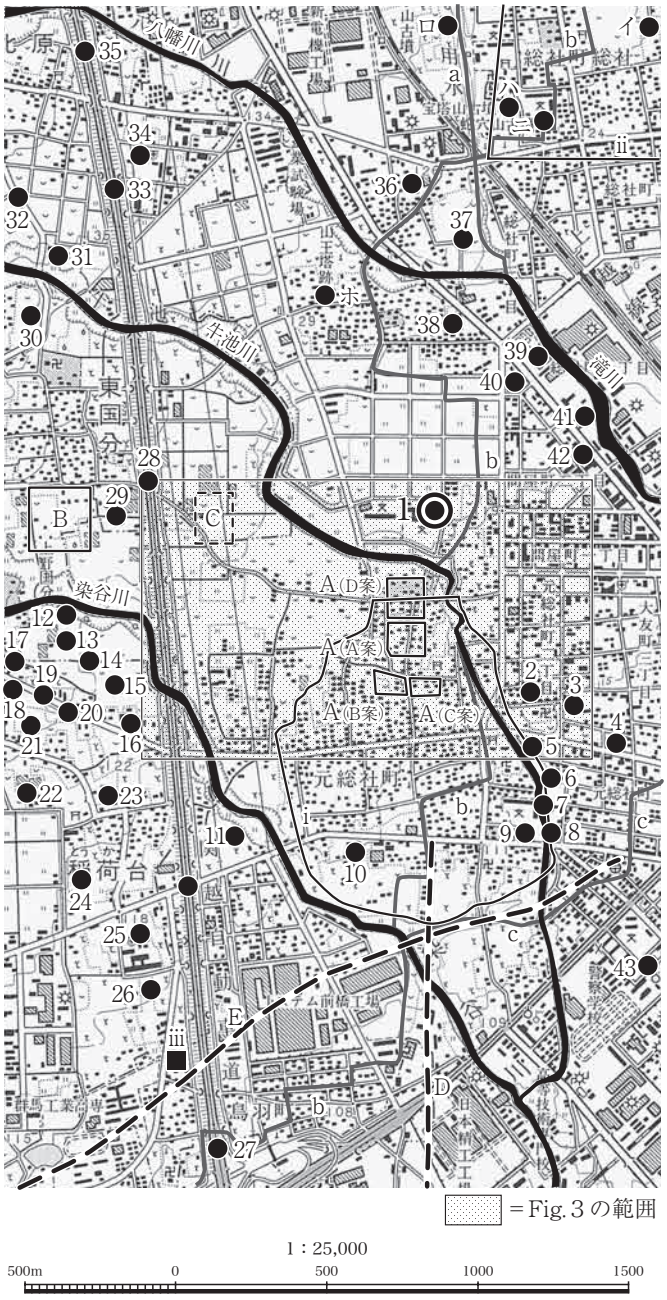


Fig.2　周辺遺跡図

Tab. 1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	**元総社中学校遺跡**	16	塚田村東遺跡	31	国分境Ⅲ遺跡	ハ	宝塔山古墳・総社町屋敷南遺跡
2	屋敷・屋敷Ⅱ遺跡	17	引間松葉遺跡Ⅲ区	32	西国分Ⅱ遺跡	ニ	蛇穴山古墳
3	堰越Ⅱ遺跡	18	塚田中原遺跡	33	国分境遺跡	ホ	山王廃寺跡
4	堤越遺跡	19	塚田中原遺跡O区	34	北原一町畑Ⅲ遺跡	A	上野国庁推定地（A～D案）
5	大友屋敷Ⅱ・大友屋敷Ⅲ遺跡	20	塚田村東Ⅳ遺跡	35	北原遺跡	B	上野国分僧寺
6	元総社明神遺跡Ⅰ～Ⅹ	21	塚田村東Ⅲ遺跡	36	村東遺跡	C	上野国分尼寺
7	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ	22	塚田村前遺跡	37	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅳ	D	日高道推定地
8	寺田遺跡	23	塚田村東Ⅱ・稲荷台村北遺跡	38	昌楽寺廻向・昌楽寺廻向Ⅱ遺跡	E	東山道駅路国府ルート推定地
9	元総社小学校校庭遺跡	24	稲荷台村南遺跡	39	産業道路東遺跡	i	蒼海城跡
10	天神・天神Ⅱ遺跡	25	稲荷台・北金尾遺跡	40	産業道路西遺跡	ii	総社城跡
11	弥勒・弥勒Ⅱ遺跡	26	稲荷台東金尾境遺跡	41	稲荷塚道東遺跡	iii	金尾城跡
12	元総社西川遺跡	27	中尾遺跡	42	稲荷山古墳	a	天狗岩用水
13	上野国分寺参道遺跡	28	上野国分僧寺・尼寺中間地域	43	元総社稲葉遺跡	b	五千石堰用水
14	元総社西川・塚田中原遺跡	29	上野国分二寺中間地域遺跡	イ	遠見山古墳	c	小笠原堰用水
15	塚田中原遺跡	30	西国分薬師廻り遺跡	ロ	愛宕山古墳		

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・遺物
－	元総社蒼海遺跡群（1）	2005	**古墳～平安**：住居跡・掘立柱建物跡・大溝・道路状遺構ヵ、**中世**：堀跡（蒼海城）　◇縄文土器（前期）・緑釉・灰釉・盤・こね鉢・鉄鏃・鉄鋲・腰帯具・権ヵ
－	元総社蒼海遺跡群（2）	2005	**奈良・平安**：住居跡・竪穴状遺構・大溝・土坑墓、**中世以降**：土坑墓・道路状遺構　◇灰釉・盤・高盤・鉄鏃・埴輪
－	元総社蒼海遺跡群（3）・元総社小見Ⅶ遺跡	2005	**縄文**：住居跡、**古墳・奈良・平安**：住居跡・掘立柱建物跡・道路状遺構、**中世**：畠跡　◇縄文土器（前～後期）・灰釉・円面硯・権ヵ・紡錘車・墨書「墓」・土錘
－	元総社蒼海遺跡群（4）	2005	**縄文**：住居跡、**古墳・奈良・平安**：住居跡・竪穴状遺構　◇縄文土器（前・中期）・灰釉・盤・鉄鉢形土器・飾金具・墨書「連」ヵ・紡錘車・土錘・臼玉・石製模造品
－	元総社蒼海遺跡群（5）	2005	**古墳**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡、**中世**：道路状遺構・周溝状遺構・土坑墓・火葬墓　◇暗文坏・板碑・管玉・臼玉
－	元総社蒼海遺跡群（6）	2005	**古墳**：砂岩採掘坑、**奈良・平安**：住居跡・竪穴状遺構・鍛冶遺構・大溝、**中世**：堀跡（蒼海城）・土坑墓　◇灰釉・鉄鏃
－	元総社蒼海遺跡群（7）	2005	**平安**：住居跡・大溝・砂岩採掘坑、**中世**：大溝　◇灰釉・羽口・埴輪
－	元総社蒼海遺跡群（8）	2006	**古墳・奈良・平安**：住居跡、**中世以降**：道路状遺構　◇緑釉・灰釉・三足土器・灯明具・鉄鏃・鉄鍋・勾玉
－	元総社蒼海遺跡群（9）（10）	2006	**縄文**：住居跡、**古墳**：住居跡・竪穴状遺構、**飛鳥**：住居跡・掘立柱建物跡・大溝、**奈良・平安**：住居跡・竪穴状遺構・大溝・砂岩採掘坑　◇縄文土器（中期～晩期）・弥生土器（中期）・灰釉・鉄鏃・小札・鉄鎌・紡錘車・土錘・石製模造品・埴輪
－	元総社蒼海遺跡群（11）	2006	**古墳～平安**：住居跡・竪穴状遺構、**中世**：堀跡（蒼海城）　◇縄文土器（前・中期）・灰釉・暗文坏・土錘・勾玉・臼玉
－	元総社蒼海遺跡群（12）	2006	**古墳・奈良・平安**：住居跡、**中世以降**：土坑墓　◇灰釉・暗文坏・鉄鏃
－	元総社蒼海遺跡群（13）	2008	**縄文**：住居跡、**古墳・飛鳥**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・工房跡、道路状遺構、**中世**：土坑墓　◇縄文土器（前期）・緑釉・灰釉・馬具・鉄鏃・鉄釜ヵ・紡錘車・国分寺鬼瓦
－	元総社蒼海遺跡群（14）	2008	**古墳**：住居跡・水田跡・畠跡、**飛鳥**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・掘立柱建物跡、**中世**：堀跡（蒼海城）・竪穴状遺構　◇灰釉・暗文坏　［国庁A案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（15）	2008	**奈良・平安**：住居跡、**中世**：土坑墓　◇灰釉・灯明具
－	元総社蒼海遺跡群（16）	2008	**奈良・平安**：住居跡・畠跡　◇灰釉・盤
－	元総社蒼海遺跡群（17）	2008	**古墳**：住居跡・竪穴状遺構、**平安**：住居跡、**中世**：土坑墓　◇縄文土器（前期）・弥生土器（後期）・灰釉・灯明具
－	元総社蒼海遺跡群（18）	2008	**平安**：住居跡、**中世以降**：土坑墓　◇灰釉・盤・鉗子ヵ・青磁（12c）
－	元総社蒼海遺跡群（19）	2008	**古墳**：水田跡　◇木製舟形容器
－	元総社蒼海遺跡群（20）	2008	**古墳・飛鳥**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・竪穴状遺構・道路状遺構、**中世**：土坑墓　◇縄文土器（前～後期）・灰釉陶器・盤・須恵器「壺G」・暗文坏・灯明具・鉄鏃・鉄鎌・腰帯具・国分寺鬼瓦　［国庁A案推定域、国分尼寺南辺含む］
－	元総社蒼海遺跡群（21）	2009	**奈良・平安**：大溝、**中世**：堀跡（蒼海城）・盛土状遺構・方形竪穴　◇灰釉・白磁（12c）・青磁（15c）　［国庁B案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（22）	2009	**古墳・飛鳥**：住居跡、**平安**：住居跡・竪穴状遺構・道路状遺構ヵ　◇灰釉・暗文坏・洗（大形盤）ヵ・灯明具・鉄鍵
－	元総社蒼海遺跡群（23）	2009	**古墳・飛鳥**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・大溝、**中世**：堀跡（蒼海城）　◇白磁（15c）・青磁（13～15c）・天目茶碗　［国庁B案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（24）	2009	**縄文**：住居跡、**古墳・飛鳥**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・竪穴状遺構、**中世**：方形竪穴・道路状遺構　◇縄文土器（前・中期）・灰釉・盤・竈形土製品・腰帯具・鉄鏃・紡錘車・土錘・青磁（14c）
－	元総社蒼海遺跡群（25）	2009	**古墳・平安**：住居跡　◇灰釉・鉄鏃・青白磁梅瓶（12～14c）　［国庁A案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（26）	2009	**飛鳥・奈良**：住居跡、**平安**：住居跡・竪穴状遺構、土坑墓、**中世**：堀跡（蒼海城）　◇緑釉・灰釉・円面硯・盤・高盤・暗文坏・紡錘車・鉄鏃・腰帯具・土錘・墨書「大舘」
－	元総社蒼海遺跡群（27）	2009	**古墳**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構、**中世**：堀跡（蒼海城）・方形竪穴　◇縄文土器（前～晩期）・弥生土器（後期）・灰釉・盤・洗ヵ・灯明具・鉄鏃・埴輪
－	元総社蒼海遺跡群（28）	2009	**古墳**：住居跡・大溝、**奈良・平安**：住居跡・竪穴状遺構、**中世**：堀跡（蒼海城）・方形竪穴　◇縄文土器（前～晩期）・弥生土器（後期）・灰釉・盤・鉄鏃・馬具・紡錘車・羽口・埴輪
－	元総社蒼海遺跡群（29）	2009	**古墳～平安**：住居跡、**中世以降**：堀跡（蒼海城）・掘立柱建物跡・地下式坑・土坑墓・火葬跡　◇灰釉・鉄鏃・鉄滓　［国庁B・C案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（30）	2009	**古墳・平安**：住居跡、**中世**：堀跡（蒼海城）・道路状遺構・土坑墓・火葬跡　◇縄文土器（前・中期）・鉄鏃
－	元総社蒼海遺跡群（31）	2009	**古墳**：住居跡、**中世**：堀跡（蒼海城）、**時期不明**：道路状遺構　◇土錘・埴輪　［国庁A案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（32）	2010	**古墳**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡、**中世**：堀跡（蒼海城）・竪穴状遺構　◇縄文土器（前期）・灰釉・鉄鏃　［国庁D案推定域含む］
－	元総社蒼海遺跡群（33）	2010	**古墳**：粘土採掘坑、**飛鳥・奈良**：住居跡、**平安**：住居跡・大溝ヵ・土坑墓　**中世**：堀跡（蒼海城）・方形竪穴・土坑墓　◇高盤・こね鉢・鉄鉢形土器
－	元総社蒼海遺跡群（34）	2010	**奈良・平安**：住居跡、**中世以降**：堀跡（蒼海城）・竪穴状遺構　◇灰釉・暗文坏・羽口・紡錘車
－	元総社蒼海遺跡群（35）	2010	**縄文**：住居跡、**古墳・飛鳥**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・布掘掘立柱建物跡・掘立柱建物跡、**中世**：堀跡（蒼海城）・土坑墓　◇縄文土器（前期）・灰釉・高盤・盤・畿内産暗文坏・鉄斧・鉄鑿ヵ・紡錘車
－	元総社蒼海遺跡群（36）	2010	**古墳**：畠跡、**平安**：住居跡・水田跡・砂岩採掘坑、**中世**：堀跡（蒼海城）　◇灰釉・盤・灯明具・鉄鏃・埴輪・板碑　［国庁B案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（37）	2011	**古墳・飛鳥**：住居跡、**平安**：住居跡・竪穴状遺構、**中世**：堀跡（蒼海城）　◇縄文土器（後期）・弥生土器（後期）・灰釉・こね鉢・灯明具・権ヵ・鉄鏃・弓筈ヵ・馬具・羽口・鉄滓・炉壁・紡錘車・土錘・耳環・臼玉・石製模造品　［国庁A・D案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（38）	2012	**古墳**：住居跡・竪穴状遺構・砂岩採掘坑・前方後方形周溝墓ヵ・土器集積・水田跡、**奈良・平安**：住居跡・掘立柱建物跡・大溝・道路状遺構、**中世以降**：堀跡（蒼海城）・大溝　◇灰釉・高盤・灯明具・腰帯具・鉄鏃・鋼鈴・鉄鎌・土錘　［国庁A・D案推定域含む］
－	元総社蒼海遺跡群（39）	2012	**古墳**：住居跡、**平安**：住居跡・土坑墓、**中世以降**：大溝　◇弥生土器（前～中期）・灰釉・獣脚土器・灯明具・鉄鏃・鉗子ヵ・小札・刀装具・馬具・腰帯具・鉄鎌・羽口・紡錘車・土錘・切子玉・臼玉　［国庁D案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（40）	2013	**縄文**：住居跡、**古墳・飛鳥**：住居跡・竪穴状遺構、**奈良・平安**：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶遺構・道路状遺構　◇縄文土器（前～後期）・灰釉・盤・円面硯ヵ・鉄鏃・腰帯具・紡錘車
－	元総社蒼海遺跡群（41）	2013	**縄文**：住居跡、**古墳**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・鍛冶遺構、**中世**：掘立柱建物跡・道路状遺構　◇縄文土器（前期）・青磁・奈良三彩・緑釉・灰釉（金付着）・盤・鉄鉢形土器・暗文坏・円面硯・須恵器「壺G」・灯明具・鉄鏃・鉄鉗・腰帯具・羽口・紡錘車・臼玉・刻書「☆（五芒星）」・墨書「金」
－	元総社蒼海遺跡群（42）	2013	（遺構なし）
－	元総社蒼海遺跡群（43）	2013	**奈良・平安**：住居跡、**中世**：道路状遺構　◇高盤
－	元総社蒼海遺跡群（44）	2013	**奈良・平安**：住居跡、**中世**：堀跡（蒼海城）
－	元総社蒼海遺跡群（45）	2013	**古墳・平安**：住居跡、**中世**：堀跡（蒼海城）・地下式坑　◇三足土器・鉄滓・羽口　［国庁C案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（46）	2013	**平安**：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（47）	2013	**中世**：堀跡（蒼海城）・柱列跡
－	元総社蒼海遺跡群（48）	2013	**縄文**：住居跡、**古墳～奈良**：住居跡、**平安**：住居跡・竪穴状遺構・埋没谷　◇縄文土器（前・中期）・灰釉・高盤・盤・暗文坏・鉄鏃・鉄鎌・鉄鋤・鉄滓・紡錘車・臼玉
－	元総社蒼海遺跡群（49）	2013	**平安**：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（50）	2013	**縄文**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡　◇灰釉
－	元総社蒼海遺跡群（51）	2013	**古墳・奈良**：住居跡　◇盤・暗文坏
－	元総社蒼海遺跡群（52）	2013	（遺構なし）
－	元総社蒼海遺跡群（53）	2013	**古墳～平安**：住居跡　◇灰釉・灯明具・紡錘車・石製模造品　［国庁D案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（54）	2013	（遺構なし）

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
−	元総社蒼海遺跡群（55）	2013	奈良：住居跡
−	元総社蒼海遺跡群（56）（61）	2013	古墳：方形周溝墓・住居跡・竪穴状遺構、奈良・平安：住居跡　◇縄文土器（前・中期）・弥生土器（後期）・紡錘車
−	元総社蒼海遺跡群（57）	2014	中世：堀跡（蒼海城）　◇高盤・馬骨・青磁（15 ～ 16c）　［国庁Ｂ案推定域］
−	元総社蒼海遺跡群（58）	2014	平安：大溝、中世：堀跡（蒼海城）　◇灰釉・温石　［国庁Ｂ案推定域］
−	元総社蒼海遺跡群（59）	2014	平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）・方形竪穴
−	元総社蒼海遺跡群（60）	2014	古墳：住居跡、飛鳥：大溝、平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）　◇緑釉・灰釉（朱墨転用硯）・盤・円面硯・刀装具・鉄滓
−	元総社蒼海遺跡群（62）	2014	古墳：周溝墓
−	元総社蒼海遺跡群（63）	2014	古墳・平安：住居跡　◇紡錘車・管玉・臼玉
−	元総社蒼海遺跡群（64）	2014	奈良ヵ：製鉄炉、平安：住居跡、中世：方形竪穴・土坑墓　◇鉄滓・炉壁　［国庁Ａ案推定域］
−	元総社蒼海遺跡群（65）	2014	古墳・平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）　◇灰釉　［国庁Ｃ案推定域］
−	元総社蒼海遺跡群（66）	2013	古墳：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）
−	元総社蒼海遺跡群（67）	2013	古墳：住居跡
−	元総社蒼海遺跡群（68）	2013	奈良：住居跡、中世以降：方形竪穴
−	元総社蒼海遺跡群（72）	2013	平安：住居跡　◇灰釉
−	元総社蒼海遺跡群（73）	2013	時期不明：道路状遺構
−	元総社蒼海遺跡群（81）	2014	古墳：方形周溝墓・住居跡、飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構　◇紡錘車・管玉・臼玉・石製模造品
−	元総社蒼海遺跡群（82）	2014	古墳・平安：住居跡
−	元総社蒼海遺跡群（83）	2014	（遺構僅か）
−	元総社蒼海遺跡群（84）	2014	飛鳥：住居跡　◇高盤
−	元総社蒼海遺跡群（85）	2014	飛鳥～平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）　◇緑釉・灰釉・羽口
−	元総社蒼海遺跡群（88）	2014	時期不明：畠跡
−	元総社蒼海遺跡群（89）	2014	中世：竪穴状遺構
−	元総社蒼海遺跡群（90）	2014	中世：竪穴状遺構
−	元総社蒼海遺跡群（91）	2014	古墳～平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）　◇灰釉・盤・金銅小仏
−	元総社蒼海遺跡群（95）	2014	古墳・飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・大溝　◇灰釉・灯明具　［国庁Ｃ案推定域］
−	元総社蒼海遺跡群（96）	2014	（遺構なし）　［国庁Ｃ案推定域］
−	元総社蒼海遺跡群（97）	2014	平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）　◇灰釉・灯明具・馬具
−	元総社蒼海遺跡群（98）	2014	中世：掘立柱建物跡　［国庁Ｃ案推定域］
−	元総社蒼海遺跡群（99）・ 上野国府等範囲内容確認調査 33・34 トレンチ	2015	奈良・平安：掘込地業建物跡　［国庁Ｃ案推定域］
−	元総社蒼海遺跡群（100）	2014	古墳：周溝墓、飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：堀跡（蒼海城）・掘立柱建物跡　◇縄文土器（晩期） 灰釉・鉄滓
−	元総社蒼海遺跡群（101）	2014	縄文：竪穴状遺構、飛鳥・奈良：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・土坑墓、中世：堀跡（蒼海城）・掘立柱建物跡 ◇縄文土器（後期）・緑釉・灰釉・槍鉋
−	元総社蒼海遺跡群（102）	2015	中世：堀跡　◇灯明具　［国庁Ｂ案推定域］
−	元総社蒼海遺跡群（103）	2015	縄文：住居跡、古墳～平安：住居跡　◇縄文土器（前・中期）・灰釉・盤状坏・灯明具・「有鍔台付鉢」
−	元総社蒼海遺跡群（117）	2016	飛鳥：住居跡、奈良・平安：大溝
−	元総社蒼海遺跡群（118）	2016	平安：住居跡・土坑墓、中世以降：粘土採掘坑　◇灰釉・国分寺鬼瓦・鉄鏃
−	元総社蒼海遺跡群（120）	2016	平安：掘立柱建物跡　◇縄文土器（前期）
−	元総社蒼海遺跡群（121）	2016	飛鳥：住居跡、奈良・平安：大溝・土坑墓　◇貝巣穴泥岩
−	元総社蒼海遺跡群（17 街区）	2015	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・道路状遺構、中世：土坑墓・火葬跡　◇こね鉢ヵ・板碑
−	元総社小見遺跡	2000	縄文・古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・道路状遺構　◇縄文（中期）・緑釉・灰釉・水瓶・円面硯・馬具・鉄鏃・紡錘車・臼玉
−	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：道路状遺構　◇縄文土器（中期）・緑釉・灰釉・三足盤・双耳坏・灯明具・鉄鏃・鉄斧・鉗子・墨書「市」・紡錘車・臼玉
−	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳・飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡・粘土採掘坑、中世以降：堀跡（蒼海城）・道路状遺構・土坑墓　◇縄文土器（中期）・緑釉・灰釉・暗文坏・鬼瓦・耳環・臼玉
−	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文・古墳～平安：住居跡、中世：道路跡　◇縄文土器（中期）・灰釉・灯明具・鉄鏃・弓筈ヵ・紡錘車・土錘
−	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文・古墳・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡　◇縄文土器（前～後期）・灰釉
−	元総社小見Ⅵ遺跡	2004	縄文・古墳～平安：住居跡・大溝　◇縄文土器（前・中期）・緑釉・灰釉・水瓶・鉄鏃・鉄斧・鉄鋤・鉄鎌・腰帯具・紡錘車・権ヵ・墨書「庄」
−	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	弥生：住居跡、古墳：住居跡・飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・大溝・道路状遺構・土坑墓、中世：掘立柱建物跡・方形竪穴・堀跡（蒼海城）・道路状遺構・土坑墓・火葬墓　◇縄文土器（中期）・弥生土器（中期）・緑釉・灰釉・盤・こね鉢・暗文坏・風字硯・鉄鏃・火打金・鉗子・飾金具・腰帯具・竈形土製品・臼玉
−	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構・道路状遺構・周溝状遺構、中世：堀跡（蒼海城）・土坑墓　◇灰釉・盤・こね鉢
−	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	飛鳥：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・大溝・道路状遺構・砂岩採掘坑、中世：掘立柱建物跡　◇灰釉・鉄鏃・臼玉
−	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、飛鳥：住居跡、奈良・平安：大溝　◇縄文土器（中期）・盤
−	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡、中世：方形竪穴　◇高盤・こね鉢・暗文坏
−	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構・土器埋納坑　◇灰釉・盤・灯明具・鉄鏃・紡錘車
−	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑、中世：堀跡（蒼海城）・土坑墓・火葬跡・道路状遺構　◇縄文土器（晩期）・灰釉・金片・金粒
−	元総社草作遺跡	1984	飛鳥～平安：住居跡　◇縄文土器（中期）・高盤・腰帯具・白磁（15c）・青磁（13c）
−	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳～平安：住居跡・粘土採掘坑、中世以降：堀跡（蒼海城）・土坑墓・火葬跡　◇白磁（11c ～ 12c）・鉄鏃・臼玉
−	元総社宅地遺跡１～８トレンチ	2000	古墳・平安：住居跡　◇紡錘車　［国庁Ｄ案推定域］
−	元総社宅地遺跡９～ 18・21 トレンチ	2000	中世：堀跡（蒼海城）・方形竪穴　［国庁Ｂ案推定域］
−	元総社宅地遺跡 19 トレンチ	2000	中世：堀跡（蒼海城）　［国庁Ｃ案推定域］
−	元総社宅地遺跡 20 トレンチ	2000	（遺構僅か）　［国庁Ａ案推定域］
−	元総社宅地遺跡 22・23 トレンチ・ 上野国府等範囲内容確認調査 13 トレンチ	2000・2012	古墳：住居跡、飛鳥～平安：住居跡（平安）・掘立柱建物跡（奈良）・大溝・道路状遺構　◇獣脚土器
−	上野国府等範囲内容確認調査１～７トレンチ	2011	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡（平安）・大溝・道路状遺構　［国庁Ａ案推定域］
−	上野国府等範囲内容確認調査 ８～ 11・13・14・28 トレンチ	2012	古墳：住居跡、奈良（8c 前半）：住居跡、奈良～平安：住居跡・掘込地業建物跡　◇石製模造品　［国庁Ｃ案推定域］
−	上野国府等範囲内容確認調査 12 トレンチ	2012	古墳・平安：住居跡
−	上野国分尼寺（上野国分尼寺寺域確認調査）	1969・1970・ 1999・2000	奈良：講堂跡・金堂跡・中門跡・東門跡・築地塀跡・住居跡、平安：住居跡
−	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・用水路ヵ、中世：畠跡　◇緑釉・灰釉・勾玉・管玉
−	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、平安：住居跡　◇緑釉・灰釉・銅鉢・紡錘車・管玉・鉄滓
−	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡　◇緑釉・灰釉・石製模造品・紡錘車
−	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世以降：道路状遺構・畠跡
−	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：水田跡・畠跡　◇縄文土器（前～晩期）・灰釉・鉄滓・勾玉
−	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳・平安：住居跡　◇灰釉・管玉
−	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文・古墳～平安：住居跡　◇灯明具
−	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡	2002 ～ 2004	古墳：水田跡・畠跡
−	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
−	閑泉樋遺跡	1983	古墳：住居跡、奈良・平安：大溝
−	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡　◇紡錘車
−	元総社北川遺跡	2002 ～ 04	縄文～弥生：旧河道、古墳：住居跡・水田跡・粘土採掘坑・旧河道、平安：住居跡・掘立柱建物跡・畠跡、中世以降：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓　◇縄文土器（晩期）・弥生土器（後期）・灰釉・盤・暗文坏
−	元総社牛池川遺跡	2002 ～ 04	古墳：水田跡・土器集積遺構、中世：火葬跡

方で、相馬ヶ原扇状地の伏流水を水源とする午王頭川や八幡川の中小河川から取水し、天狗岩用水とは異なる灌漑体系をもつ。その開削の時期は天狗岩用水を遡る可能性が指摘されており、つい最近暗渠化してしまったが、五千石堰用水の左岸にあたる甲稲荷塚大道西遺跡のＡ区では、五千石堰用水と同一方向に流下する、11 世紀以前に埋没した大規模な溝跡が確認されている。

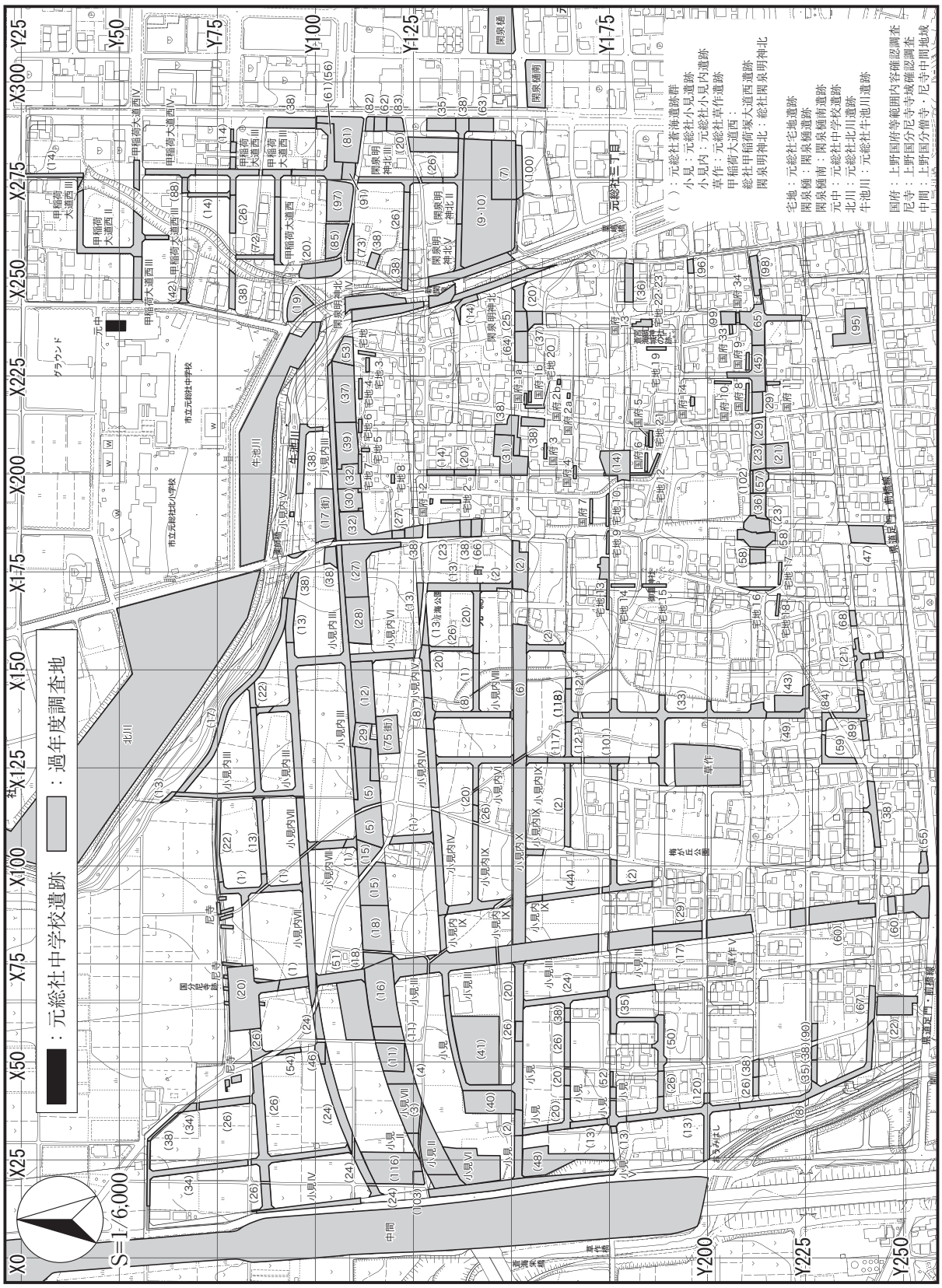


Fig.3　周辺調査地点とグリッド設定図

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、元総社中学校の体育館改築予定地であり、調査面積は130㎡である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第Ⅸ系）X＝44000.000、Y＝－72200.000を基点とする4ｍピッチのものを使用し、経線をX、緯線をYとして北西隅を基点に番付して呼称とした。調査区の公共座標は次のとおりである。

測点	日本測地系（第Ⅸ系）	世界測地系（第Ⅸ系）
X 235、Y 50	X＝43800.000 m、Y＝－71260.000 m	X＝44154.8975 m、Y＝－71551.7602 m

発掘調査は、遺構確認面まで重機（0.45㎥級バックホウ）を用いて表土の除去を行い、試掘調査の所見に基づき、基本層序Ⅳ～Ⅵ層を遺構確認面とした。調査区は、試掘調査で確認された遺構の範囲を、市教委立ち会いのもとに拡張しつつ、任意に定めた。当初は遺構の空白地帯を見出し、その境を調査区の区切りとする予定だったが、住居跡は途切れることなく重複を繰り返していた。そのため最終的には、日暮れまでに重機の掘削能力が及んだ範囲を調査区とすることになり、調査範囲は変則的な形となった。遺構確認面は、ジョレンを用いて全面的な精査を行い、平面的な土質の観察によって遺構を判断した。遺構の重複が激しく、判断ができない範囲は、調査に先行してサブトレンチを下層まで穿ち、その底面と土層断面の観察によって、遺構を判断した。確認した遺構は、土層の堆積を記録するために、土層断面を残しつつ覆土を除去した。遺構に伴うと判断できた遺物については、出土位置を記録した上で取り上げた。確認面と遺構覆土の土色は良く似ており、掘立柱建物跡の柱穴など、小規模な遺構は確認が及んでいない恐れがあったため、遺構の調査後、再び重機（0.45㎥級バックホウ）を用い、W－1より南側を基本層序Ⅷ～Ⅸ層まで掘り下げて最終的な確認を行ったが、新たな遺構は確認できなかった。

個々の遺構の図面記録は、基本的に遺構の断面図・完掘時の平面図・遺物の出土位置について、トータルステーション・電子平板を用いて行い、断面図の一部はオルソーフォトに変換して編集を行なった。写真記録についても、遺構の土層断面･完掘状況･遺物出土状況に対して、35mm判モノクロ･リバーサルフィルム（CanonEOS55･EF28-105mm/ACROS・ISO100/PROVIA・ISO100）とデジタルカメラ（CanonEOS50D・SIGMA　DC18-200mm）を用いて、基本的には絞り値ｆ８～11・広角端での撮影を行った。

報告書の作成に際しては、DTPの手法を用いた。遺構図については、原図の作図から報告書掲載の編集図に至るまで一貫してデジタルデータを用い、遺物図については、手測りでの原図作成後デジタルトレースを行った。遺物写真の撮影にはデジタルカメラ（CanonEOS 5D/EF200mmL）を用いた。データ化されたこれらの調査記録を、レイアウトソフトを用いて組版し、刊行した。

2　調査経過

発掘調査は、平成28年2月8日から着手した。同日中に拡張できるかぎり、重機による表土除去を行い、並行して遺構の確認を進めた。10日から個々の遺構調査を開始。15日、春一番が吹き、以後は強風が続いた。想定よりも遺構が多いため作業員を増員。18日、「方光」銘瓦を発見。25日にほぼ全ての調査を終え、翌26日に調査区の全景写真撮影を行った。同日、元総社中学校の生徒を対象に遺跡説明会を行い、50名以上の生徒が来跡した。市教委による終了確認も同日中になされ、29日に現地の調査を終了した。

整理作業は、平成28年3月1日から着手した。4月8日に遺物の洗浄、15日に注記を終えた。26日に遺構図面の編集作業を終えた。28日に出土遺物の分類と報告対象の抽出を終え、観察と実測を始めた。5月31日に遺構図面の版下が完成。原稿の執筆と組版は23日から随時行った。6月17日に遺物図面の版下が完成。22日に出土遺物の写真撮影と掲載写真の抽出を終え、28日に写真図版の版下が完成した。9月9日には原稿執筆と組版を終了。市教委による査読の後、18日に入稿した。19～29日にかけて遺物台帳等調査資料の整理を行い、30日に報告書を刊行し、全ての作業を終了した。

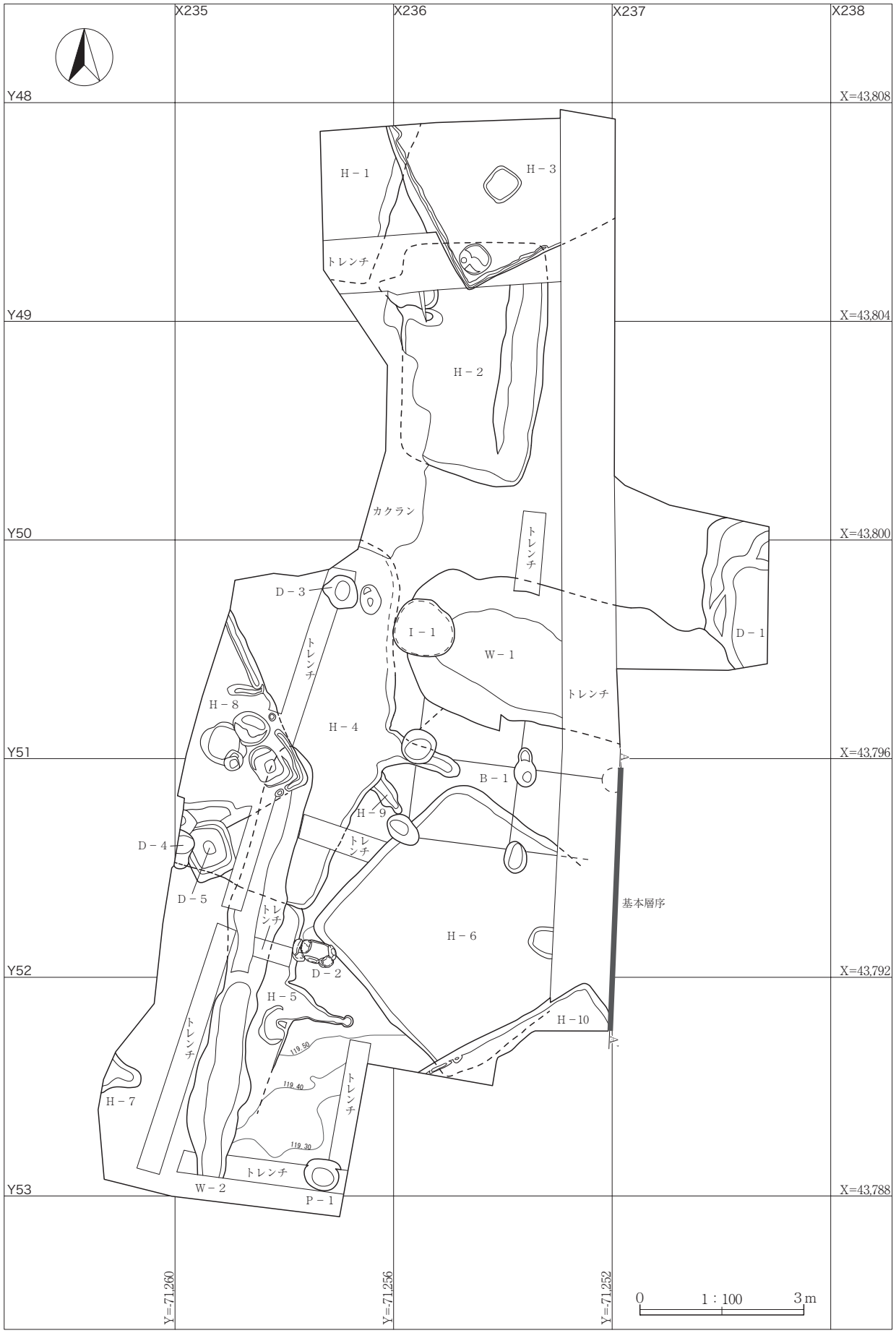
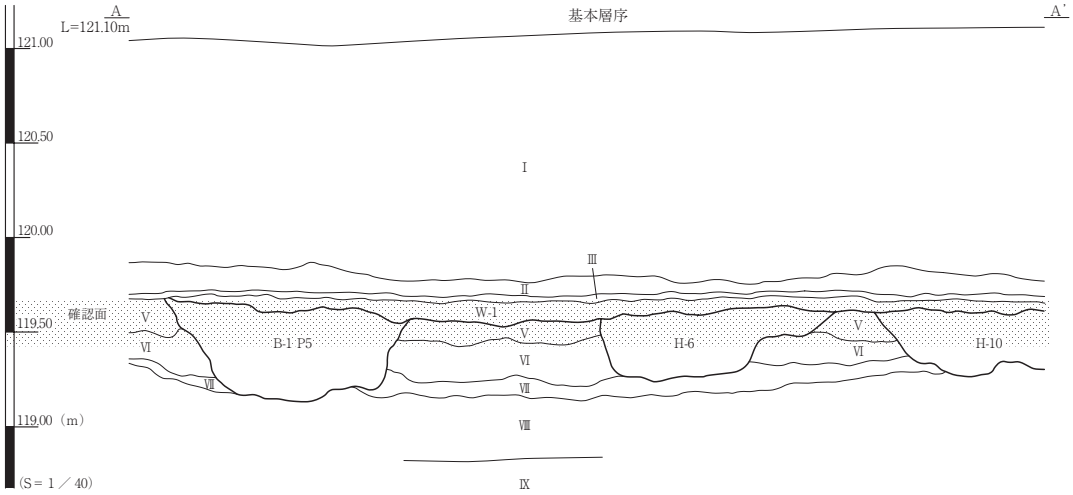

X235
X236
X237
X238
Y48
Y49
Y50
Y51
Y52
Y53
X=43,808
X=43,804
X=43,800
X=43,796
X=43,792
X=43,788
Y=71,260
Y=71,256
Y=71,252
H－1
H－3
トレンチ
H－2
カクラン
トレンチ
D－3
I－1
W－1
D－1
トレンチ
H－8
H－4
トレンチ
B－1
H－9
トレンチ
D－4
D－5
トレンチ
H－6
基本層序
D－2
H－5
H－10
トレンチ
119.50
119.40
119.30
H－7
トレンチ
トレンチ
W－2
P－1
0
1：100
3m

Fig. 4　全体図

Ⅳ　基本層序

元総社中学校建設以前の遺跡地は、南に面する牛池川へ下る傾斜地に営まれた水田地帯だったようで、校地造成に伴う造成土のⅠ層は、現況の地表面から約 1.2 mの深さにおよぶ。Ⅱ層は校地造成以前の水田床土で、その直下には滞水による鉄分溶脱層であるⅢ層が薄く観察できる。Ⅲ層の直下には周辺遺跡に広く堆積する As-B 混土層が観察できず、直接に As-C 混土層であるⅤ層となることから、水田の開墾に伴い旧地形は相応に削平されたと推測できる。Ⅳ層は純層に近い As-B で、埋没過程で窪地化したＨ－１覆土の最上層にのみ観察できる。なお、Ⅱ層はⅣ層の上層に観察できることから、水田の開墾は中世以降と推測できる。Ⅵ層は広域の層序には確認できない As-C を含む砂質土で、牛池川の氾濫に伴う堆積砂の可能性が想定できる。以上の点から、遺構確認面はⅣ～Ⅵ層と判断した。Ⅷ層は暗灰色の粘質土で、Ⅵ層以前の谷地形の埋没土である。Ⅸ層は総社砂層で、Ⅰ－１壁面では２m以上の堆積が観察できた。Ⅵ層やⅧ層の堆積状況から、水田開墾以前の旧地形は、牛池川の浸食作用の影響を受けた、北西から南東へ下る緩傾斜地だったと推測できる。



基本層序
Ⅰ　灰褐色土　砕石・コンクリート・ビニール等多量。粘性強い、締まり強い。学校造成土。表土。
Ⅱ　灰白色土　灰白色粘土主体。粘性強い、締まり強い。水田床土。
Ⅲ　橙色土　水田に起因する鉄分の溶脱層。ⅢはⅡの下位に形成された溶脱層。Ⅲ'は砂質のⅣ層に鉄分が浸透した結果、Ⅳ層直下に形成された溶脱層。
Ⅳ　褐灰色土　As-B 主体。H-1 の埋没過程に生じた窪地にのみ観察できる。上部には As-KK の可能性がある灰色細粒火山灰のブロックが含まれており、二次的に窪地へ堆積したものと考えられる。
Ⅴ　黒褐色土　黒色土全体。As-C 多量。粘性やや強い、締まり強い。いわゆる"C 混土"。調査区南東壁でのみ観察できる。
Ⅵ　暗褐色土　硬質の砂層。As-C 中量。遺構の覆土とほぼ同系色だが、わずかに赤みを帯び、相対的に粘性が弱い。粘性やや強い、締まり強い。洪水堆積物か。遺構確認面。
Ⅶ　褐灰色土　Ⅵ～Ⅷ層への漸移層。As-C 少量。Ⅵ層土やや少量。粘性強い、締まり強い。
Ⅷ　暗灰色土　As-C を含まない粘質土。粘性強い、締まり強い。
Ⅸ　淡黄褐色土　シルト質の淡黄褐色土。総社砂層。粘性やや弱い、締まりやや弱い。

Fig.5　基本層序

Ⅴ　遺構と遺物

（1）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig. 7・16、PL. 1・7）

位置　X 235･236、Y 48　**主軸方向**　（E－19°－W）　**規模**　東西軸（1.68）m･南北軸（2.15）m･深さ 0.32 m。調査区北西端において住居跡西端部のみ調査。　**面積**　（2.91）㎡　**覆土**　最上層にⅣ層が堆積。　**床面**　硬化面不明瞭。　**重複**　Ｈ－３と重複。新旧関係はＨ－３→本遺構。　**カマド**　確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　竪穴部の中央に不整形な掘り込みをもつと推測できる。底面はⅥ層。　**出土遺物**　覆土中から土師器・須恵器の坏・甕が出土したが細片のため詳細不明。　**時期**　Ⅳ層の堆積層位から、おおむね 11 世紀と推定する。

Ｈ－２号住居跡（Fig. 7・8・16、PL. 1・2・7）

Ｈ－２は同一の竪穴部で新旧のカマドと床面をもち「改築」の住居跡と判断した。土層の堆積状況と付属施設

の重複関係から判断できる主な過程は、古段階床下土坑掘削→古段階床面（直床）・カマド構築→古段階カマド廃絶・新段階床下土坑掘削→新段階床面（貼床）構築→新段階カマド構築となる。ただし、新段階と古段階の出土土器に型式的な差異は細分できず、「改築」の時間幅は短期間と推測できる。

【H－２（新）】

位置　X 236、Y 48・49　**主軸方向**　W－８°－N　**規模**　東西軸（3.04）m・南北軸（3.81）m・深さ 0.40 m。北端は試掘時のトレンチにより確認できず。　**面積**　（8.70）㎡　**覆土**　遺構の直上はW－１に由来する As-B 混土層が被覆。覆土は全体的に焼土・灰・炭化物が多い。　**床面**　カマド周辺にしまりのやや弱い硬化面。起伏が多く、東壁際は幅広の溝状に浅く窪む。　**重複**　H－３、間接的にW－１と重複。新旧関係はH－３→本遺構（古段階→新段階）→W－１。　**カマド**　西壁北寄りで確認。全長（1.09）m・燃焼室内幅（0.33）m・煙道内幅（0.17）m。白色粘土で構築された天井～袖部が残存。内壁の被熱状況から、竪穴部壁面をあまり掘り込まない煙突状の短い煙道構造と判断した（巻頭図版２参照）。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　土層の堆積状況と古段階の床面硬化状況から、土坑１～４は新段階に伴う床下土坑と判断した。土坑１は長軸 1.11 m・短軸 0.76 m・深さ 0.22 m。土坑２は長軸 0.90 m・短軸 0.63 m・深さ 0.15 m。土坑３は長軸 0.81 m・短軸 0.63 m・深さ 0.24 m。土坑４は長軸 1.21 m・短軸 0.88 m・深さ 0.53 mで古段階の床下土坑１と重複する。いずれも不整楕円形のやや不規則な形で、粘質土化したⅨ層まで掘り込まれる。　**出土遺物**　覆土中から２・６・８・13、床面直上から３・10・11・14・15、カマド内から 18、土坑４から４が出土。２の灰釉陶器碗は大原２号窯式期の特徴をもつ。３の埦は酸化焔焼成で、同様の埦は本遺構において主体を占める。６の小皿は口端部に油煙が付着し灯明具の可能性がある。10 の土釜と 11 の鉢は旧段階の層位から出土した破片と接合する。18 の埦形滓は底面が磁着。上端～底面まで一部が残存し直径は約８cm と小さい。　**時期**　床面直上の出土遺物から 11 世紀前半と推定する。

【H－２（古）】

位置　X 236、Y 48・49　**主軸方向**　E－８°－W　**規模**　東西軸　3.17 m・南北軸（3.81）m・深さ 0.45 m。北端は試掘時のトレンチにより確認できず。　**面積**　（8.70）㎡　**覆土**　新段階の床面構築土である 16 層が古段階の覆土を兼ねる。　**床面**　カマド周辺から竪穴部東半に直床の硬化面。西半は貼床。　**重複**　H－３、間接的にW－１と重複。新旧関係はH－３→本遺構（古段階→新段階）→W－１。　**カマド**　東壁南寄りで確認。全長（1.05）m・燃焼室内幅不明・煙道内幅 0.27 m。底面は燃焼室と煙道の境が不明瞭で、煙出部にかけて緩く傾斜しながら立ち上がる。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　竪穴部南西隅に床下土坑１を確認。長軸 1.39 m・短軸 1.03 m・深さ 0.68 mで、新段階の土坑４と重複する。不整楕円形の不規則な形で、粘質土化したⅨ層まで掘り込まれる。　**出土遺物**　覆土中から７・９・12・17、床面直上から 11、カマド内から 10、掘り方から５、床下土坑１から１が出土。１の緑釉陶器碗は硬質素地で施釉は底部外面を除き全面におよぶ。底部内面には三叉トチンによる重ね焼き痕が残る。７の小皿は口端部に油煙が付着し灯明具の可能性がある。10 の土釜と 11 の鉢は新段階の層位から出土した破片と接合する。12 は残存部の形状と煤の付着状況から有頸形態の竈形土製品と判断した（Ⅵ章参照）。　**時期**　出土遺物から 11 世紀前半と推定する。

H－３号住居跡（Fig. ８・９・16、PL. ２・7）

位置　X 236、Y 48　**主軸方向**　（N－63°－E）　**規模**　東西軸（3.08）m・南北軸（3.40）m・深さ 0.68 m。調査区北東端において住居跡南西部のみ調査。　**面積**　（7.29）㎡　**覆土**　遺構の直上は 10 ～ 11 世紀の遺物包含層が被覆。覆土には角閃石安山岩の小粒が目立ち、中層以下には炭化物が目立つ。　**床面**　壁際を除くほぼ全面にしまりのやや弱い硬化面。直上に炭化材が残存し焼失家屋の可能性がある。土坑１は床面を掘り込む。長軸 0.60 m・短軸 0.55 m・深さ 0.07 mで隅丸方形を呈する。火床面や灰層は確認できない。位置関係から南西の柱

穴の可能性もあるが浅い。　**重複**　Ｈ－１・２と重複。新旧関係は本遺構→Ｈ－２→Ｈ－１。　**カマド・炉**　確認できず。　**貯蔵穴**　南西隅部に床面を掘り込む土坑が確認でき、構築位置から貯蔵穴と判断した。長軸 0.55 m・短軸 0.53 m・深さ 0.12 m。出土遺物はない。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　調査範囲では全周。　**掘り方**　竪穴部の中心が弱く窪むと推測できる。西壁際には掘削工具痕が明瞭に観察できる。底面はⅨ層。　**出土遺物**　覆土中から１～３が出土。１は内斜口縁坏の細片。　**時期**　重複関係と出土遺物から５世紀末葉～６世紀初頭と推定する。

Ｈ－４号住居跡（Fig. 9・10・17・18、PL. 2・3・7・8）

位置　X 235・236、Y 50・51　**主軸方向**　（E － 17°－ W）　**規模**　東西軸（5.03）m・南北軸（6.61）m・深さ 0.21 m。調査区北側において住居跡東半のみ調査。　**面積**　（19.14）㎡　**覆土**　土質はⅥ層に似るが焼土や炭化物を含む。重複するＨ－５覆土に比べ全体的にやや暗色。　**床面**　貼床。東壁際から竪穴部の北半にかけてしまりのやや弱い硬化面。17の台石は床面直上出土で、東側に火床面を伴う浅い窪みが付く。窪みの覆土（22・23層）や台石の表面に鍛造剥片等は確認できない。土坑１は床面を掘り込む。長軸 0.54 m・短軸 0.38 m・深さ 0.10 mで楕円形を呈する。　**重複**　Ｈ－５・８・９、Ｂ－１、Ｗ－２、Ｄ－３～５と重複。新旧関係はＨ－８（→Ｄ－５）→Ｄ－４（→Ｈ－９）→Ｗ－２・Ｄ－３→本遺構→Ｈ－５。　**カマド**　東壁中央で確認。全長 1.50 m・燃焼室内幅 0.48 m・煙道内幅 0.29 m。白色粘土で構築された煙道天井部が一部残存。焚口部は内幅 0.39 mで、右袖には砂岩の加工材と 12 の平瓦、左袖には 13 の「方光」銘押印丸瓦を用い、それぞれ据え穴を掘り込んで設置する。煙道は長く底面は平坦で、壁面は被熱が顕著。崩落した構築材と判断できる礫群の直下から６の小皿が正位で出土。焚口部手前の覆土最下層には、砂岩の扁平な加工材が安置遺棄されており、本来は焚口部天井の懸架材だったと推測できる。構造と廃絶状況は、重複するＨ－５のカマドに似る。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　南半部は遺構の重複が激しく、掘り方の詳細は判断し難い。カマド前面付近が不整方形に浅く窪む。底面はⅥ～Ⅷ層。床下土坑１・２は重複関係をもち、土坑１の方が古い。遺物の垂直分布状況から本遺構の掘り方に伴う掘り込みと判断した。最終的に確認できたＨ－８床面での残存状況は、床下土坑１が長軸（0.85）m・短軸（0.76）m・深さ［0.65］m、床下土坑２が長軸（0.69）m・短軸（0.58）m・深さ［0.57］m。　**出土遺物**　覆土中から２・３・５・９・10、床面直上から７・17、カマド内から６、カマド構築材として 12・13、カマド掘り方から 16、掘り方から１・８・14・15 が出土。１の緑釉陶器碗は硬質素地で施釉は全面におよぶ。２の緑釉陶器段皿は軟質素地で施釉は全面におよぶ。３～５は灰釉陶器碗と皿で、３・５は光ヶ丘１号窯式期、４は大原２号窯式期の特徴をもつ。６～８は酸化焔焼成の小皿で、６に比べ７・８にはやや後出的な要素がみられる。９の須恵器鉢は口縁部が玉縁状を呈する。胎土は非常に精緻で、在地産須恵器に類例を見出し難い（Ⅵ章参照）。11は残存部の形状から三足土器脚部の可能性がある。13の丸瓦は凸面の四隅に「方光」銘の押印がある。同一の印影をもつ瓦は、山王廃寺と元総社明神遺跡で確認されている（Ⅵ章参照）。　**時期**　重複関係と床面直上やカマド内の出土遺物から 11 世紀前半と推定する。

Ｈ－５号住居跡（Fig.11・18、PL. 3・8）

位置　X 234・235、Y 51・52　**主軸方向**　（E － 16°－ W）　**規模**　東西軸（4.11）m・南北軸（4.75）m・深さ 0.12 m。住居跡西端は調査区外。南半部は旧地形の影響を受けて漸移的に消失。　**面積**　（9.91）㎡　**覆土**　土質はⅥ層に似るが焼土や炭化物を含む。重複するＨ－４覆土に比べ全体的にやや明色。　**床面**　ほぼ直床。カマド前面にしまりの強い硬化面。南東壁際にしまりのやや弱い硬化面。　**重複**　Ｈ－４・７・８、Ｗ－２、Ｄ－２・４・５と重複。新旧関係はＨ－８（→Ｄ－５）→Ｄ－４→Ｗ－２→Ｈ－７→Ｈ－４→本遺構→Ｄ－２。　**カマド**　東壁で確認。全長 1.43 m・燃焼室内幅 0.42 m・煙道内幅 0.15 m。焚口部の左袖には砂岩の加工材を用い、据え穴を掘り込んで設置する。右袖付近は床面が浅く掘り込まれており、詳細は判断し難い。燃焼室の奥手には安山岩の割石が立位で残存しており、出土位置から支脚と判断した。煙道は長く底面は平坦で、壁面は被熱が顕

著。崩落した構築材と判断できる礫群とともに３の高台付埦が出土。焚口部手前の床面直上には、砂岩の扁平な加工材が破損遺棄されており、本来は焚口部天井の懸架材だったと推測できる。構造と廃絶状況は、重複するＨ－４のカマドに似る。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　床下土坑等は確認できない。底面はⅥ層。　**出土遺物**　覆土中から１・２、床面直上から４、カマド内から３が出土。１の灰釉陶器碗は光ヶ丘１号窯式期ないし黒笹90号窯式期の特徴をもつ。２・３の高台付埦は高台径が非常に小さく、胎土も非常に粗い。４の小皿は扁平で底径が大きく、見込部に強い指頭圧痕列が残る。地域編年の標識資料である鳥羽遺跡Ｂ区332号土坑出土資料と同型式と判断できる。　**時期**　重複関係と床面直上やカマド内の出土遺物から11世紀後半と推定する。

Ｈ－６号住居跡（Fig.12・18、PL. ３・４・８）

位置　X 235・236、Y 51・52　**主軸方向**　（E － 45°－ W）　**規模**　東西軸（4.42）m・南北軸（4.24）m・深さ0.33 m。調査区北端において住居跡西端のみ調査できた。　**面積**　（15.41）　**覆土**　遺構の直上は９～11世紀の遺物包含層が被覆。覆土はAs-Cや角閃石安山岩の小粒を含む。　**床面**　北半は貼床。部分的にしまりの強い硬化面。　**重複**　Ｈ－10、Ｂ－１、Ｄ－２と重複し、新旧関係はＨ－10→本遺構→Ｂ－１（→遺物包含層）→Ｄ－２。　**カマド**　土坑１は床面を掘り込む。長軸（0.56）m・短軸0.55 m・深さ0.05 mで楕円形を呈する。底面は弱く被熱し、覆土は焼土・炭化物・灰を含む。カマドに関連する掘り込みの可能性がある。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　竪穴部中央が不整形に窪む。底面はⅧ層。床下土坑１は長軸0.53 m・短軸0.44 m・深さ0.13 m、床下土坑２は長軸0.54 m・短軸0.50 m・深さ0.15 m。いずれも円形で浅く、Ⅷ層を底面とする。　**出土遺物**　覆土中から３、床面直上から２、掘り方から１が出土、１は覆土中から出土した破片と接合する。底部の小径化はさほど進んでいないが、糸切り後は無調整で二次底部面を残す。２は北西壁際の床面に逆位で安置遺棄されていた。器面は使用による磨耗がなく、ざらつきがある。小型の武蔵型「くの字」甕だが口縁部の外反は弱い。　**時期**　重複関係と出土遺物から９世紀前半と推定する。

Ｈ－７号住居跡（Fig.11・18、PL. ４・８）

位置　X 234、Y 52　**主軸方向**　（E － 18°－ W）　**規模**　不明。調査区西端においてカマド煙道のみ調査できた。　**面積**　不明　**重複**　間接的にＨ－５と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－５。　**覆土**　確認できず。　**床面**　確認できず。　**カマド**　煙道のみ調査。全長不明・燃焼室内幅不明・煙道内幅（0.18）m。底面に火床面と灰層が確認できる。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　カマド内から出土した１の須恵器坏は、糸切り後は無調整で底径が小さい。　**時期**　重複関係と出土遺物から９世紀後半と推定する。

Ｈ－８号住居跡（Fig.13・18、PL. ４・８）

位置　X 235、Y 50・51　**主軸方向**　（N － 65°－ E）　**規模**　東西軸（2.77）m・南北軸（3.60）m・深さ0.33 m。調査区西端において住居跡南東部のみ調査。　**面積**　（5.31）㎡　**覆土**　As-C・Hr-FA・角閃石安山岩の小粒を含む。上層に重複するＨ－４に比べ全体的に暗色。　**床面**　貼床で、カマド・貯蔵穴の前面から竪穴部中央にかけてしまりの強い硬化面。炭化物が面的に分布し焼失家屋の可能性がある。南壁際中央付近に、緩い段状の掘り残し部をもつ。　**重複**　Ｈ－４・５・９、Ｗ－２、Ｄ－４・５と重複。新旧関係は本遺構（→Ｄ－５）→Ｄ－４（→Ｈ－９）→Ｗ－２→Ｈ－４→Ｈ－５。　**カマド**　東壁南寄りで確認。全長0.73 m・燃焼室内幅（0.32）m・煙道内幅（0.30）m。Ⅸ層土ブロックの混土を用いた左袖が残存。右袖はＨ－４床下土坑１・２と調査時のサブトレンチにより消失。燃焼室底面に弱い火床面。煙道は竪穴部壁面を掘り込まず、壁面に焼土化が確認できる。掘り方には、左袖の直下に転ばし根太ないし間仕切り溝状の小溝が確認でき、カマド構築以前は壁際に別の施設が構築されていたと推測できる。　**貯蔵穴**　南東隅部に床面を掘り込む土坑が確認でき、構築位置から貯蔵穴と判断した。長軸0.77 m・短軸0.61 m・深さ0.58 m。隅丸方形で上端に浅いテラス状の段が付く。

覆土は焼土・炭化物・灰を多く含む。土師器甕の破片が出土した。　**柱穴**　構築位置からＰ１は南東の柱穴と判断した。長軸 0.37 m・短軸 0.33 m・深さ 0.53 mで方形。　**壁周溝**　東壁際に確認できる。カマドと重複し、壁周溝の掘削後にカマドが構築される。　**掘り方**　転ばし根太ないし間仕切り溝状の小溝が確認できる。底面はⅨ層。　**出土遺物**　覆土中から１～３が出土。１・２は内斜口縁坏。　**時期**　重複関係と出土遺物から５世紀末～６世紀初頭と推定する。

Ｈ－９号住居跡（Fig.13・14・18、PL. ４・８）

位置　Ｘ 236、Ｙ 51　**主軸方向**　Ｅ－48°－Ｗ　**規模**　不明。重複する複数の遺構に破壊されており、カマドのみ調査できた。　**面積**　不明　**覆土**　確認できず。　**床面**　確認できず。　**重複**　Ｈ－４・８、Ｂ－１、Ｗ－１・２、Ｉ－１、Ｄ－３と重複。新旧関係はＨ－８（→本遺構）→Ｗ－２・Ｄ－３→Ｈ－４→Ｗ－１・Ｉ－１。　**カマド**　東壁で確認。全長 1.34 m・燃焼室内幅（0.41）m・煙道内幅 0.15 m。Ⅵ層を掘り抜いて構築された煙道天井部が一部残存。Ⅵ層を掘り残した左袖の基部がわずかに残存。右袖はＨ－４に破壊される。煙道は長く底面は平坦で、壁面は被熱が顕著。構造はＨ－４・５のカマドに似る。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　Ｈ－４掘り方から出土した１・２は本遺構から混入した可能性がある。１の土師器坏はいわゆる真間式系の半球形坏で、口縁部はやや外傾し、口縁部と底部外面の境に無調整帯を残す。２の須恵器甕は口端部の直下に断面三角形の凸帯を付す。３の臼玉は重複するＨ－８から混入した可能性がある。　**時期**　重複関係と出土遺物から８世紀後半と推定する。

Ｈ－10号住居跡（Fig.12、PL. ５）

位置　Ｘ 236、Ｙ 52　**主軸方向**　（Ｎ－59°－Ｅ）　**規模**　東西軸（3.61）m・南北軸（1.05）m・深さ 0.80 m。調査区南端において住居跡北端のみ調査できた。　**面積**　（2.00）㎡　**覆土**　上層に Hr-FA が堆積する。下層は炭化物が多く、焼失家屋の可能性がある。　**床面**　貼床だが硬化面は不明瞭。　**重複**　Ｈ－６と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－６である。　**カマド・炉**　確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　北東隅部が浅く窪む。　**出土遺物**　覆土中から土師器坏・高坏・甕、須恵器甕が少量出土したが細片のため詳細不明。　**時期**　Hr-FA の堆積層位や重複関係と出土遺物からおおむね５世紀と推定する。

（２）掘立柱建物跡

Ｂ－１号掘立柱建物跡（Fig.14、PL. ５）

位置　Ｘ 236、Ｙ 50・51　**主軸方向**　Ｎ－８°－Ｗ　**規模**　東西軸（4.28）m・南北軸（2.32）m。東側は調査区外、北側は重複するＷ－１によって消失するが、総柱式と推測できる。　**柱穴**　５基調査した。Ｐ１は長軸 0.61 m・短軸 0.60 m・深さ 0.58 m、Ｐ２は長軸 0.68 m・短軸 0.37 m・深さ 0.60 m、Ｐ３は長軸 0.57 m・短軸 0.43 m・深さ 0.42 m、Ｐ４は長軸 0.66 m・短軸 0.44 m・深さ 0.61 m、Ｐ５は調査区壁面で確認したため平面形状不明。深さ 0.49 m。芯々距離は桁行 1.87 m・梁行 1.50 m。底面標高は 118.79 m～ 119.06 m。　**覆土**　いずれの柱穴覆土も、As-C が混入する黒褐色土を主体とする。　**重複**　Ｈ－４・６・９、Ｗ－１と重複。新旧関係は（Ｈ－９→）Ｈ－６→本遺構→Ｈ－４→Ｗ－１。　**出土遺物**　覆土中から土師器・須恵器の坏・甕が出土したが細片のため詳細不明。　**時期**　重複関係から、おおむね９世紀後半～ 10 世紀前半と推定する。

（３）溝跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.14・18、PL. ５・８）

位置　Ｘ 236・237、Ｙ 50　**主軸方向**　Ｅ－20°－Ｗ　**規模**　長さ（6.14 m）・上幅 2.76 m・下幅 1.89 m・深さ 0.58 m　**形状等**　東西に走向する。断面Ｕ字状。　**重複**　Ｈ－９、Ｂ－１、Ｉ－１、Ｄ－１と重複。新旧関係はＨ－９→Ｂ－１・Ｄ－１→本遺構・Ｉ－１。Ｉ－１は本遺構の谷頭部に位置し覆土は同質であり、本遺構に付属する施設と判断した。　**覆土**　As-B を多く含む。　**出土遺物**　埋没時期に伴う遺物はなく、いずれも周囲

からの混入と判断した。１の須恵器は鉄鉢形土器。　**時期**　覆土にAs-Bを多く含むことから、おおむね12世紀以降と推定する。

W－２号溝跡（Fig.15・18・19、PL. ５・８）

位置　X 235、Y 50～52　**主軸方向**　N－14°－E　**規模**　長さ（8.03 m）・上幅1.01 m・下幅0.54 m・深さ0.44 m　**形状等**　南北に走向する。断面U字状。　**重複**　H－４・５・８・９と重複。新旧関係はH－８（→H－９）→本遺構→H－４→H－５。　**覆土**　炭化物を多く含む。葉理構造や砂層の堆積など流水の痕跡は確認できない。　**出土遺物**　覆土中から１～３・５・７・９～11、底面直上から４・６・８が出土。１の緑釉陶器は硬質素地で施釉は内外面におよぶ。２・３は灰釉陶器碗で、２は折戸53号窯式期、３は大原２号窯式期の特徴をもつ。４・７の須恵器坏は糸切り後無調整で底径小さい。８の須恵器椀は高足高台。５～６の坏・椀は酸化焔焼成で、同様の椀は本遺構において主体を占める。　**時期**　重複関係と出土遺物から10世紀前半と推定する。

（４）井戸、土坑、ピット（Fig.15・19、PL. ５・６・９）

Ⅰ－１はW－１の谷頭部に位置し覆土は同質であり、W－１に付属する施設と判断した。

D－３は位置・重複関係からW－２に関連する溝跡の一部の可能性がある。

D－４は大型の柱穴の可能性がある。

D－５はD－４に切られ、覆土は埋戻しの様相を示す。位置関係と覆土の様相からはD－５からD－４への柱の差し替えが推測でき、遺構の重複関係も鑑みると、D－５には７～８世紀代の大規模な方形の柱穴である可能性を想定できる。しかし周囲に対となる柱穴は確認できず、調査区外の問題もあり、掘立柱建物跡の柱穴かどうかは、現状では判断し難い。

なお、各遺構の計測値については、Tab. ２に示す。

Tab. ２　井戸、土坑、ピット計測表

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	平面形状	主な遺物	時期	備　　考
Ⅰ－１	X 236 Y 50	1.12	1.06	(2.30)	円形		中世以降	As-Bを含む。 底面未掘。
D－１	X 237 Y 49・50	(2.78)	(1.15)	0.62	不整形	緑釉陶器輪花椀、灰釉陶器椀・皿	平安時代	As-C・Hr-FAを含む。 W-1に切られる。
D－２	X 235 Y 51	0.82	0.39	0.26	隅丸長方形		中世以降	As-Bを含む。H5・6を切る。石組みをもつ。
D－３	X 235 Y 50	0.67	0.57	0.47	不整円形	須恵器蓋	奈良～平安時代か	As-C・Hr-FAを含む。 H-4に切られる。
D－４	X 235 Y 51	1.07	(0.28)	0.57	不明		飛鳥～奈良時代か	As-C・Hr-FAを含む。 H-8を切る。H-4・D-5に切られる。 柱痕（4層）あり。
D－５	X 235 Y 51	0.96	0.83	1.23	方形		飛鳥～奈良時代か	As-C・Hr-FAを含む。 H-8・D-4を切る。H-4に切られる。 埋戻し。
P－１	X 235 Y 52	0.65	0.57	0.41	円形	須恵器小皿	平安時代か	As-C・Hr-FAを含む。

（５）遺構外出土遺物（Fig.19、PL. ９）

１～３は遺構外や古墳～平安時代の遺構覆土中から出土した。１は縄文時代前期後葉の諸磯ｂ式、２は晩期の安行３ｂないし３ｃ式の可能性がある。３は人物埴輪の腕基部か。４の須恵器高台付坏は削り出し高台。調査区外で採集しており、周囲に７世紀後半の遺構が存在する可能性を示す。６の高台付坏は高台径が非常に小さく、胎土も非常に粗い。W－１周辺に堆積した包含層から出土した。

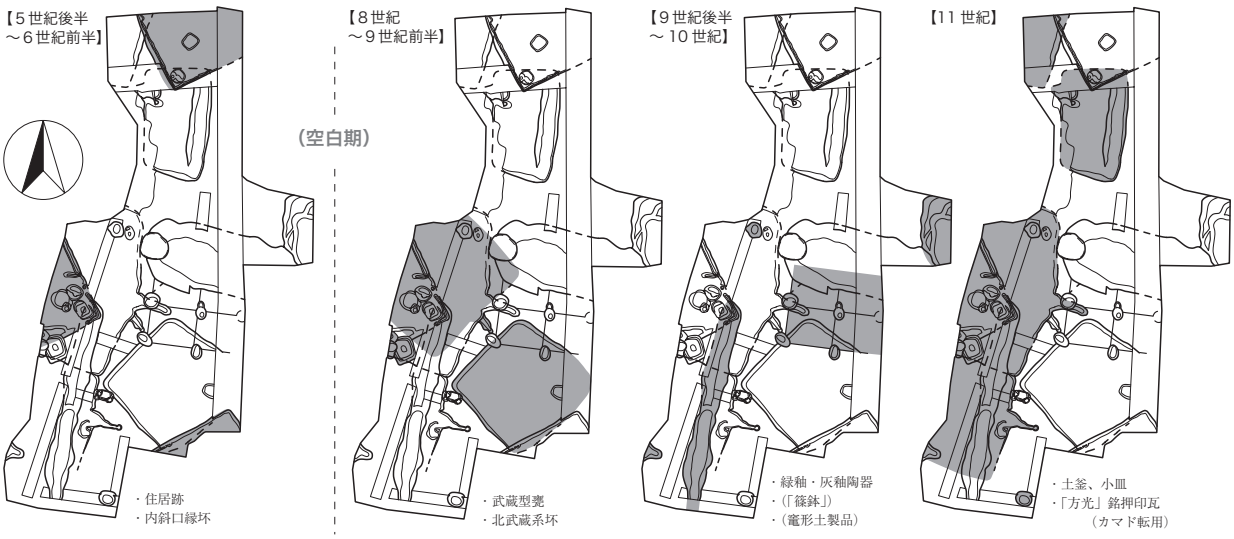
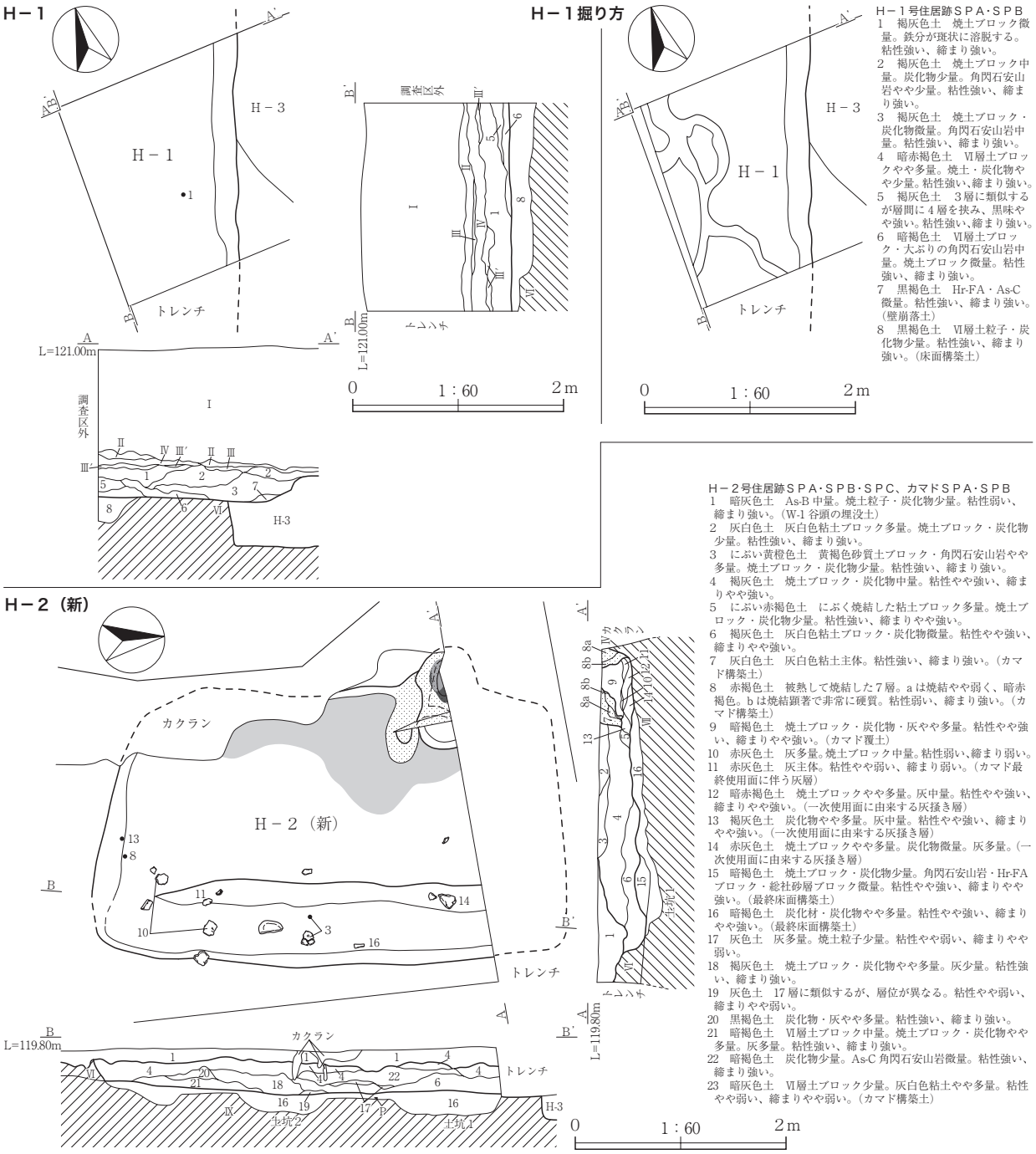


Fig. 6　時期別遺構分布（５～11世紀）

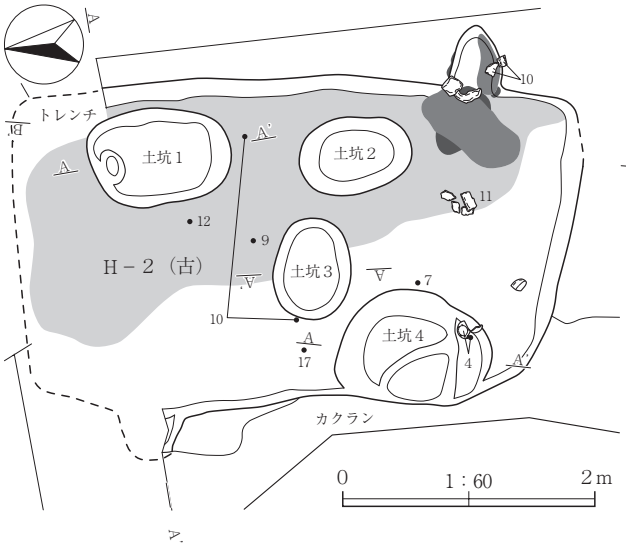


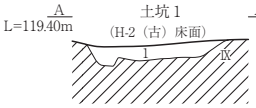
H－1号住居跡ＳＰＡ・ＳＰＢ
1　褐灰色土　焼土ブロック微量。鉄分が斑状に溶脱する。粘性強い、締まり強い。
2　褐灰色土　焼土ブロック中量。炭化物少量。角閃石安山岩やや少量。粘性強い、締まり強い。
3　褐灰色土　焼土ブロック・炭化物微量。角閃石安山岩中量。粘性強い、締まり強い。
4　暗赤褐色土　Ⅵ層土ブロックやや多量。焼土・炭化物やや少量。粘性強い、締まり強い。
5　褐灰色土　３層に類似するが層間に４層を挟み、黒味やや強い。粘性強い、締まり強い。
6　暗褐色土　Ⅵ層土ブロック・大ぶりの角閃石安山岩中量。焼土ブロック微量。粘性強い、締まり強い。
7　黒褐色土　Hr-FA・As-C微量。粘性強い、締まり強い。（壁崩落土）
8　黒褐色土　Ⅵ層土粒子・炭化物少量。粘性強い、締まり強い。（床面構築土）

H－2号住居跡ＳＰＡ・ＳＰＢ・ＳＰＣ、カマドＳＰＡ・ＳＰＢ
1　暗灰色土　As-B中量。焼土粒子・炭化物少量。粘性弱い、締まり強い。（W-1谷頭の埋没土）
2　灰白色土　灰白色粘土ブロック多量。焼土ブロック・炭化物少量。粘性強い、締まり強い。
3　にぶい黄橙色土　黄褐色砂質土ブロック・角閃石安山岩やや多量。焼土ブロック・炭化物少量。粘性強い、締まり強い。
4　褐灰色土　焼土ブロック・炭化物中量。粘性やや強い、締まりやや強い。
5　にぶい赤褐色土　にぶく焼結した粘土ブロック多量。焼土ブロック・炭化物少量。粘性強い、締まりやや強い。
6　褐灰色土　灰白色粘土ブロック・炭化物微量。粘性やや強い、締まりやや強い。
7　灰白色土　灰白色粘土主体。粘性強い、締まり強い。（カマド構築土）
8　赤褐色土　被熱して焼結した７層。ａは焼結やや弱く、暗赤褐色。ｂは焼結顕著で非常に硬質。粘性弱い、締まり強い。（カマド構築土）
9　暗褐色土　焼土ブロック・炭化物・灰やや多量。粘性やや強い、締まりやや強い。（カマド覆土）
10　赤灰色土　灰多量。焼土ブロック中量。粘性弱い、締まり弱い。
11　赤灰色土　灰主体。粘性やや弱い、締まり弱い。（カマド最終使用面に伴う灰層）
12　暗赤褐色土　焼土ブロックやや多量。灰中量。粘性やや強い、締まりやや強い。（一次使用面に由来する灰掻き層）
13　褐灰色土　炭化物やや多量。灰中量。粘性やや強い、締まりやや強い。（一次使用面に由来する灰掻き層）
14　赤灰色土　焼土ブロックやや多量。炭化物微量。灰多量。（一次使用面に由来する灰掻き層）
15　暗褐色土　焼土ブロック・炭化物少量。角閃石安山岩・Hr-FAブロック・総社砂層ブロック微量。粘性やや強い、締まりやや強い。（最終床面構築土）
16　暗褐色土　炭化材・炭化物やや多量。粘性やや強い、締まりやや強い。（最終床面構築土）
17　灰色土　灰多量。焼土粒子少量。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
18　褐灰色土　焼土ブロック・炭化物やや多量。灰少量。粘性強い、締まり強い。
19　灰色土　17層に類似するが、層位が異なる。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
20　黒褐色土　炭化物・灰やや多量。粘性強い、締まり強い。
21　暗褐色土　Ⅵ層土ブロック中量。焼土ブロック・炭化物やや多量。灰多量。粘性強い、締まり強い。
22　暗褐色土　炭化物少量。As-C角閃石安山岩微量。粘性強い、締まり強い。
23　暗灰色土　Ⅵ層土ブロック少量。灰白色粘土やや多量。粘性やや弱い、締まりやや弱い。（カマド構築土）

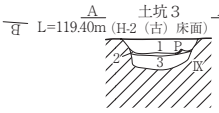
Fig.7　Ｈ－１号住居跡、Ｈ－２号住居跡①

Ｈ－２（新）掘り方・Ｈ－２（古）

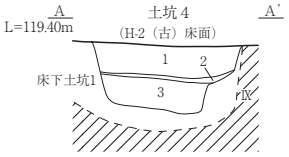




Ｈ－２号住居跡土坑１ＳＰＡ
1　暗褐色土　SPA の 16 層と同じ。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　黄褐色土　黄褐色砂質土ブロックやや多量。焼土ブロック・炭化物多量。粘性強い、締まりやや強い。
3　暗灰色土　灰白色粘土多量。焼土ブロック・炭化物やや少量。粘性強い、締まりやや強い。

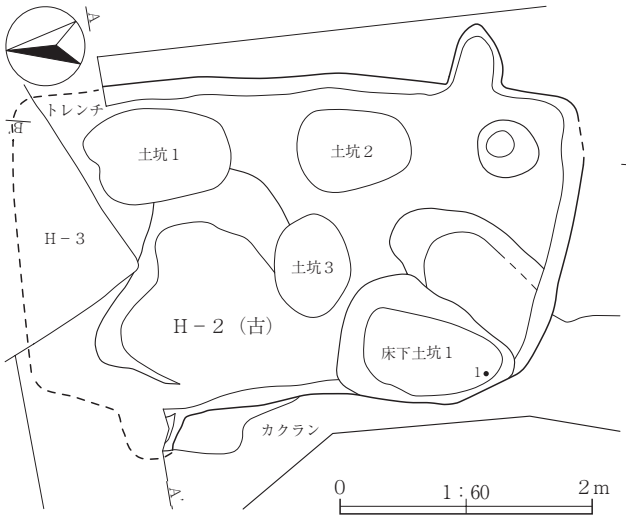


Ｈ－２号住居跡土坑３ＳＰＡ
1　暗褐色土　SPA の 16 層と同じ。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　黄褐色土　黄褐色砂質土ブロックやや多量。焼土ブロック・炭化物多量。粘性強い、締まりやや強い。
3　暗灰色土　灰白色粘土多量。焼土ブロック・炭化物やや少量。粘性強い、締まりやや強い。

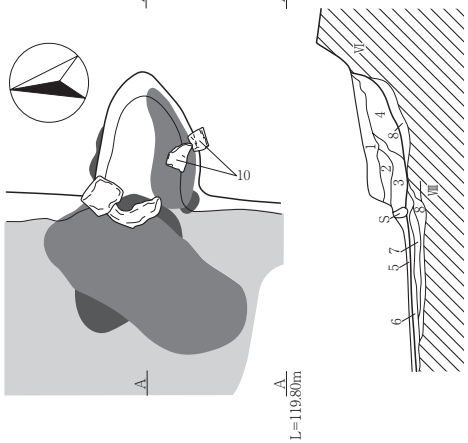


Ｈ－２号住居跡土坑４ＳＰＡ
1　暗褐色土　SPA の 16 層と同じ。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　黄褐色土　黄褐色砂質土ブロックやや多量。焼土ブロック・炭化物多量。粘性強い、締まりやや強い。
3　暗灰色土　灰白色粘土多量。焼土ブロック・炭化物やや少量。粘性強い、締まりやや強い。

Ｈ－２（古）掘り方



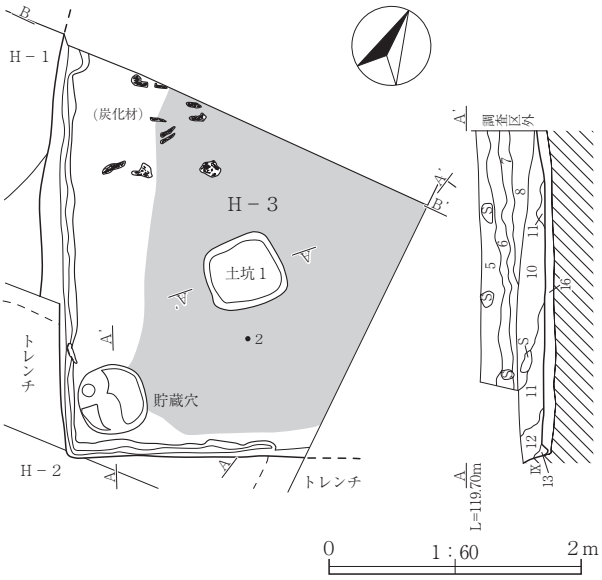
Ｈ－２（古）カマド

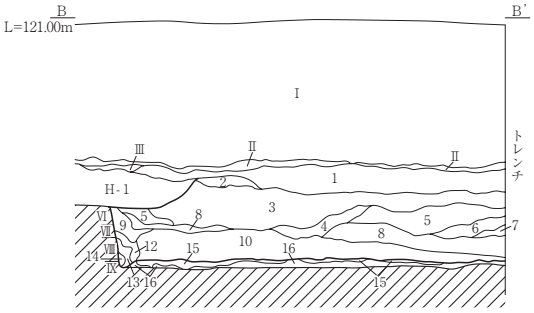


Ｈ－２号住居跡（古）カマドＳＰＡ
1　褐灰色土　焼土ブロック・炭化物微量。粘性やや弱い、締まり強い。
2　褐灰色土　砂岩ブロック少量。炭化物微量。粘性やや強い、締まりやや強い。
3　暗灰色土　焼土ブロック・炭化物やや多量。灰少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
4　暗灰色土　灰多量。焼土ブロック・灰やや少量。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
5　灰色土　灰主体。焼土ブロック少量。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
6　暗灰色土　灰主体。炭化物少量。粘性弱い、締まり弱い。
7　明赤褐色土　焼土ブロック主体。粘性弱い、締まり強い。
8　褐灰色土　炭化物・灰少量。粘性やや強い、締まりやや強い。

0　1：30　1m

Ｈ－３

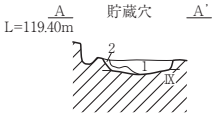




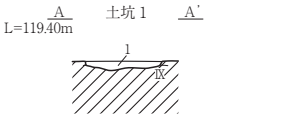
Ｈ－３号住居跡ＳＰＡ・ＳＰＢ
1　褐灰色土　H-1 の 2 層と同一。平安末の遺物を包含する。粘性中、締まり強い。
2　暗褐色土　As-C・角閃石安山岩中量。焼土粒子・炭化物少量。粘性やや強い、締まり強い。
3　黒褐色土　As-C・角閃石安山岩やや多量。焼土粒子・炭化物やや少量。Hr-FA 少量。粘性やや強い、締まり強い。
4　黒褐色土　As-C・角閃石安山岩中量。Hr-FA ブロックやや少量。焼土ブロック・炭化物少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
5　黒褐色土　As-C やや少量。角閃石安山岩やや多量。炭化物中量。粘性中、締まり強い。
6　暗褐色土　As-C・角閃石安山岩やや少量。焼土ブロック中量。粘性やや強い、締まり強い。
7　黒色土　As-C 中量。粘性やや強い、締まりやや強い。
8　暗褐色土　As-C やや多量。角閃石安山岩少量。炭化物中量。粘性やや強い、締まり強い。
9　黒色土　As-C 少量。炭化微量。粘性中、締まり中。（壁崩落土）
10　褐灰色土　As-C・Hr-FA 少量。焼土ブロック・炭化物やや多量。粘性やや強い、締まり強い。
11　暗黄褐色土　Ⅸ層土ブロック中量。粘性強い、締まり強い。
12　褐灰色土　Ⅷ層土多量。炭化物やや少量。粘性やや強い、締まりやや強い。（壁崩落土）
13　黒色土　9 層に類似。As-C 微量。粘性やや弱い、締まりやや弱い。（壁崩落土）
14　褐灰色土　12 層と同一。粘性やや強い、締まりやや強い。（壁崩落土）
15　淡黄色土　Ⅸ層土ブロック多量。硬化面を形成する。粘性中、締まり強い。（床面構築土）
16　暗褐色土　Ⅸ層土ブロックやや少量。粘性やや強い、締まりやや強い。（床面構築土）

Fig.8　Ｈ－２号住居跡②、Ｈ－３号住居跡①

H－3



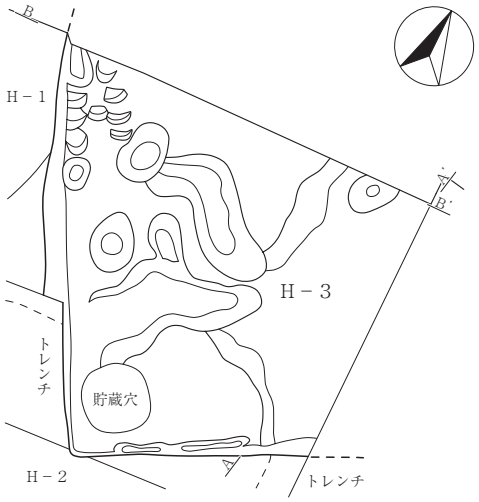
H－3号住居跡貯蔵穴ＳＰＡ
1　褐灰色土　As-C・焼土粒子・炭化物少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　淡黄褐色土　Ⅸ層土主体。褐灰色土ブロック少量。粘性やや強い、締まりやや強い。



H－3号住居跡土坑１ＳＰＡ
1　褐灰色土　Ⅸ層土ブロック中量。焼土ブロック・炭化物やや少量。粘性やや強い、締まりやや強い。

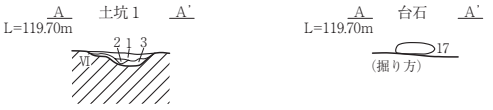
0　1：60　2m

H－3掘り方



H－4

H－4号住居跡ＳＰＡ・ＳＰＢ、カマドＳＰＡ～ＳＰＤ
1　暗褐色土　As-C やや少量。焼土ブロック・炭化物少量。粘性強い、締まり強い。
2　褐灰色土　As-C 微量。鉄分が斑状に溶脱する。粘性強い、締まり強い。
3　暗褐色土　As-C 中量。角閃石安山岩・焼土粒子・炭化物少量。粘性強い、締まり強い。
4　暗褐色土　カマド構築材に由来する砂岩ブロック多量。炭化物少量。粘性強い、締まり強い。（カマド天井崩落土）
5　黒褐色土　As-C・Hr-FA・角閃石安山岩少量。粘性強い、締まり強い。
6　暗褐色土　As-C・Hr-FA 微量。黄褐色砂・砂岩ブロック少量。焼土・炭化物少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
7　褐灰色土　角閃石安山岩微量。灰白色粘土やや少量。粘性強い、締まり強い。
8　黒褐色土　砂岩ブロック・焼土ブロック・炭化物中量。粘性やや強い、締まりやや強い。（カマド天井崩落土）
9　灰白色土　灰白色粘土ブロック主体。粘性強い、締まり強い。（カマド煙道覆土）
10　暗灰色土　焼土ブロック・炭化物やや少量。灰多量。粘性やや強い、締まりやや弱い。（カマド覆土）
11　黒褐色土　焼土ブロック・炭化物少量。粘性やや強い、締まりやや弱い。（カマド煙道覆土）
12　灰色土　灰多量。焼土ブロック・炭化物微量。粘性やや強い、しまりやや弱い。（煙道使用面）
13　暗灰色土　焼土ブロック・炭化物・灰やや少量。粘性やや強い、締まりやや強い。（カマド覆土）
14　暗赤褐色土　焼土ブロック中量。粘性やや弱い、締まりやや弱い。（カマド燃焼室壁面崩落土）
15　赤褐色土　焼土主体。粘性弱い、締まり強い。（火床面）
16　黒褐色土　焼土ブロック・炭化物やや少量。粘性やや弱い、締まりやや弱い。（カマド煙道掘り方覆土）
17　赤褐色土　焼結した粘質土。粘性弱い、締まり強い。（煙道部天井内壁の残存部）
18　黒褐色土　焼土ブロック・炭化物やや少量。粘性弱い、締まり弱い。（煙出し部覆土）
19　黒褐色土　焼土ブロックやや多量。土器小片や石片を多く含む。粘性弱い、締まり弱い。（煙出し部壁面崩落土）
20　暗赤褐色土　焼土ブロック多量。粘性弱い、締まり弱い。（煙出し部壁面崩落土）
21　暗灰色土　焼土粒子・炭化物・灰やや少量。粘性弱い、締まり弱い。（煙出し部覆土）
22　黒褐色土　焼土ブロック少量。炭化物中量。粘性中、締まり中。
23　暗黄褐色土　Ⅸ層土ブロックやや多量。粘性中、締まり強い。
24　暗褐色土　焼土ブロック中量。炭化物多量。粘性やや強い、締まり強い。
25　褐灰色土　焼土ブロック・炭化物微量。Ⅸ層土中量。粘性やや強い、締まりやや強い。（床面構築土）
26　暗褐色土　焼土ブロック少量。炭化物中量。As-C 微量。粘性やや強い、締まりやや強い。（床面構築土）
27　暗褐色土　焼土粒子・炭化物やや多量。粘性やや強い、締まりやや強い。（B-1・P1 覆土）
28　黒褐色土　焼土粒子・炭化物やや少量。粘性やや強い、締まりやや強い。（B-1・P1 覆土）



H－4号住居跡土坑１ＳＰＡ
1　褐灰色土　灰白色粘土ブロック中量。焼土・炭化物少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　黒褐色土　焼土ブロック・炭化物やや多量。粘性やや強い、締まりやや強い。
3　暗褐色土　Ⅵ層土主体。焼土ブロック・炭化物少量。粘性強い、締まり強い。

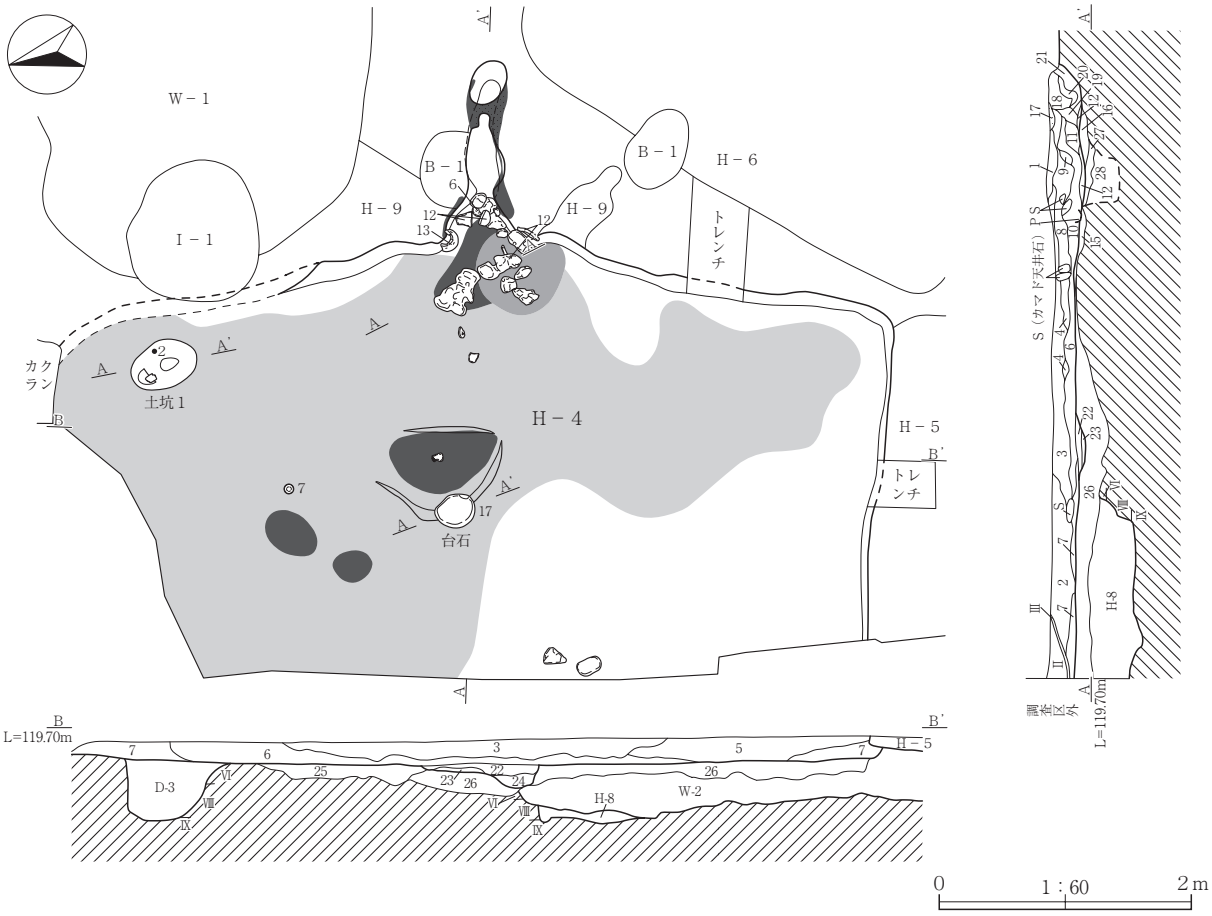


Fig. 9　Ｈ－３住居跡②、Ｈ－４号住居跡①

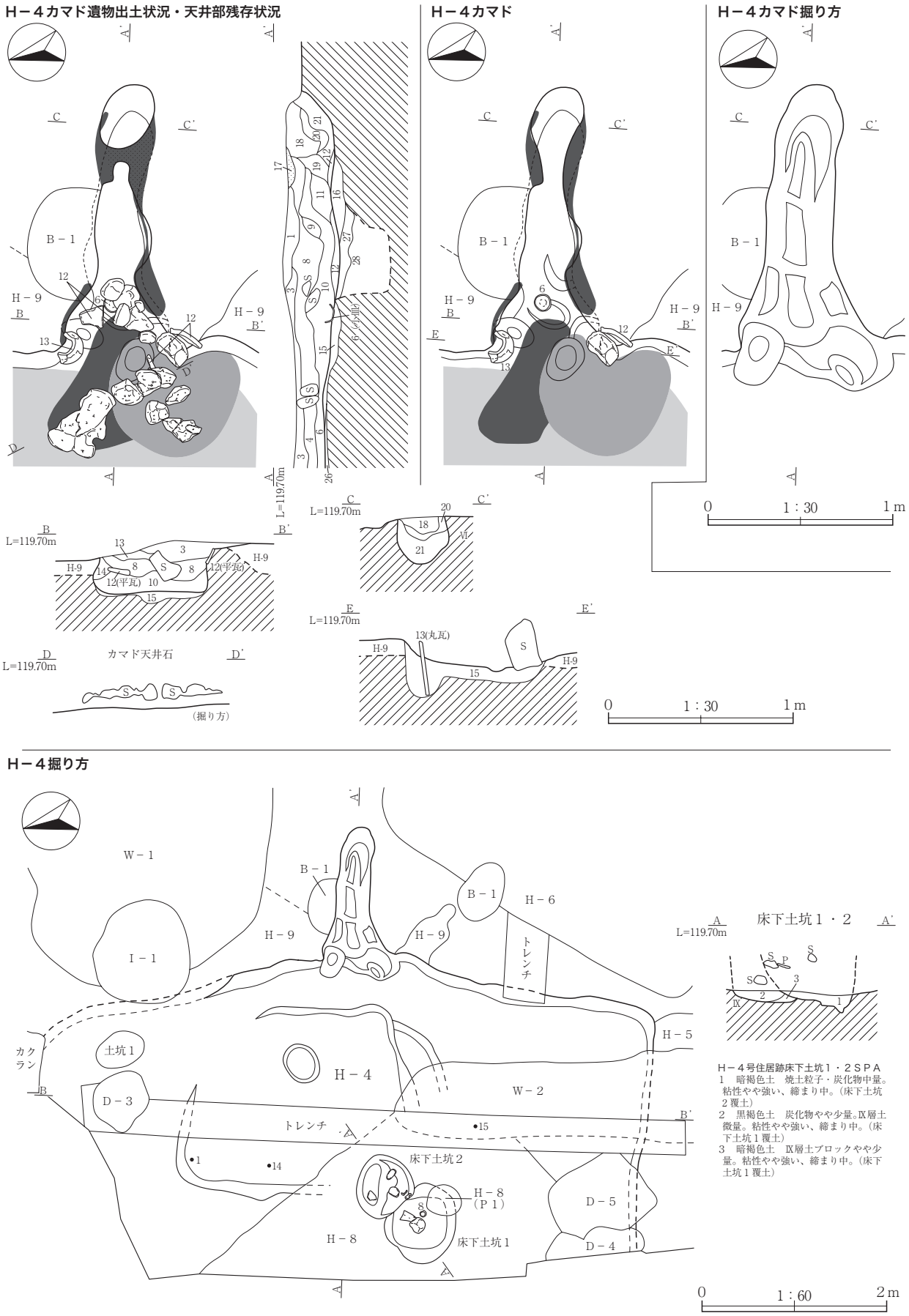
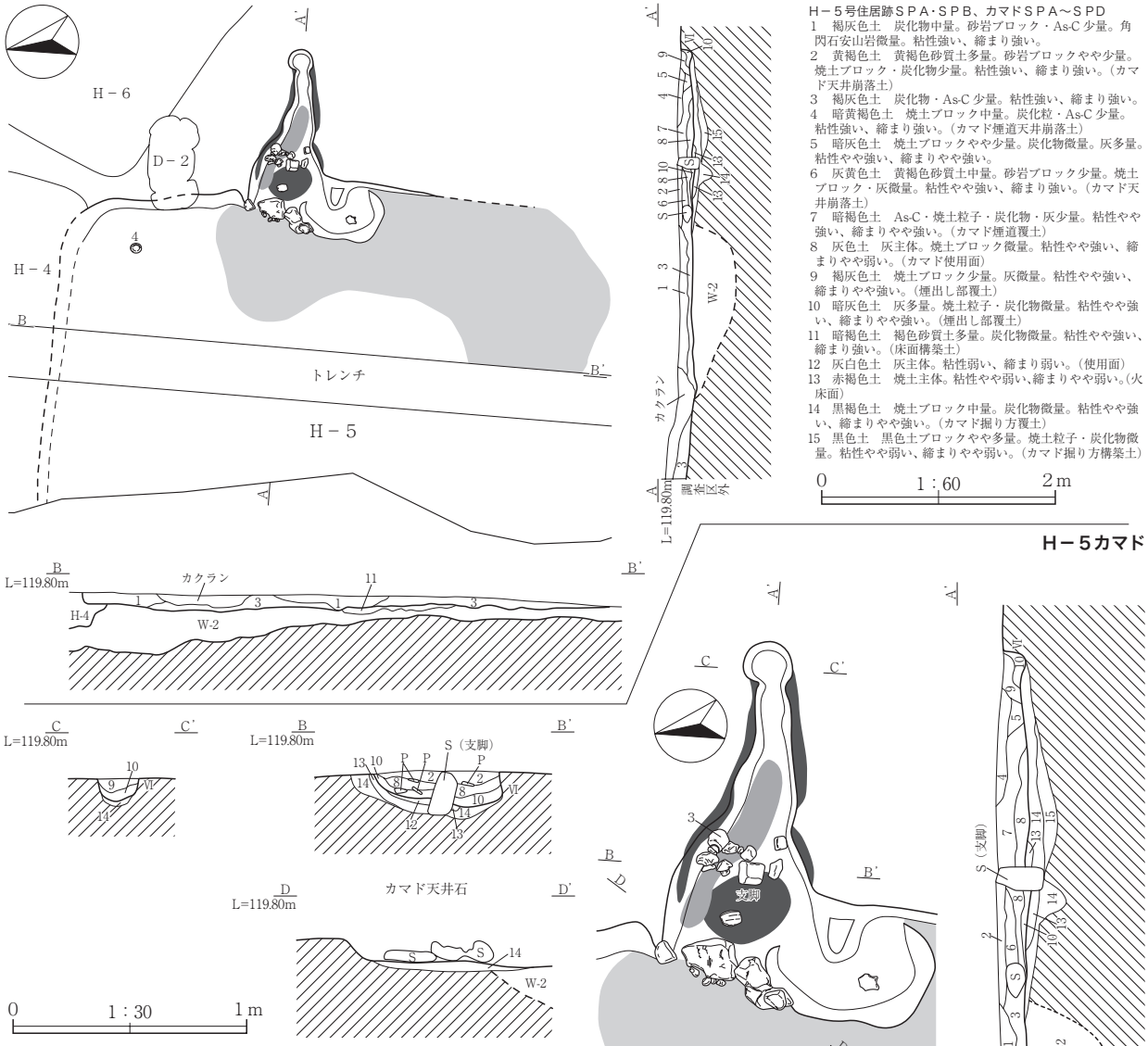


Fig.10 H－4号住居跡②

H－5



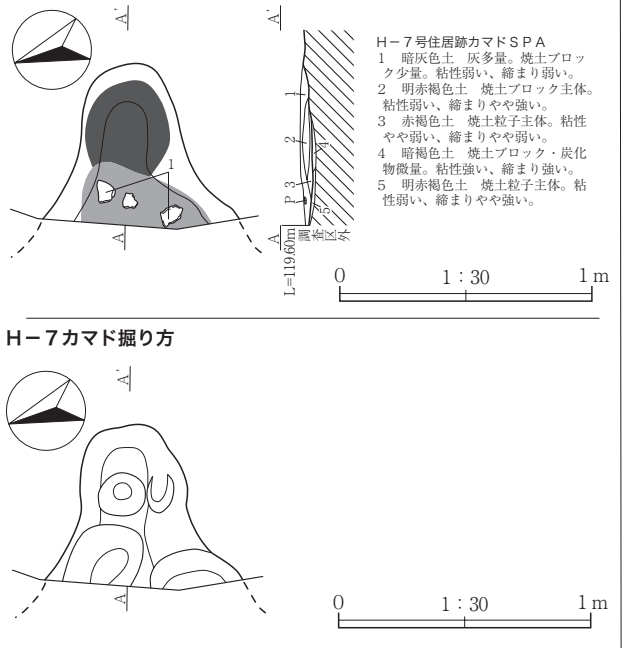
H－5号住居跡ＳＰＡ・ＳＰＢ、カマドＳＰＡ～ＳＰＤ

1　褐灰色土　炭化物中量。砂岩ブロック・As-C 少量。角閃石安山岩微量。粘性強い、締まり強い。
2　黄褐色土　黄褐色砂質土多量。砂岩ブロックやや少量。焼土ブロック・炭化物少量。粘性強い、締まり強い。（カマド天井崩落土）
3　褐灰色土　炭化物・As-C 少量。粘性強い、締まり強い。
4　暗黄褐色土　焼土ブロック中量。炭化粒・As-C 少量。粘性強い、締まり強い。（カマド煙道天井崩落土）
5　暗灰色土　焼土ブロックやや少量。炭化物微量。灰多量。粘性やや強い、締まりやや強い。
6　灰黄色土　黄褐色砂質土中量。砂岩ブロック少量。焼土ブロック・灰微量。粘性やや強い、締まり強い。（カマド天井崩落土）
7　暗褐色土　As-C・焼土粒子・炭化物・灰少量。粘性やや強い、締まりやや強い。（カマド煙道覆土）
8　灰色土　灰主体。焼土ブロック微量。粘性やや強い、締まりやや弱い。（カマド使用面）
9　褐灰色土　焼土ブロック少量。灰微量。粘性やや強い、締まりやや強い。（煙出し部覆土）
10　暗灰色土　灰多量。焼土粒子・炭化物微量。粘性やや強い、締まりやや強い。（煙出し部覆土）
11　暗褐色土　褐色砂質土多量。炭化物微量。粘性やや強い、締まり強い。（床面構築土）
12　灰白色土　灰主体。粘性弱い、締まり弱い。（使用面）
13　赤褐色土　焼土主体。粘性やや弱い、締まりやや弱い。（火床面）
14　黒褐色土　焼土ブロック中量。炭化物微量。粘性やや強い、締まりやや強い。（カマド掘り方覆土）
15　黒色土　黒色土ブロックやや多量。焼土粒子・炭化物微量。粘性やや弱い、締まりやや弱い。（カマド掘り方構築土）

H－5カマド

H－5カマド掘り方

H－7カマド



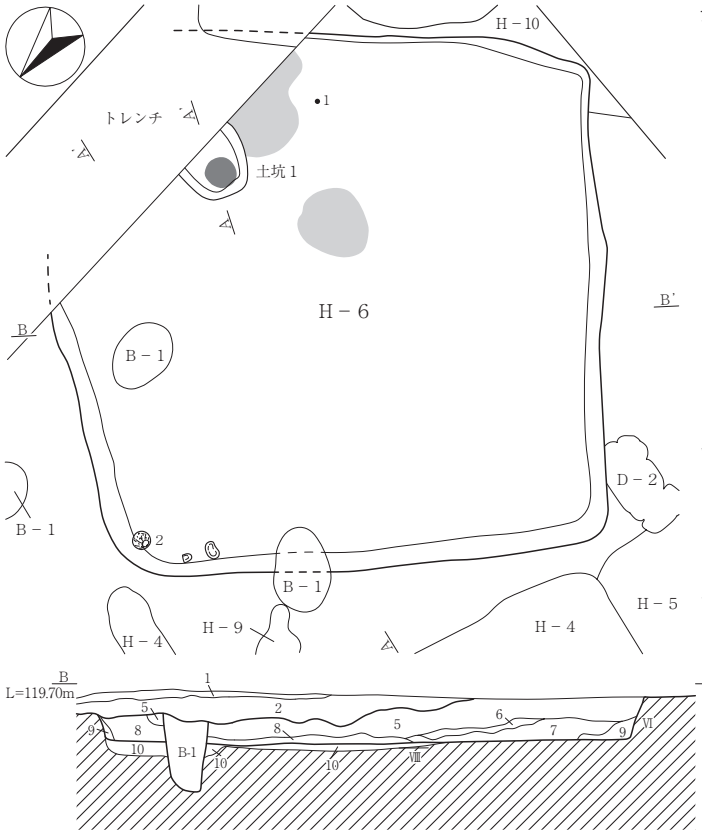
H－7号住居跡カマドＳＰＡ

1　暗灰色土　灰多量。焼土ブロック少量。粘性弱い、締まり弱い。
2　明赤褐色土　焼土ブロック主体。粘性弱い、締まりやや強い。
3　赤褐色土　焼土粒子主体。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
4　暗褐色土　焼土ブロック・炭化物微量。粘性強い、締まり強い。
5　明赤褐色土　焼土粒子主体。粘性弱い、締まりやや強い。

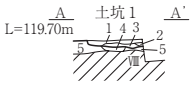
H－7カマド掘り方

Fig.11　H－5・7号住居跡

H－6



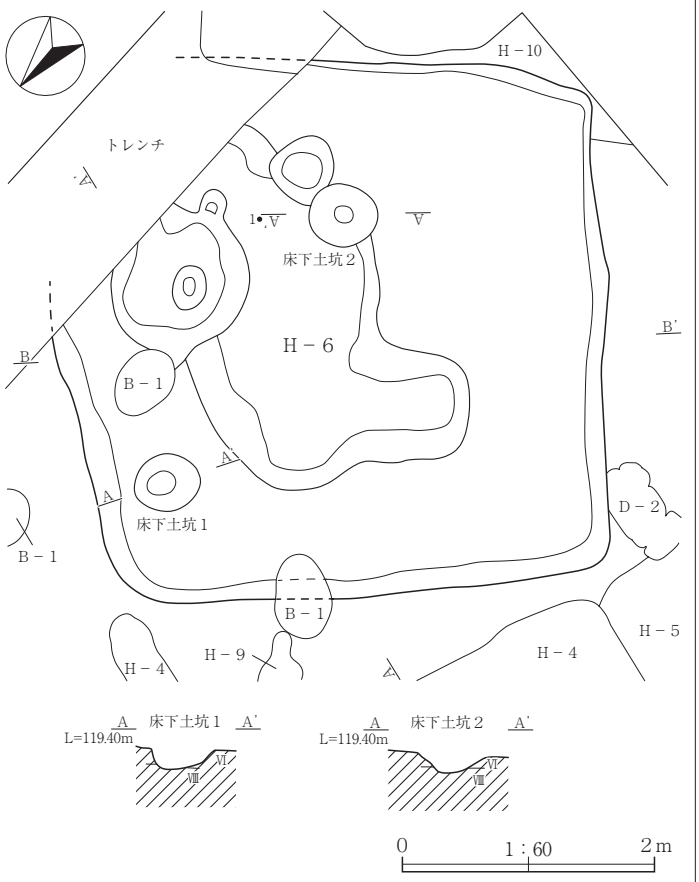
H－6号住居跡ＳＰＡ・ＳＰＢ
1　橙色土　基本層序Ⅲ′層に相当。
2　黒褐色土　As-C・炭化物少量。9～11c の遺物を包含する。粘性やや強い、締まりやや強い。（調査区中央に分布する包含層の覆土）
3　暗褐色土　As-C・角閃石安山岩やや多量。炭化物少量。遺物をほとんど包含しない。粘性やや強い、締まりやや強い。
4　黒色土　黒色土主体。As-C・角閃石安山岩やや多量。粘性やや強い、締まりやや強い。
5　暗褐色土　焼土粒子・炭化物少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
6　黒褐色土　3層に類似するが、色調明るい。粘性やや強い、締まりやや強い。
7　暗赤褐色土　Ⅵ層土やや多量。炭化物少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
8　黒褐色土　焼土ブロック・炭化物やや多量。粘性やや強い、締まりやや強い。
9　暗褐色土　Ⅵ層土中量。焼土粒子やや少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
10　暗灰色土　Ⅸ層土ブロックやや少量。焼土粒子・炭化物少量。粘性やや強い、締まりやや強い。（床面構築土）
11　褐灰色土　焼土ブロック・炭化物やや少量。Ⅸ層土粒子少量。粘性強い、締まり強い。（掘り方覆土）
12　黒褐色土　Ⅸ層土ブロックやや多量。焼土ブロック微量。粘性強い、締まり強い。（掘り方覆土）
13　暗灰色土　Ⅷ層土主体。炭化物少量。粘性強い、締まり強い。（掘り方覆土）



H－6号住居跡土坑1ＳＰＡ
1　黒褐色土　SPA・SPB の８層と同一。
2　赤褐色土　焼土粒子多量。焼土ブロック少量。粘性やや弱い、締まり中。
3　明赤褐色土　焼土ブロック・炭化物・灰多量。粘性やや弱い、締まり中。
4　灰色土　灰主体。焼土粒子微量。粘性弱い、締まり弱い。
5　暗灰色土　SPA・SPB の 10 層と同一。

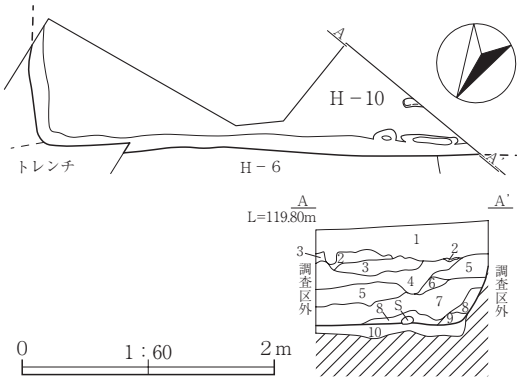
0　1：60　2m

H－6掘り方



0　1：60　2m

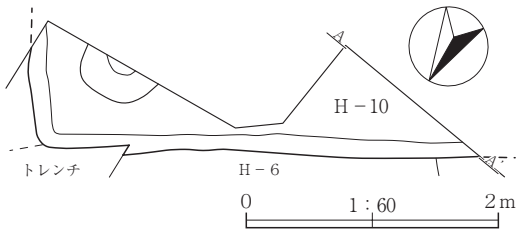
H－10



0　1：60　2m

H－10号住居跡ＳＰＡ
1　暗灰色土　As-C・Hr-FA 少量。焼土粒子・炭化物微量。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　淡黄褐色土　Hr-FA 主体。複数のユニットがまだらに混在。粘性弱い、締まり中。（Hr-FA 洪水層か）
3　暗褐色土　As-C 少量。Hr-FA 中量。炭化物微量。粘性やや強い、締まりやや強い。
4　黒褐色土　As-C 中量。炭化物やや少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
5　黒褐色土　As-C・Hr-FA ブロック少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
6　黒褐色土　As-C 中量。Hr-FA ブロックやや多量。粘性やや強い、締まりやや強い。
7　黒色土　As-C 多量。焼土ブロック・炭化物やや少量。粘性やや強い、締まり中。
8　黒褐色土　Ⅸ層土ブロックやや多量。炭化物・灰やや多量。粘性やや強い、締まりやや強い。
9　暗褐色土　Ⅸ層土ブロック多量。炭化物中量。粘性中、締まり中。
10　黄褐色土　Ⅸ層土ブロック多量。黒色土やや多量。粘性強い、締まり強い。（床面構築土）

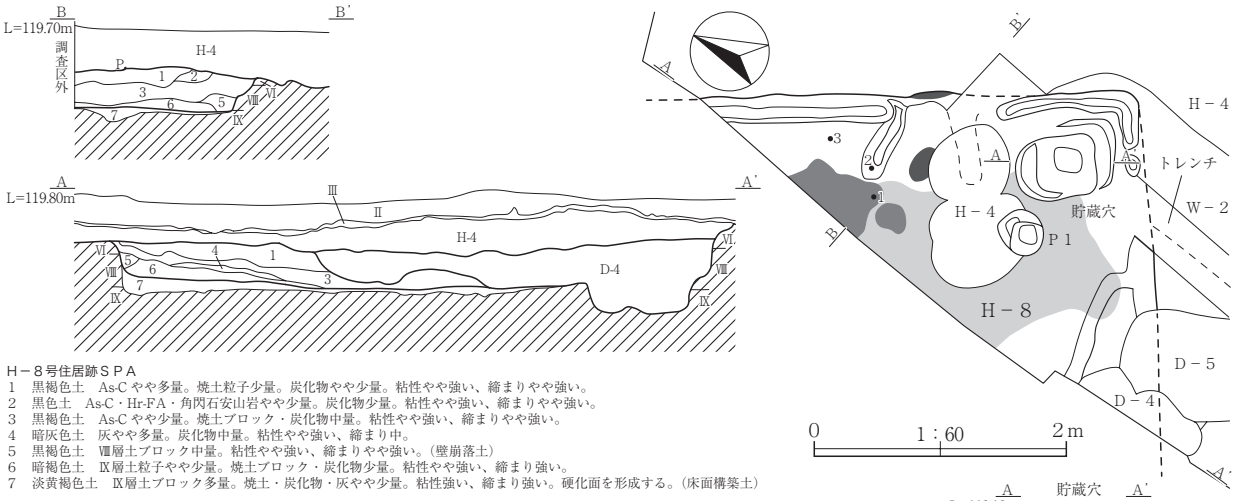
H－10掘り方



0　1：60　2m

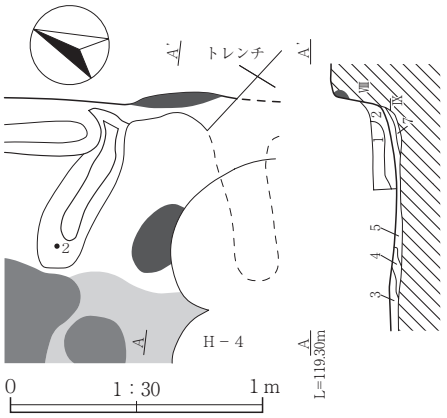
Fig.12　H－6・10号住居跡

Ｈ－８

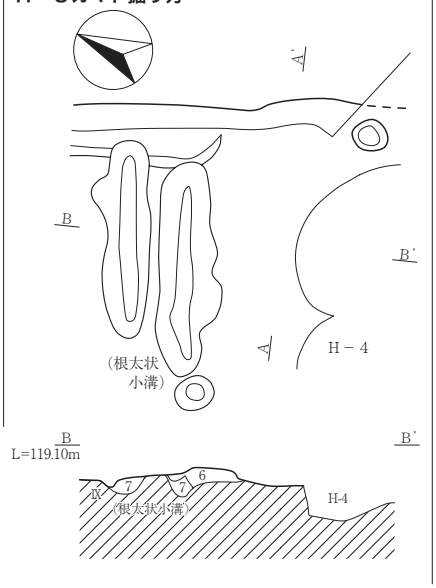


Ｈ－８号住居跡ＳＰＡ
1　黒褐色土　As-Cやや多量。焼土粒子少量。炭化物やや少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　黒色土　As-C・Hr-FA・角閃石安山岩やや少量。炭化物少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
3　黒褐色土　As-Cやや少量。焼土ブロック・炭化物中量。粘性やや強い、締まりやや強い。
4　暗灰色土　灰やや多量。炭化物中量。粘性やや強い、締まり中。
5　黒褐色土　Ⅷ層土ブロック中量。粘性やや強い、締まりやや強い。（壁崩落土）
6　暗褐色土　Ⅸ層土粒子やや少量。焼土ブロック・炭化物少量。粘性やや強い、締まり強い。
7　淡黄褐色土　Ⅸ層土ブロック多量。焼土・炭化物・灰やや少量。粘性強い、締まり強い。硬化面を形成する。（床面構築土）

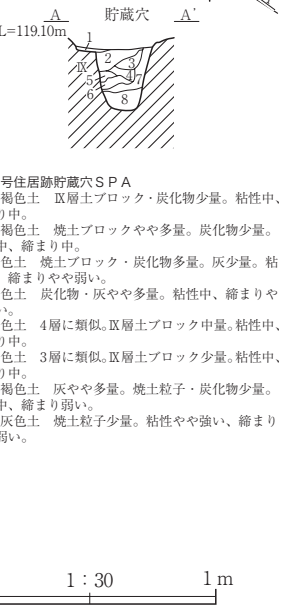
Ｈ－８カマド



Ｈ－８カマド掘り方

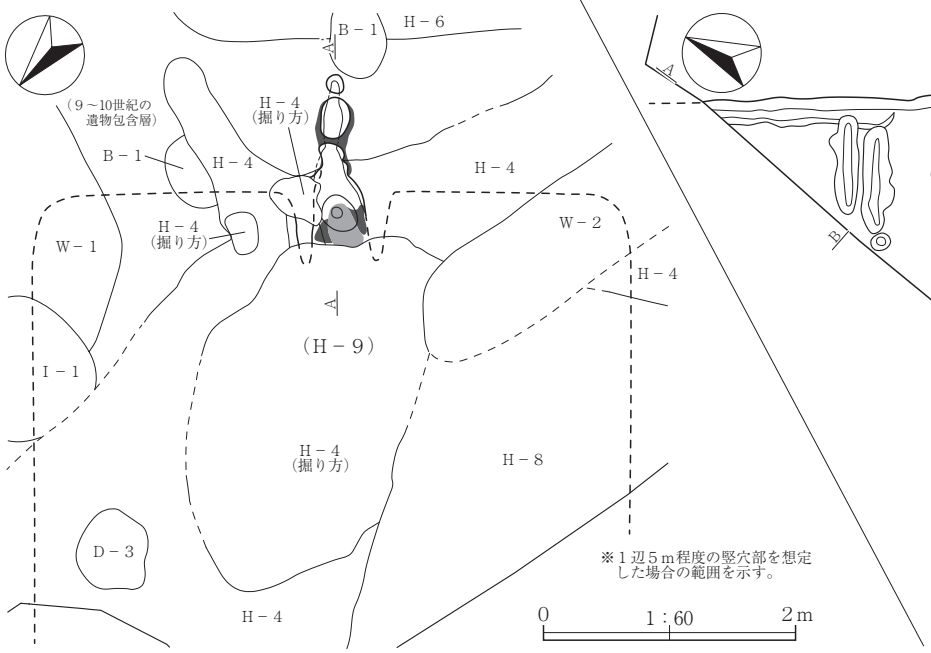


Ｈ－８号住居跡カマドＳＰＡ・ＳＰＢ
1　黒色土　Ⅸ層土ブロック少量。炭化物中量。粘性中、締まり中。
2　暗灰色土　Ⅸ層土粒子中量。粘性強い、締まりやや強い。
3　淡黄褐色土　SPA の７層と同一。
4　明赤褐色土　焼土粒子主体。粘性中、締まり中。（火床面）
5　黄褐色土　Ⅸ層土主体。焼土ブロック・炭化物やや少量。粘性やや強い、締まりやや強い。（カマド掘り方覆土）
6　淡黄褐色土　Ⅸ層土ブロック主体。Ⅷ層土中量。粘性中、締まり中。（袖構築土）
7　黒褐色土　炭化物やや多量。粘性やや弱い、締まりやや弱い。（根太覆土）



Ｈ－４号住居跡貯蔵穴ＳＰＡ
1　黒褐色土　Ⅸ層土ブロック・炭化物少量。粘性中、締まり中。
2　黒褐色土　焼土ブロックやや多量。炭化物少量。粘性中、締まり中。
3　黒色土　焼土ブロック・炭化物多量。灰少量。粘性中、締まりやや弱い。
4　黒色土　炭化物・灰やや多量。粘性中、締まりやや弱い。
5　黒色土　4層に類似。Ⅸ層土ブロック中量。粘性中、締まり中。
6　黒色土　3層に類似。Ⅸ層土ブロック少量。粘性中、締まり中。
7　黒褐色土　灰やや多量。焼土粒子・炭化物少量。粘性中、締まり弱い。
8　暗灰色土　焼土粒子少量。粘性やや強い、締まりやや弱い。

Ｈ－９



Ｈ－８掘り方

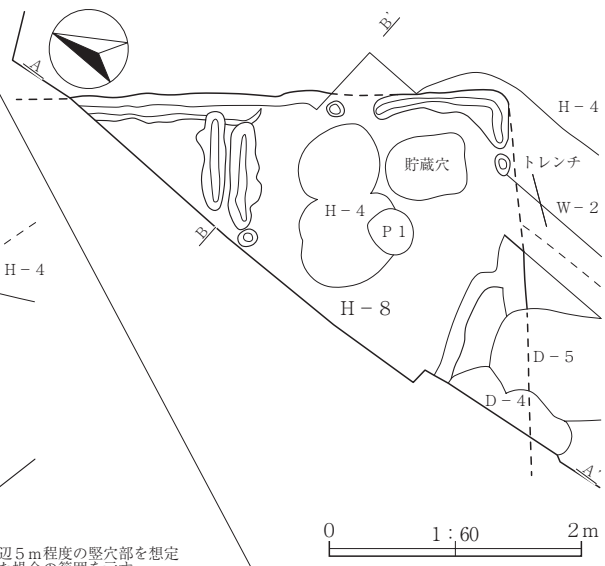
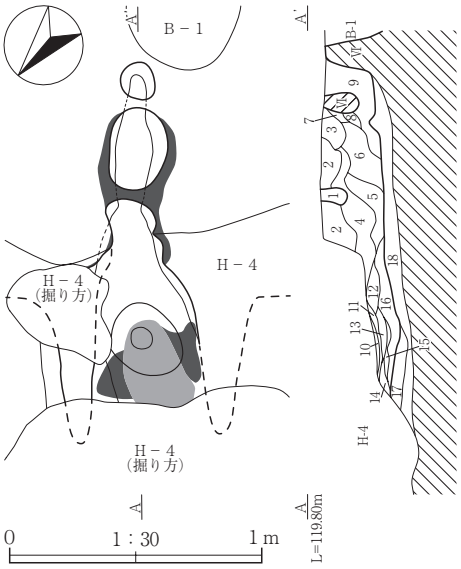


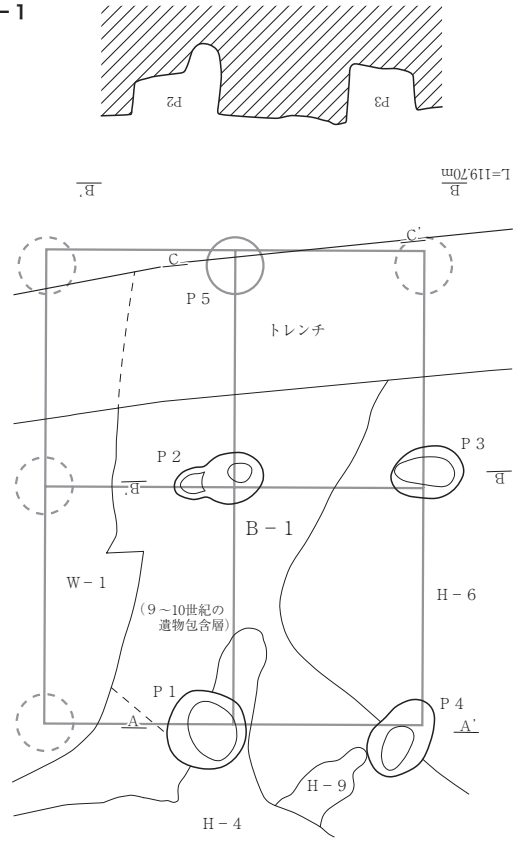
Fig.13　Ｈ－８号住居跡、Ｈ－９号住居跡①

Ｈ－９カマド

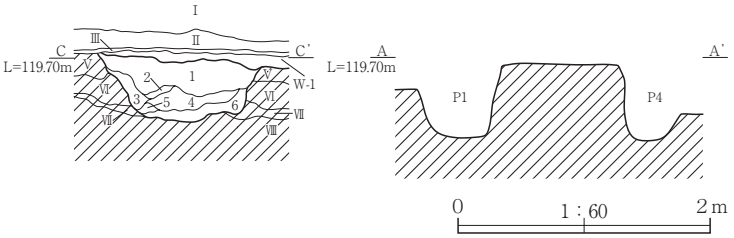


Ｈ－９号住居跡カマドＳＰＡ
1　明赤褐色土　Ⅵ層土ブロック主体。被熱し焼結が顕著。粘性弱い、締まり強い。（天井部）
2　暗褐色土　焼土ブロックやや多量。砂岩ブロック少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
3　暗赤褐色土　焼土ブロック多量。炭化物やや少量。粘性やや強い、締まりやや弱い。（天井崩落土）
4　黒褐色土　焼土ブロック・炭化物やや多量。粘性やや強い、締まりやや弱い。
5　黒色土　焼土粒子やや少量。炭化物・灰やや多量。粘性中、締まりやや弱い。
6　黒褐色土　焼土ブロック・炭化物やや少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
7　暗褐色土　Ⅳ層土多量。焼土粒子少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
8　黒色土　炭化物中量。粘性、締まりやや弱い。
9　暗褐色土　焼土粒子・炭化物微量。粘性やや強い、締まりやや強い。
10　暗灰色土　灰主体。粘性弱い、締まり弱い。（使用面④）
11　灰色土　灰主体。粘性弱い、締まり弱い。（使用面③）
12　赤褐色土　焼土ブロック多量。炭化物・灰少量。粘性やや強い、締まり弱い。
13　暗灰色土　灰多量。焼土ブロックやや少量。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
14　暗灰色土　焼土ブロック・炭化物・灰やや多量。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
15　灰白色土　灰主体。粘性弱い、締まり弱い。（使用面②）
16　暗褐色土　焼土粒子・灰やや多量。炭化物やや少量。粘性中、締まり中。
17　暗赤褐色土　焼土主体。粘性やや弱い、締まり強い。（火床面・使用面①）
18　黒褐色土　焼土粒子・炭化物微量。粘性やや強い、締まりやや強い。（掘り方覆土）

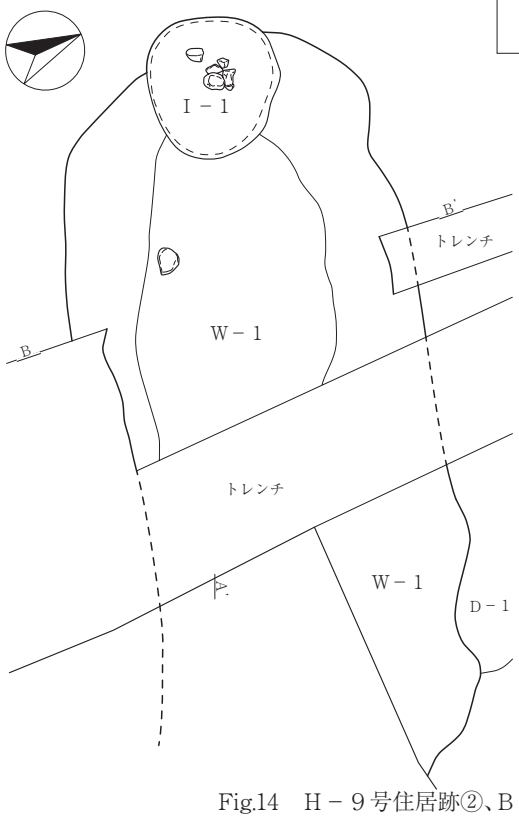
Ｂ－１

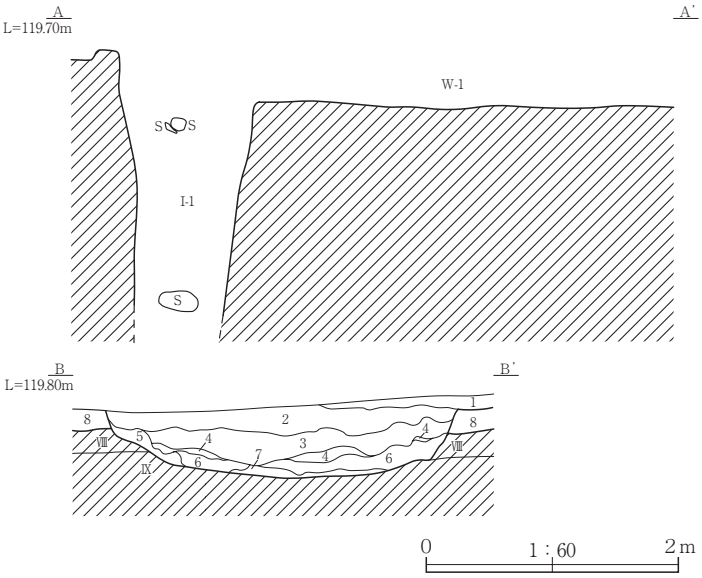


Ｂ－１号掘立柱建物跡ＳＰＣ
1　黒褐色土　As-C・角閃石安山岩やや多量。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　黒色土　As-C・角閃石安山岩やや少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
3　褐色土　Ⅵ層土粒子多量。粘性やや強い、締まりやや弱い。
4　暗褐色土　As-C やや多量。角閃石安山岩少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
5　黒色土　Ⅴ層土ブロックやや多量、As-C やや少量。粘性やや強い、締まりやや弱い。
6　黒褐色土　As-C やや多量。角閃石安山岩微量。粘性やや強い、締まりやや強い。



Ｗ－１、Ｉ－１

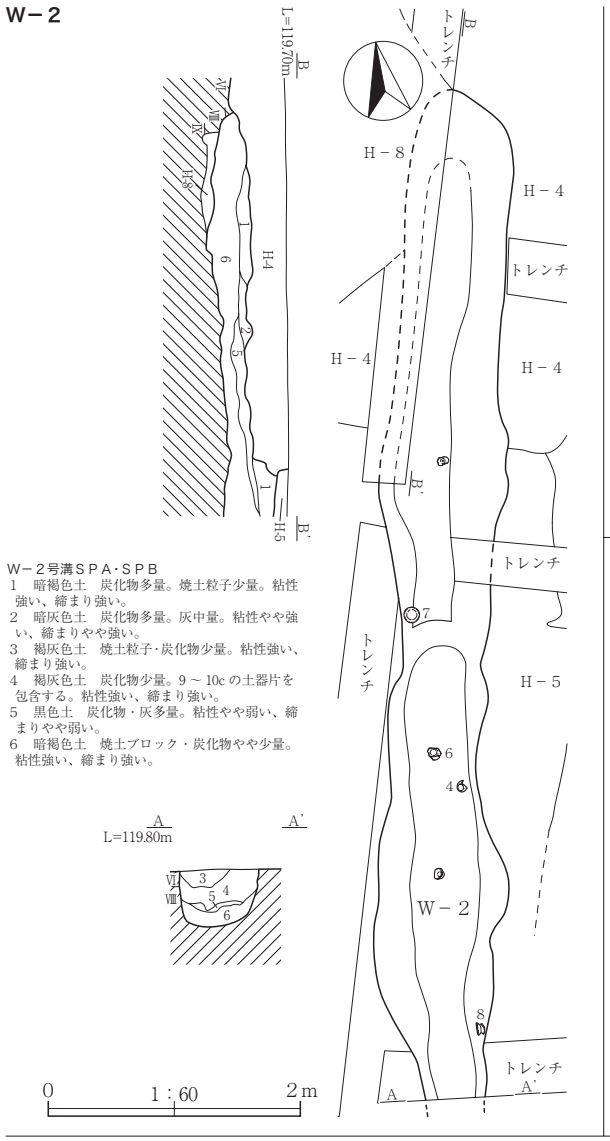




Ｗ－１号溝ＳＰＢ
1　褐灰色土　As-B 多量。黒褐色土少量。粘性弱い、締まりやや強い。
2　暗灰色土　As-B 多量。炭化物少量。粘性弱い、締まりやや強い。
3　暗灰色土　As-B 多量。焼土粒子・炭化物少量。粘性弱い、締まりやや強い。
4　灰色土　As-B 多量。細粒火山灰をまだらに含む。炭化物少量。粘性弱い、締まりやや強い。
5　黒褐色土　As-B 多量。黒色土ブロック・炭化物中量。粘性弱い、締まりやや強い。
6　暗灰色土　As-B 多量。焼土ブロック少量。粘性弱い、締まりやや強い。
7　暗灰色土　As-B 多量。Ⅸ層土ブロック中量。粘性やや強い、締まりやや強い。
8　黒色土　As-C 微量。焼土粒子・炭化物少量。粘性やや強い、締まりやや強い。（平安時代遺物包含層覆土）

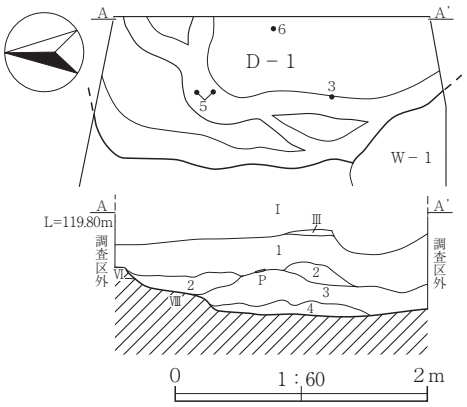
Fig.14　Ｈ－９号住居跡②、Ｂ－１号掘立柱建物跡、Ｗ－１号溝跡、Ｉ－１号井戸

W－2



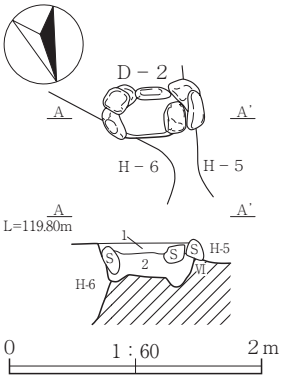
W－2号溝ＳＰＡ・ＳＰＢ
1　暗褐色土　炭化物多量。焼土粒子少量。粘性強い、締まり強い。
2　暗灰色土　炭化物多量。灰中量。粘性やや強い、締まりやや強い。
3　褐灰色土　焼土粒子・炭化物少量。粘性強い、締まり強い。
4　褐灰色土　炭化物少量。9～10c の土器片を包含する。粘性強い、締まり強い。
5　黒色土　炭化物・灰多量。粘性やや弱い、締まりやや弱い。
6　暗褐色土　焼土ブロック・炭化物やや少量。粘性強い、締まり強い。

D－1



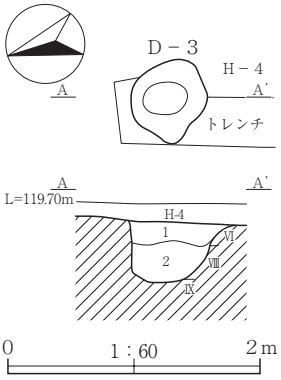
D－1号土坑ＳＰＡ
1　暗褐色土　焼土ブロック・炭化物やや少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　暗褐色土　Ⅵ層土多量。炭化物微量。粘性やや強い、締まりやや強い。
3　黒褐色土　焼土粒子・炭化物やや多量。粘性やや強い、締まりやや強い。
4　黒褐色土　Ⅷ層土ブロック中量。炭化物少量。粘性やや強い、締まりやや強い。

D－2



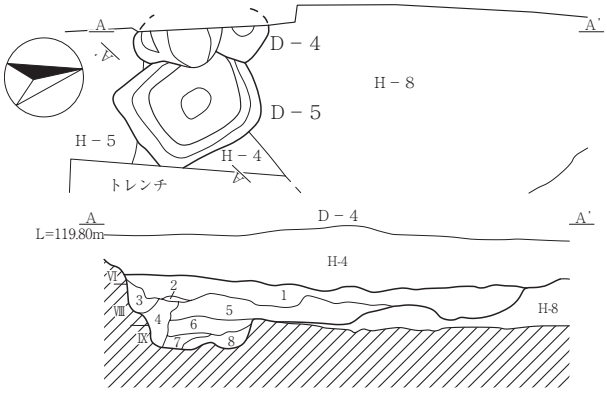
D－2号土坑ＳＰＡ
1　褐灰色土　As-B やや多量。As-C・黒色土少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　黒褐色土　As-B 多量。炭化物微量。粘性やや強い、締まりやや強い。

D－3



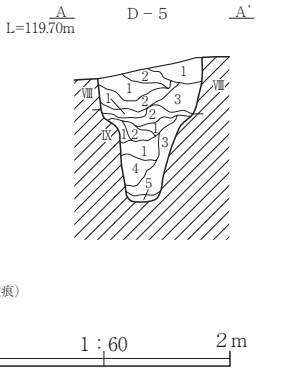
D－3号土坑ＳＰＡ
1　黒褐色土　炭化物中量。粘性強い、締まり強い。
2　褐灰色土　炭化物やや少量。Ⅷ層土中量。粘性やや強い、締まりやや強い。

D－4・5

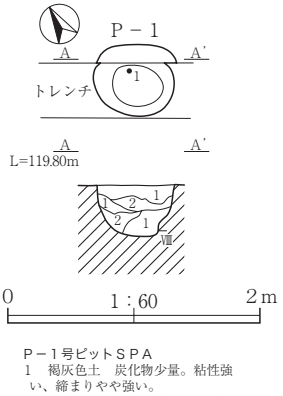


D－4号土坑ＳＰＡ
1　黒褐色土　As-C やや多量。Ⅸ層土ブロック少量。炭化物少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
2　黒褐色土　Ⅸ層土大ブロック中量。炭化物微量。粘性やや強い、締まりやや強い。
3　暗褐色土　Ⅸ層土粒子・炭化物少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
4　暗灰色土　Ⅸ層土ブロックやや多量。焼土粒子・炭化物微量。粘性やや強い、締まりやや強い。（柱痕）
5　暗褐色土　Ⅸ層土粒子中量。炭化物やや少量。粘性やや弱い、締まりやや強い。
6　暗灰色土　４層に類似。焼土ブロック少量。粘性やや強い、締まりやや強い。
7　暗褐色土　３層に類似。Ⅸ層土粒子微量。粘性やや強い、締まりやや強い。
8　淡黄褐色土　Ⅸ層土ブロック多量。暗灰色土中量。粘性やや強い、締まりやや強い。

D－5号土坑ＳＰＡ
1　暗灰色土　Ⅸ層土ブロック少量。粘性強い、締まり強い。
2　灰黄色土　Ⅸ層土ブロック多量。粘性強い、締まり強い。
3　暗灰色土　Ⅸ層土ブロック中量。粘性強い、締まり強い。
4　黒褐色土　Ⅸ層土粒子微量。粘性強い、締まり強い。
5　暗灰色土　Ⅸ層土粒子少量。粘性強い、締まり強い。



P－1



P－1号ピットＳＰＡ
1　褐灰色土　炭化物少量。粘性強い、締まりやや強い。
2　黒色土　灰主体。粘性強い、締まりやや強い。

Fig.15　W－２号溝跡、D－１～５号土坑、P－１号ピット

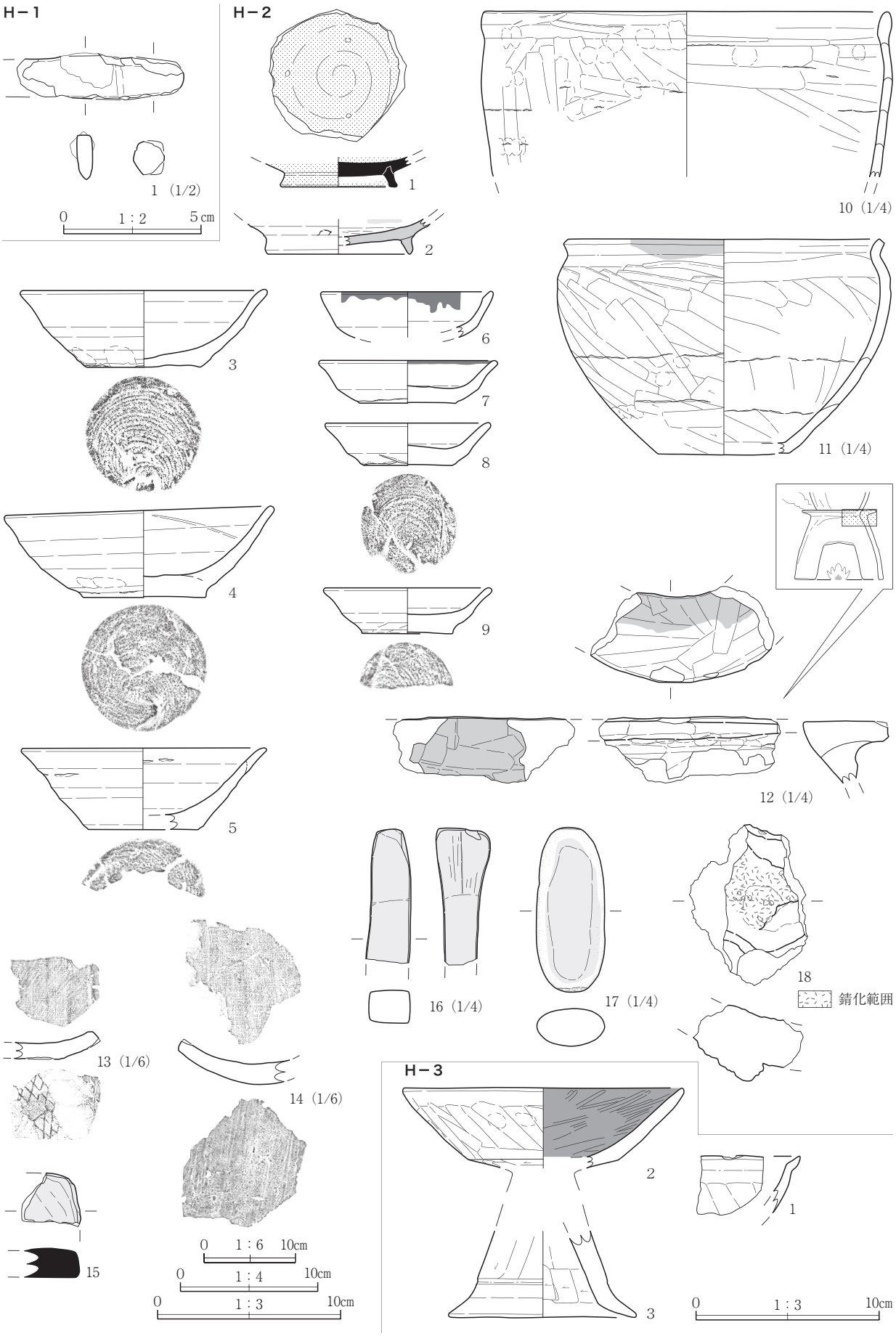


Fig.16　H－1～3号住居跡出土遺物

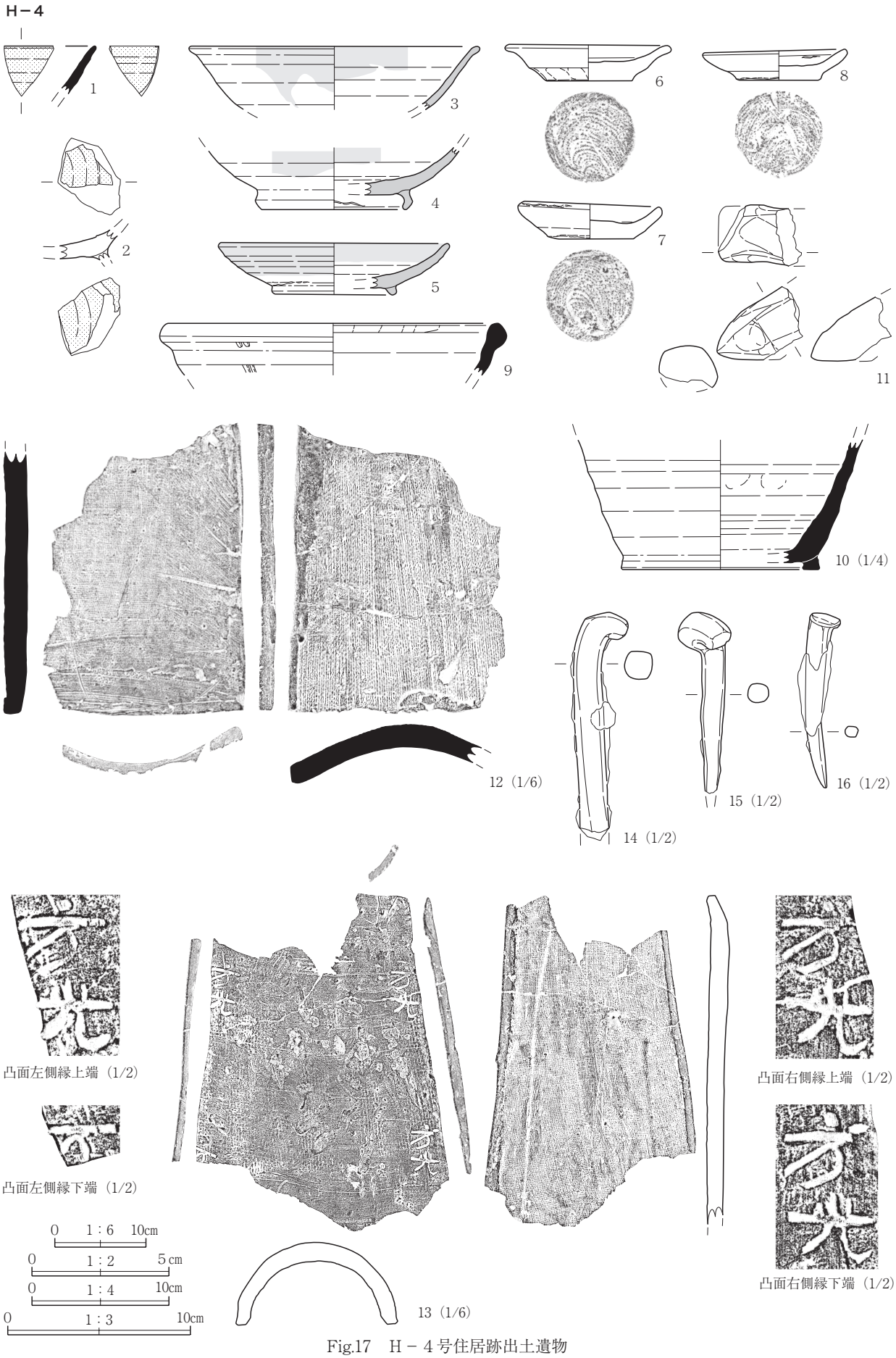


Fig.17　H－4号住居跡出土遺物

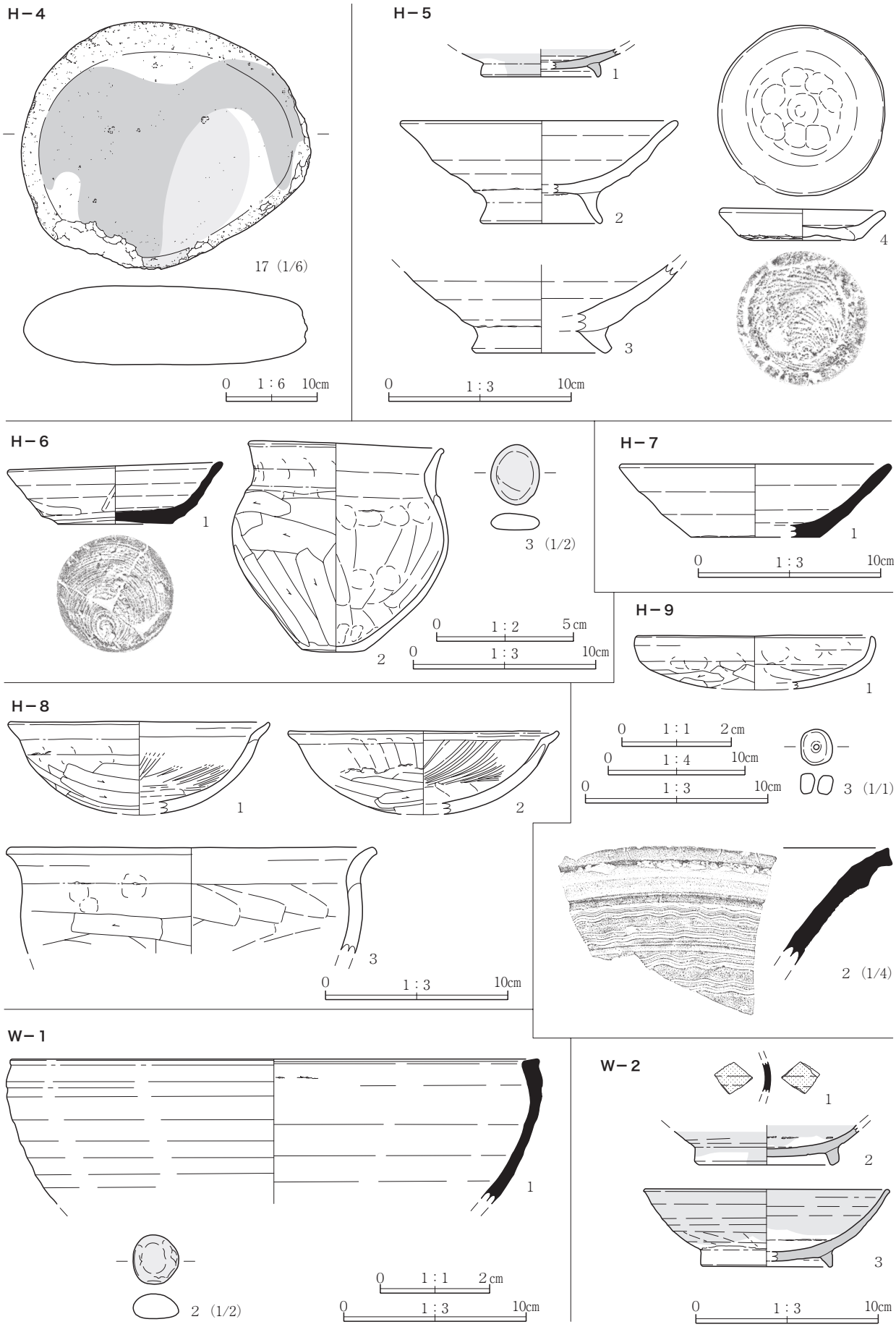


Fig.18　H－４～９号住居跡、W－１・２号溝跡出土遺物

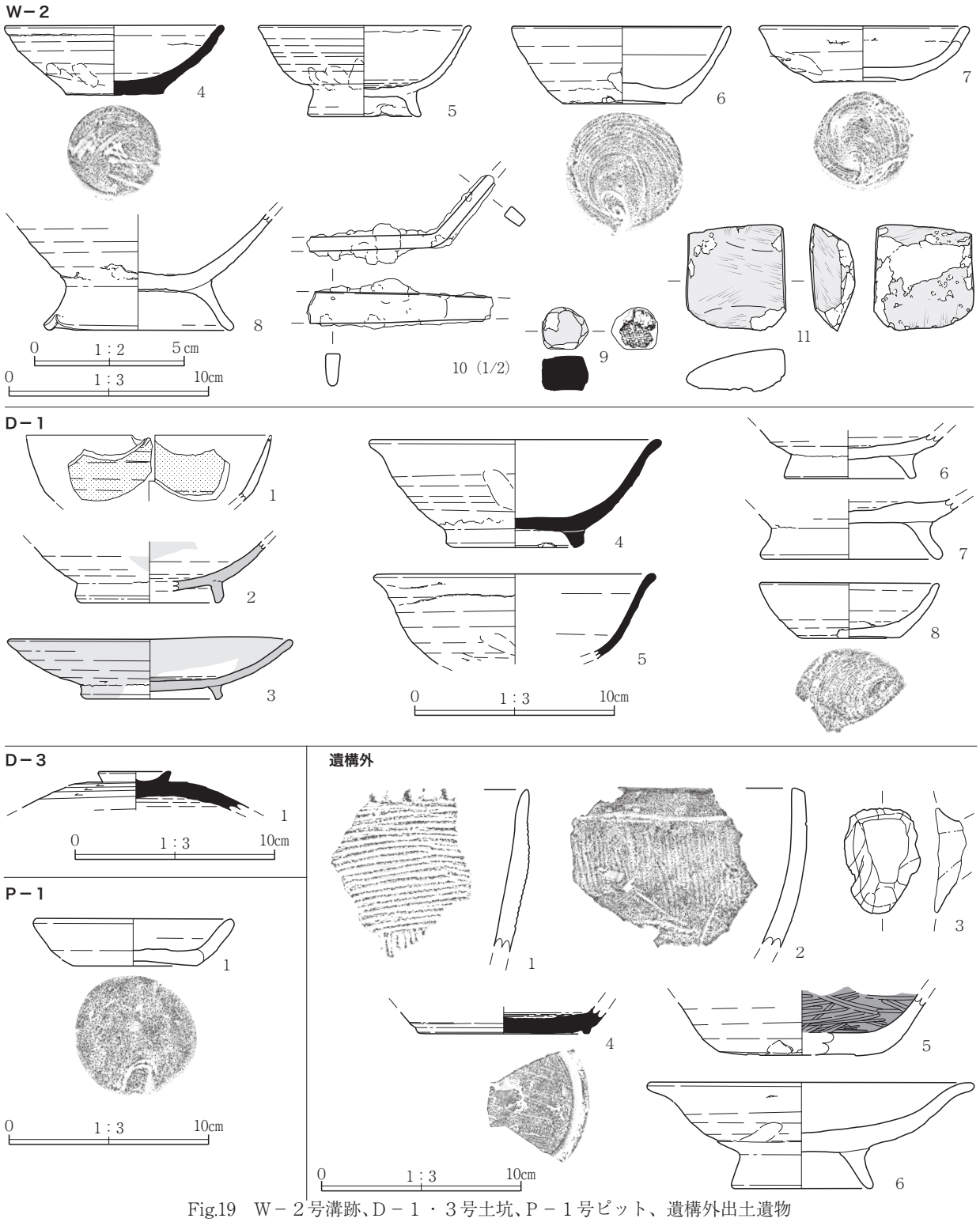


Fig.19　W－２号溝跡、D－１・３号土坑、P－１号ピット、遺構外出土遺物

Tab. 3　出土遺物観察表

H－1

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.1	鉄製品 不明	(6.1)	1.7	1.1	鉄	－	－	13.2g	扁平～角棒状の断面形状を呈する。	破片。錆化顕著。

H－2

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.50	緑釉陶器 碗	－	〔6.2〕	(1.6)	白･黒色細粒、 夾雑物少ない	堅緻	外：暗灰色 断：褐灰色 内：暗灰色	外面：ロクロナデ。貼付高台。体～高台端部緑釉施釉。 内面：ロクロナデ。三叉トチン痕。全面緑釉施釉。釉調濃緑色。	底部残存。 還元焔焼成。硬質素地。
2	覆土	灰釉陶器 碗	－	〔7.8〕	(1.9)	白色細粒、夾 雑物少ない	堅緻	外：灰白色 内：灰白色	外面：ロクロナデ。貼付高台。口縁～体部灰釉施釉。施釉方法不明。 釉調淡緑色。 綾い三日月高台。 内面：口縁～体部ロクロナデ、底部ユビナデ。口縁～体部灰釉施釉。 施釉方法不明。釉調淡緑色。	破片。 美濃産。大原２号窯式期。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	材質	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	No.21,22	須恵器 塊	〔13.3〕	6.1	4.2	白・黒・橙色粒、輝石	やや軟質	外：浅黄橙色 内：浅黄橙色	外面：ロクロナデ。底部回糸切り後無調整。 内面：ロクロナデ。	2/3 残存。 酸化焔焼成。
4	No.36,47	須恵器 塊	14.5	6.7	5.0	白・黒・橙色粒、輝石	やや不良	外：浅黄橙色 内：浅黄橙色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。二次底部面顕著。 内面：ロクロナデ。	ほぼ完存。 酸化焔焼成。
5	掘り方	須恵器 塊	〔13.25〕	〔6.0〕	4.4	白・黒・赤色粒、輝石	やや不良	外：浅黄橙色 内：浅黄橙色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。 内面：ロクロナデ。	1/3 残存。 酸化焔焼成。
6	覆土	須恵器 小皿	〔9.2〕	－	(2.5)	白色粒	やや不良	外：灰白色 内：灰白色	外面：ロクロナデ。口縁部油煙状付着物顕著。 内面：ロクロナデ。口縁部油煙状付着物顕著。	破片。 酸化焔焼成。灯明具。
7	No.35	須恵器 小皿	〔9.5〕	〔5.2〕	2.3	白・黒・橙色粒、輝石	やや不良	外：黄橙色 内：黄橙色	外面：ロクロナデ。 内面：ロクロナデ。口端部油煙状付着物。	1/4 残存。 酸化焔焼成。灯明具か。
8	No.7	須恵器 小皿	〔8.9〕	〔4.9〕	2.3	白・黒・赤色粒、輝石	やや不良	外：浅黄橙色 内：浅黄橙色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。 内面：ロクロナデ。	2/3 残存。 酸化焔焼成。
9	No.40	須恵器 小皿	〔9.0〕	〔5.0〕	2.5	白・黒・橙色粒、輝石	やや不良	外：浅橙色 内：浅橙色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。 内面：ロクロナデ。	1/3 残存。 酸化焔焼成。
10	No.2,3,10, 27,39,44	土師器 土釜	〔29.2〕	－	(12.1)	白・黒・赤色粒、輝石	良好	外：明赤褐色 内：明赤褐色	外面：口縁部ヨコナデ、胴部縦位ユビナデ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴上部横位ユビナデ、胴下部斜位ユビナデ。	口縁～胴部 1/4 残存。
11	No.26,33	土師器 鉢	〔22.7〕	〔9.6〕	(15.6)	白色粒、石英、長石、チャート、小礫	良好	外：にぶい橙色 内：にぶい橙色	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、胴下部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ユビナデ。	1/4 残存。
12	No.41	土製品 竈形か	－	－	(4.7)	結晶片岩、雲母、輝石、白・黒色粒、小礫	良好	外：明赤褐色 内：明赤褐色	外面：掛口部横位ヘラナデ、頸部指頭圧痕列、胴部ユビナデ。掛口端部煤付着。有頸形態。 内面：ヘラナデ。煤付着。	掛口部破片。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
13	No.8	瓦 平瓦	〔7.9〕	〔9.1〕	1.7	赤色粒、小礫	堅緻	凹：灰白色 凸：灰白色	凹面：狭端面・側縁～側面ヘラナデ。模骨痕。布目痕。 凸面：斜格子タタキ。	破片。
14	No.18	瓦 平瓦	(14.8)	(13.0)	2.3	結晶片岩、長石、白色粒	やや堅緻	凹：浅黄橙色 凸：浅黄橙色	凹面：布目痕。 凸面：ナデ。	破片。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
15	覆土	須恵器か 不明	(2.7)	3.1	1.55	細砂粒	やや堅緻	外：灰色 内：灰色	外内面摩滅顕著。	破片。 須恵器甕ないし瓦の転用品か。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
16	No.29	石製品 砥石	(9.8)	3.9	3.1	凝灰岩	－	灰白色	168.5g	－	1/2 残存。
17	No.48	石製品 叩石・擦石	12.0	5.0	2.8	安山岩	－	明オリーブ灰色	300.4g	端部敲打痕顕著。側面摩滅顕著。	完存。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
18	カマド	鉄滓 塊形滓	－	－	(6.0)	鉄滓	－	－	199.9g	底部内面は錆化が顕著で磁着する。気泡あり。	破片。

H－3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器 坏	－	－	(3.1)	白色細粒、輝石	良好	外：暗赤褐色 内：暗赤褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ、体部ミガキ。	破片。 内斜口縁坏。
2	No.4	土師器 高坏	〔15.2〕	－	(4.4)	黒・赤色粒、輝石	やや良好	外：明赤褐色 内：黒色	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ後放射状ミガキ。炭素吸着による黒色処理。	坏部破片。
3	覆土	土師器 高坏	－	〔10.0〕	(4.7)	白色細粒、石英、輝石	良好	外：橙色 内：橙色	外面：脚部縦位ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ。 内面：脚上位ユビナデ、下位横位ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ。	脚部 1/3 残存。

H－4

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.26	緑釉陶器 碗	－	－	(2.7)	白色細粒、夾雑物少ない	堅緻	外：濃緑色 断：灰赤色 内：濃緑色	外面：ロクロナデ。全面緑釉施釉。釉調濃緑色。 内面：ロクロナデ。全面緑釉施釉。釉調濃緑色。	破片。 還元焔焼成。硬質素地。
2	No.1	緑釉陶器 段皿か	－	－	(1.5)	赤色粒、夾雑物少ない	やや軟質	外：濃い緑釉 断：黄橙色 内：濃緑釉	外面：ロクロナデ。全面緑釉施釉。釉調濃緑色。 内面：ロクロナデ。見込部に沈線状の段。全面緑釉施釉。釉調濃緑色。	破片。 酸化焔焼成。軟質素地。
3	覆土	灰釉陶器 碗	〔15.8〕	－	(3.5)	白色細粒、夾雑物少ない	堅緻	外：灰白色 内：灰白色	外面：ロクロナデ。口端部反り顕著。口縁～体部ハケヌリによる灰釉施釉。釉調半透明。 内面：ロクロナデ。口縁～体部ハケヌリによる灰釉施釉。釉調半透明。	破片。 美濃産。光ヶ丘１号窯式期か。
4	掘り方	灰釉陶器 碗	－	〔7.9〕	(3.4)	白･黒色細粒、夾雑物少ない	堅緻	外：灰白色 内：灰白色	外面：ロクロナデ。貼付高台。体部灰釉施釉薬。施釉方法不明。釉調白色。長く緩い三日月高台。 内面：ロクロナデ。体部灰釉施釉。施釉方法不明。釉調白色。	体～高台部 1/4 残存。 美濃産。大原２号窯式期。
5	覆土	灰釉陶器 皿	〔12.4〕	〔6.4〕	(2.8)	白色細粒、夾雑物少ない	堅緻	外：灰白色 内：灰白色	外面：ロクロナデ。貼付高台。口縁～体部ハケヌリによる灰釉施釉。釉調淡緑色。緩い角高台。 内面：ロクロナデ。口縁～体部ハケヌリによる灰釉施釉薬。釉調淡緑色。	破片。 美濃産。光ヶ丘１号窯式期。
6	No.13	須恵器 小皿	8.7	4.8	2.0	白・黒・橙色粒、小礫、輝石	やや軟質	外：橙色 内：橙色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。 内面：口縁～底部ロクロナデ。	はぼ完存。 酸化焔焼成。
7	No.6	須恵器 小皿	7.3	4.7	2.0	白・黒・赤色粒、輝石	やや軟質	外：橙色 内：橙色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。 内面：ロクロナデ。	完存。 酸化焔焼成。
8	No.22	須恵器 小皿	7.7	4.6	1.8	白・黒・赤色粒、輝石	良好	外：橙褐色 内：橙褐色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。 内面：ロクロナデ。	ほぼ完存。 酸化焔焼成。
9	覆土	須恵器 鉢	〔19.0〕	－	(2.8)	黒色粒、夾雑物少ない	堅緻	外：灰白色 内：灰白色	外面：ロクロナデ。口縁部玉縁状。 内面：ロクロナデ。	破片。 篠窯須恵器か。
10	覆土	須恵器 長頸壺	－	〔14.3〕	(9.5)	白色岩片	堅緻	外：灰色 内：灰色	外面：ロクロナデ。貼付高台。 内面：ロクロナデ。	破片。
11	掘り方	土師器 三足土器か	(4.4)	(2.9)	(3.5)	白色岩粒、赤色粒、輝石	良好	外：橙褐色 内：橙褐色	全面ナデによる調整。断面円柱状。端部は平坦で斜めに整形されている。	破片。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
12	No.10,15, 17,18	瓦 平瓦	(28.6)	(21.0)	2.5	白・黒・赤色粒	堅緻	凹：暗青灰色 凸：暗青灰色	凹面：広端縁～広端面・側縁～側面ヘラケズリ。布目痕。糸切痕。 凸面：長縄タタキ。側縁ヘラケズリ。広端縁自然釉顕著。	2/3 残存。
13	No.16	瓦 丸瓦	36.1	17.5	2.2	白色岩片、赤色粗粒	やや堅緻	凸：灰黄色 凹：灰黄色	凸面：縄タタキ後横位ユビナデ。狭端面・側面ヘラケズリ。左右側縁に２箇所１対の「方光」銘を押印。 凹面：狭端縁～狭縁面・側縁～側面ヘラケズリ。布目痕。	3/4 残存。広端部欠損。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
14	No.25	鉄製品 釘	8.3	2.0	1.0	鉄	－	－	30.7g	－	－
15	No.24	鉄製品 釘	6.1	1.95	0.75	鉄	－	－	14.8g	－	－

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
16	カマド 掘り方	鉄製品 釘	6.4	1.2	0.4	鉄	－	－	6.5g	－	－
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
17	床面	石製品 台石	31.8	27.1	9.2	粗粒安山岩	－	－	11.2kg	上面中央付近摩滅・被熱顕著。下面やや磨滅。側面に被熱による剥落あり。敲打痕や鍛造剥片等の付着は観察できない。	ほぼ完存。

H－5

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	灰釉陶器 碗	－	〔6.2〕	(1.5)	白色岩片	堅緻	外：淡緑色 断：灰白色 内：淡緑色	外面：ロクロナデ。貼付高台。体部灰釉施釉。釉調淡緑色。三日月高台。 内面：ロクロナデ。体部灰釉施釉。釉調淡緑色。	破片。 生産地不明。
2	覆土	須恵器 高台付埦	〔14.9〕	〔6.4〕	5.7	白・黒色粒、輝石	不良	外：淡黄色 内：淡黄色	外面：ロクロナデ。貼付高台。 内面：ロクロナデ。	1/2 残存。 酸化焔焼成。
3	No.19	須恵器 高台付埦	－	〔7.0〕	(4.8)	黒･赤色粗粒、輝石、長石	不良	外：浅黄橙色 内：浅黄橙色	外面：ロクロナデ。貼付高台。 内面：ロクロナデ。	破片。 酸化焔焼成。
4	No.9	須恵器 小皿	8.85	5.6	2.8	白・黒・赤色粒、輝石	やや不良	外：橙色 内：橙色	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り後無調整。底部に円周状の指頭圧痕列。 内面：口縁～体部ヨコナデ。底部ロクロナデ。底部に円周状の指頭圧痕列。	ほぼ完存。 酸化焔焼成。

H－6

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.9.18	須恵器 坏	11.5	6.3	3.4	白･黒色細粒、チャート	やや堅緻	外：灰褐色 内：灰褐色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。二次底部面顕著。 内面：ロクロナデ。	口縁部 1/4 欠損。
2	No.4	土師器 小型甕	10.4	3.5	11.6	白･黒色細粒、チャート	良好	外：橙色 内：橙色	外面：口縁部指頭圧痕列後ヨコナデ、胴部上半横位ヘラケズリ、胴部下半縦位ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。口縁部外反の弱い「くの字」状。器面はほとんど磨耗していない。 内面：口縁部ヨコナデ、胴～底部ユビナデ。	完存。 武蔵型甕。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	覆土	石製品 碁石か	2.2	1.8	6.0	玄武岩	－	黒色	3.5g	全面摩滅顕著。扁平。	完存。

H－7

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.1.3	須恵器 坏	〔14.7〕	〔7.0〕	(4.0)	白・黒細粒、輝石、石英	やや良好	外：黄橙色 内：黄橙色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。 内面：ロクロナデ。	1/3 残存。 酸化焔焼成。

H－8

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.1	土師器 坏	〔14.2〕	－	(5.0)	白・赤粗粒、輝石	良好	外：明赤褐色 内：明赤褐色	外面：口縁～体部上端ヨコナデ、体部中位～下半ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ後放射状ミガキ。	1/4 残存。 内斜口縁坏。
2	No.5	土師器 坏	〔14.7〕	－	4.5	白色粒、赤色粗粒、長石	良好	外：明赤褐色 内：明赤褐色	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半斜位ユビナデ、体部下半～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、体部放射状ミガキ、底部ヘラナデ。	1/8 残存。 内斜口縁坏。
3	No.6	土師器 鉢か	〔19.8〕	－	(5.8)	白・黒色粒、結晶片岩、輝石	良好	外：黄褐色 内：黄褐色	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ユビナデ。	口縁～胴部上半 1/4 残存。

H－9

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	H-4 掘り方	土師器 坏	12.9	－	(2.9)	白・黒細粒、輝石	やや良好	外：橙色 内：橙色	外面：口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ。体部上端に無調整帯。 内面：口縁部ヨコナデ、体～底部ナデ。	1/8 残存。
2	H-4 掘り方	須恵器 甕	－	－	(8.5)	白色粒	堅緻	外：灰色 内：灰色	外面：沈線横区画内に横位櫛描波状文２条施文を２単位。口縁部直下「三角状凸帯」。 内面：ロクロナデ。	口縁部破片。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	H-4 掘り方	石製品 臼玉か	0.6	0.5	0.4	滑石	－	－	0.2g	－	完存。 H-8 からの混入遺物か。

W－1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 鉄鉢形土器	〔28.9〕	－	(7.9)	白・黒・茶色粒、石英	堅緻	外：灰白色 内：灰白色	外面：ロクロナデ。 内面：ロクロナデ。	口縁～体部破片。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土	石製品 碁石か	1.8	1.7	0.9	流紋岩か	－	灰白色	3.7g	全面摩滅顕著。扁平。	完存。

W－2

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.10	緑釉陶器 小壺か	(1.7)	2.1	0.3	白色細粒、夾雑物少ない	堅緻	外：濃緑色 断：暗灰色 内：濃緑色	外面：ロクロナデ。全面緑釉施釉。釉調濃緑色。 内面：ロクロナデ。全面緑釉施釉。釉調濃緑色。	体部破片。 還元焔焼成。硬質素地。
2	覆土	灰釉陶器 碗	－	〔7.4〕	(2.2)	白・黒色粒、夾雑物少ない	堅緻	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外面：ロクロナデ。貼付高台。体部灰釉施釉。施釉方法不明。釉調乳白色。緩い三日月高台。 内面：ロクロナデ。体部灰釉施釉。施釉方法不明。釉調淡緑色。	底部 2/3 残存。 猿投産。折戸 53 号窯式期。
3	覆土	灰釉陶器 碗	〔13.3〕	〔7.1〕	4.3	白・黒色粒、夾雑物少ない	堅緻	外：灰白色 内：灰白色	外面：ロクロナデ。貼付高台。口縁～体部ツケガケによる灰釉施釉。釉調半透明。三角高台。 内面：ロクロナデ。口縁～体部ツケガケによる灰釉施釉。釉調白～淡緑色。	1/2 残存。 美濃産。大原２号窯式期。
4	No.6	須恵器 坏	〔10.9〕	4.8	3.5	白・黒・茶色粒、輝石	やや堅緻	外：灰白色 内：灰白色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。 内面：ロクロナデ。	3/5 残存。
5	覆土	須恵器 高台付坏	〔10.0〕	5.5	4.6	白・黒・茶色粒、輝石	良好	外：橙褐色 内：橙褐色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り。貼付高台。 内面：ロクロナデ。	3/5 残存。 酸化焔焼成。
6	No.5	須恵器 坏	〔10.9〕	5.9	3.9	白・黒・茶色粒、石英	やや不良	外：橙色 内：橙色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。 内面：ロクロナデ。	2/3 残存。 酸化焔焼成。
7	No.4	須恵器 坏	10.3	4.9	2.8	白・黒色粒、黒雲母	良好	外：橙色 内：橙色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。 内面：ロクロナデ。	ほぼ完存。 酸化焔焼成。
8	No.8	須恵器 高台付埦	－	9.2	(5.8)	白・黒・茶色粒、輝石	良好	外：黄橙色 内：黄橙色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り。貼付高台。 内面：ロクロナデ。	底～高台部残存。 酸化焔焼成。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
9	覆土	土製品 瓦転用	2.3	2.1	1.9	白・黒・茶色粒	やや堅緻	外：灰白色 内：灰白色	10.0g	外面～側面摩滅顕著。内面に布目痕。円筒状。瓦の転用品。	ほぼ完存。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
10	覆土	鉄製品 刀子か	(6.2)	(1.1)	(0.5)	鉄	−	−	14.5g	−	端部欠損。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
11	覆土	石製品 砥石	5.3	5.1	2.3	凝灰岩	−	−	63.8g	全面摩滅顕著。欠損後に再利用か。	完存。

D－1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	緑釉陶器 輪花碗	−	−	(3.2)	白色粒、夾雑物少ない	良好	外：緑色 断：灰黄褐 内：緑色	外面：ロクロナデ。全面緑釉施釉。釉調緑色。口端部に弱い押圧による輪花を施す。 内面：ロクロナデ。全面緑釉施釉。釉調緑色。口端部に弱い押圧による輪花を施す。	口縁～体部破片。 酸化焔焼成。軟質素地。
2	覆土	灰釉陶器 碗	−	〔6.9〕	(3.1)	白･黒色細粒、夾雑物少ない	堅緻	外：灰白色 内：灰白色	外面：ロクロナデ。貼付高台。体部ツケガケによる灰釉施釉。釉調半透明。高台長い。 内面：ロクロナデ。体部ツケガケによる灰釉施釉。釉調半透明。	底～高台部 1/4 残存。 美濃産。大原２号窯～虎渓山１号窯式期。
3	No.1	灰釉陶器 皿	14.1	6.7	3.1	白・黒色粒	堅緻	外：灰色 内：灰色	外面：口縁～体部上半ロクロナデ、体部下半～底部回転ヘラケズリ。貼付高台。口～体部ツケガケによる灰釉施釉。釉調緑灰色。三日月高台。 内面：ロクロナデ。口～体部ツケガケによる灰釉施釉。釉調緑灰色。	完存。 猿投産。黒笹 90 号窯式期。
4	覆土	須恵器 高台付埦	〔14.5〕	〔6.2〕	5.4	白・黒色粒	やや 軟質	外：黄灰色 内：黄灰色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り。貼付高台。 内面：ロクロナデ。	口縁～底部 2/5 残存。
5	No.4,5	須恵器 埦	〔13.9〕	−	(4.5)	白・黒・茶色粒	やや 堅緻	外：灰色 内：灰色	外面：ロクロナデ。 内面：ロクロナデ。	口縁～体部 1/4。
6	No.2	須恵器 高台付埦	−	6.5	(2.4)	白・黒色粒	良好	外：褐灰色 内：褐灰色	外面：ロクロナデ。貼付高台。 内面：ロクロナデ。	体部下位～底部破片。 酸化焔焼成。
7	覆土	須恵器 高台付埦	−	9.2	(3.0)	石英、輝石、チャート	やや 不良	外：橙色 内：橙色	外面：ロクロナデ。貼付高台。摩滅顕著。 内面：ロクロナデ。摩滅顕著。	体部～底部 1/2 残存。 酸化焔焼成。
8	覆土	須恵器 坏	〔8.9〕	〔4.9〕	2.8	白・黒色粒、輝石	やや 軟質	外：灰黄褐色 内：褐色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。 内面：ロクロナデ。	口縁～底部 1/3 残存。

D－3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 蓋	−	−	(1.9)	白・黒色粒、チャート	堅緻	外：灰色 内：灰色	外面：天井部下半ロクロナデ、天囲部上半ヘラケズリ。環状摘み。 内面：ロクロナデ。	天井部残存。

P－1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.1	須恵器 小皿	〔9.8〕	6.2	2.4	白・黒色粒、石英	やや 軟質	外：黄橙色 内：黄橙色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。 内面：ロクロナデ。	2/3 残存。

遺構外

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	遺構外	縄文土器 深鉢	−	−	(7.4)	白・黒色粒、輝石、石英	良好	外：黄橙色 内：黄橙色	口端部に短い棒状浮文を付す。口縁部は横位の並行沈線、体部は縦位の集合沈線を密に施す。	破片。 諸磯ｂ式。
2	遺構外	縄文土器 深鉢	−	−	(7.8)	チャート、輝石、石英	良好	外：浅黄橙色 内：浅黄橙色	外内面条痕。口端部は横位沈線で画し、孤線文ないし入組三叉文を施文。	破片。 安行３ｂないし３ｃ式か。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	遺構外	形象埴輪か 人物埴輪か	(7.0)	(5.0)	(2.1)	白色粒子、輝石、チャート	良好	外：黄橙色 内：黄橙色	ユビナデ。	破片。 人物埴輪の腕部か。
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
4	調査区外	須恵器 高台付坏	−	〔8.5〕	(1.3)	白・黒色粒	堅緻	外：黄灰色 内：黄灰色	外面：底部回転ヘラ切り後、静止ヘラケズリ。削り出し高台。 内面：ロクロナデ。	底部破片。
5	調査区外	内黒土器 坏	−	〔8.1〕	(3.2)	白・黒・茶色粒、石英	良好	外：灰黄色 内：黒褐色	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り後無調整。 内面：ミガキ。炭素吸着による黒色処理。	体部下半～底部。
6	包含層	須恵器 高台付坏	〔16.3〕	6.9	5.3	白・黒色粒、輝石	不良	外：黄橙色 内：黄橙色	外面：ロクロナデ。貼付高台。摩滅顕著。 内面：ロクロナデ。摩滅顕著。	3/4 残存。 酸化焔焼成。

Ⅵ　発掘調査の成果と課題

今回の発掘調査により、本遺跡には奈良～平安時代の住居跡を中心とする遺構群が、非常に高い密度で分布することがわかった。また、出土遺物にも特筆できる特徴がみられる。そこで本節では、今回の調査で出土した特徴的な遺物について、若干の検討を加えつつ紹介してみたい。

緑釉陶器　緑釉陶器は５点出土した。出土率は面積比で１点 /26 ㎡となり、国府域で高い出土率を示す蒼海（８・13）の１点 /85 ㎡を上回り、県内髄一の出土例である清里・陣場遺跡の１点 /25 ㎡にせまる。本遺跡の東に隣接する総社甲稲荷塚大道西・大道西Ⅱ遺跡でも、細片のため詳細は不明だが多数出土しており、牛池川左岸の国府域北東外縁にあたる一帯は緑釉陶器の出土率が高い。そこで以下には周辺出土例を確認し、類型化を試考した。

類型Ａは完形品の特定遺構内への一括遺棄で、著名な山王廃寺南東縁の一括資料や清里・長久保遺跡の土坑墓出土例がある。類型Ｂは調査区単位の多数出土事例で、遺構の覆土中から破片が多数出土する。この類型は、周囲で大量消費された緑釉陶器の廃棄・流入と推定できる。調査区単位の遺物組成で細分でき、蒼海（41）のように磁器類などさらに希少な遺物が出土する例［Ｂ１］、元総社明神遺跡Ⅷのように希少な磁器類に加えて祭祀具が出土する例［Ｂ２］、清里・陣場遺跡のように灰釉陶器は多数伴うが磁器類は出土しない例［Ｂ３］がある。類型Ｃは調査区単位で１・２片の緑釉陶器が出土する例で、最も一般的な出土例といえる。

多数出土例の類型Ｂをみると、Ｂ１は国府域北西部の一帯に多い。ここは推定国庁と国分僧寺・尼寺に囲ま

れた地勢で、三彩陶器や円面硯、金の付着した灰釉陶器など、希少で多彩な遺物が出土し、背景に国府域の活発な経済活動を想定できる。Ｂ２は周辺では元総社明神遺跡Ⅷが唯一の例で、牛池河畔での高級瓷器や木製祭祀具を用いた祭祀には、国家規模の律令的祭祀が想定されている。Ｂ３の例である清里・陣場遺跡は「有力者の居宅」と類推されている（中沢 1981）。また、国府域西端の蒼海（８・13）もこの類型にあたる。この一帯は蒼海（13・20・40）などで確認された南北方向の道路状遺構と染谷川の交通結節点にあたる。

本遺跡はＢ３に類型化できる。地勢は国府域西端に似ており、牛池川左岸における交通結節点の性格を想定できるが、その場合は物流関係の指向として、山王廃寺を中心とした伝統的な政治的中枢地域との関係に留意する必要がある。また、清里・陣場遺跡のような想定をした場合も、国府域北東外縁という地勢に留意する必要はある。ちなみに、本遺跡で緑釉陶器が使われた９～10 世紀は、調査区内では住居跡の空白期となることは興味深い（Fig. 6）。しかし今回の調査区は議論には狭く、周辺調査例の増加がなお必要と考える。

「平安時代の緑釉陶器は、仏寺・祭祀遺跡のみならず、都城跡、地方官衙はもとより、一般の集落址からも少なからず出土し、ほぼ全国的な出土分布を示す。」と言われ、「平安時代の食器の様式転換は、つまるところ、祭器から日常什器への転換であった」とされる（巽 1985P55L21 ～ 23・L25 ～ 27）。上野国府域で、類型ＡやＢ２に加え、Ｂ１や本遺跡を含めたＢ３の例があることは、このような文脈の中で必然とも言えるのだろう。

「方光」銘押印瓦　Ｈ－４のカマドは構築材として、「方光」銘押印丸瓦を転用していた。丸瓦は据え穴に広端部を下、つまり、瓦葺きと押印の方向からすると正位に設置されるが、これが構築材としての安定性を求めた結果なのか、押印を意識したものかは分からない。「方光」銘押印瓦には、山王廃寺の所用瓦であること・陽刻の木印を用いること・２種の木印があり細字から太字へ木印を削り直していること・丸瓦の両面と平瓦の凸面に例があることなどが指摘される（相川 1934、住谷 1935、前橋文化財研究会 1980、前橋市教育委員会 2010・2012a）。本例の「方光」は、完全には一致しないが細字の一群に似る（扉絵参照）。また、６次調査挿図 17 － 2 ・ 5 ・19 A 135 － 12 T（山王廃寺金堂）、20 A 135 － 24 T 整理番号 24 － 17（山王廃寺塔跡西）のように、丸瓦凸面の側面に押印される資料が知られていたが、今回、残存率の高い丸瓦の四隅に押印が確認できたことは、その押印方法の全体像を類推する一助となるだろう。本例はやや柔らかい灰黄色の焼成だが、凸面は長縄叩きで縦位に叩き締めた後、横位のナデでやや丁寧に整形し、凹面に模骨痕はない。すなわち、既出資料と同様、山王廃寺６次調査分類のⅢ類、栗原分類のⅡＢ３類（前橋市教育委員会 2012b）に相当する。Ⅲ類丸瓦には「天長八」（831 年）の箆書瓦があり、９世紀第２四半世紀以降に使われた瓦と論証されている。一方、これがカマドに転用されたＨ－４の時期は、出土した土器から 11 世紀前半と推定できる。ちなみに、栗

Tab. 4　周辺の緑釉陶器出土遺跡

遺構名	出土遺構	器種・数量	時期
山王廃寺	塔心礎の南東約 200 m（寺域南東縁の密教祭祀施設か）	水注 1、碗 3、皿 4	9c 前～10c 後
国分境遺跡	B 区 7 号住居跡、C 区 11･13･46 号住居跡	手付水注 1、碗 1、段皿ヵ 1、不明 1	9c 前～10c 後
清里・陣場遺跡	30･32･33･36･44･46･58･61 号住居址、1･17 号溝、2 号井戸、遺構外	香炉 1、段皿 2、碗・皿 161	9c 後～10c 後
清里・長久保遺跡	1 号土壙墓	輪花碗 1・輪花皿 1	10c 前
元総社明神遺跡Ⅷ	W-3（牛池川旧流路）	碗 8	9c 後～10c 後
元総社明神遺跡Ⅸ	遺構外（29 トレンチ）	手付瓶 1・瓶類 3・碗 10・皿 1・不明 6	9c 後～10c 後
元総社明神遺跡Ⅺ	表採（C 区）	碗 1	9c 後～10c 後
元総社明神遺跡Ⅻ	D-57（β トレンチ）	碗 1	9c 後～10c 後
元総社蒼海遺跡群（1）	W-6（2 トレンチ）	碗ヵ 2	9 ～ 10c
元総社蒼海遺跡群（8）	H-8･17･25･29、O-1･遺構外（A 区）	稜碗 13・碗 6・稜皿 2・皿 2・耳皿 1・不明 13	9c 後～10c 前
元総社蒼海遺跡群（13）	H-3･4･5（1 区）、H-20、K-1（11 区）	長頸瓶 1・稜碗 10・皿 1	9c 後～10c 前
元総社蒼海遺跡群（26）	H-12（7 区）	稜碗 1	9c 後
元総社蒼海遺跡群（41）	H-11･35	碗 2	10c 前
元総社蒼海遺跡群（60）	H-17･20、I-3、遺構外（A 区）、H-5（B 区）	碗 4・不明 1	10c
元総社蒼海遺跡群（85）	W-3	碗 2・不明 1	9 ～ 10c
元総社小見遺跡	遺構外（8 区）	皿 1	10c 前
元総社小見Ⅱ遺跡	H-28B･35、遺構外	唾壺 1・手付瓶 1・托 1・碗 1・皿 1	9 ～ 10c
元総社小見Ⅲ遺跡	DB-1（2 区）	皿 1	10c 後
元総社小見Ⅵ遺跡	H-38	碗 2	10c 前
元総社小見内Ⅲ遺跡	H-3（9 区）	皿 1	10c 後～11c 前
総社甲稲荷塚大道西遺跡	H-3･4･9（A 区）、遺構外（B 区）	不明 9	9 ～ 11c 前
総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	H-1･4･9･13･17･19･23･24	不明 21	9c 後～11c 前
総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	遺構外（A 区）	碗 1	10c
元総社中学校遺跡	H-2･4、W-2、D-1	小壺ヵ 1、輪花碗 1、碗 3	9～10c

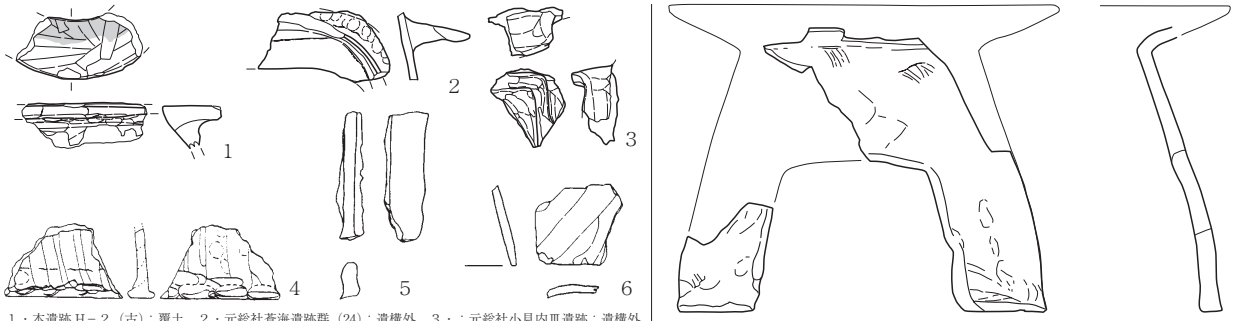
Fig.20　上野国府域の緑釉陶器出土状況（S=1/15,000）

原和彦氏は『上野国交替実録帳』の検討から、山王廃寺の廃絶を長和３年（1015 年）以前とみる（前橋市教育委員会 2012b）。であるとすれば、Ｈ－４に「方光」銘押印瓦が使われた頃、山王廃寺の伽藍はほぼ廃絶していたと類推できるだろう。

廃寺となって間もない放光寺の跡地に、同時代を生きた彼岸の人々はどのような心象をもったのか。そのような土地から建築材として拾われた「方光」は果たして、単純な「無機物」だったのであろうか。

竈形土製品　Ｈ－２古段階の覆土下層からは、特異な形の土製品が出土した。甕の口縁部のように外反するが非常に極端で、胎土は粗く、器壁はとても厚くて重い。上端から内面には煤の付着と摩滅が顕著で、形と使用痕から竈形土製品と類推した。竈形土製品あるいは置き竈・竈形土器は近年、神谷佳明氏が全国的な集成と出土状況をもとにした用途論を展開されており（神谷 2016）、これに拠りながら本例を紹介したい。

本例は、有頸形態の掛口部片と推測できる（Fig.21 右）。有頸形態は山陰から北陸地方に集中し、上野では太田市大道東遺跡の推定東山道側溝に例がある程度で地域的な偏りがある。竈形土製品は一般に祭祀に伴う器物といわれるが、本例のように住居跡から出土する例も全国的にある。上野・上総など東国の一部では、住居跡の造り付けカマド内から出土する例もあり、竈神信仰との関係が指摘される。とはいえ、出土例はとても少なく、活発な「交通」が想定できる国府域周辺でもその傾向はあまり変わらず（Fig.21 左）、一般化した習俗ではなかったようだ。竈形土製品には６～11 世紀の資料が知られる。上野では 10 世紀後半に推定される高崎市雨壺遺跡 25 号住居跡カマド内の例が上限であり、本例が遺跡の存続期間内に使われたものであることだけは類推できる。



1・本遺跡Ｈ－２（古）：覆土　2・元総社蒼海遺跡群（24）：遺構外　3・：元総社小見内Ⅲ遺跡：遺構外
4・鳥羽遺跡Ｊ区 12 号住居跡：覆土　5、6・下東西遺跡 SD59：覆土

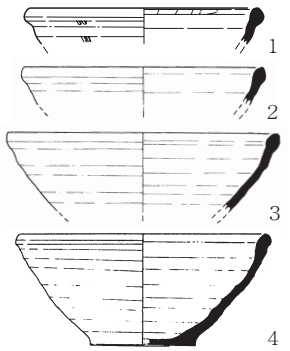
有頸形態の竈形土製品の一例（新潟県真野町旗射崎遺跡）

Fig.21　周辺遺跡出土の竈形土製品と有頸形態の竈形土製品　（S=1/10　一部再トレース）

特徴的な土器　本遺跡では他にも、三足土器と類推できる細片や鉄鉢形土器、碁石と類推できる小石、口縁部が玉縁状をした須恵器鉢などの破片が出土した。特に口縁部が玉縁状の須恵器鉢は、在地産の須恵器に比べ胎土は緻密で焼成も良く、特徴的な器形をしている。

玉縁状の肥厚口縁を特徴とする鉢は、京都府亀岡市篠窯跡群の製品が有名で、俗に「篠鉢」と呼ばれるほどの個性をもつ。Ｈ－４の出土資料は、この「篠鉢」に類似する。口径は小型鉢に一致し、口縁形態は阪大分類の弱突タイプに相当する（大阪大学考古学研究室篠窯調査団 2012）。さらには肥厚口縁成形時の粘土圧延と曲げ技法を示す破断面の粘土縞も同様に観察できる（巻頭図版２参照）。比較資料とした大谷３号窯の操業時期は９世紀第４四半世紀に比定され、平安京右京二条二坊三町 SX １には「天暦七」（953 年）の墨書土器が共伴することから、本遺跡では緑釉陶器が使われた頃に搬入された須恵器と推測できる。

「篠鉢」は、９世紀後半頃の都城で数多く消費される。その生産と流通は受領層に代表される国衙勢力と国家間の関係によって維持されたという（高松 2012）。この須恵器は、「都ぶり」を求めた当地の人々の思惑と、国衙勢力の台頭めまぐるしい王朝国家期の経済構造に乗って、緑釉陶器とともに本遺跡へ辿りついたのかもしれない。



1・本遺跡Ｈ－４　2、3・篠窯跡群大谷３号窯
4・平安京右京二条二坊三町 SX１

Fig.22　Ｈ－４－９と篠窯産小型鉢の比較　（S=1/８）

調査区全景（北から）

調査区北半部全景（北西から）

調査区南半部全景（北西から）

Ｈ－１全景（南東から）

Ｈ－２（新）全景（東から）

Ｈ－２（新）カマド全景（北東から）

Ｈ－２（新）掘り方・Ｈ－２（古）全景（西から）

Ｈ－２（古）カマド全景（西から）

Ｈ－２－１緑釉陶器碗出土状況（北から）

Ｈ－３全景（北東から）

Ｈ－４全景（西から）

Ｈ－４カマド遺物出土状況（西から）

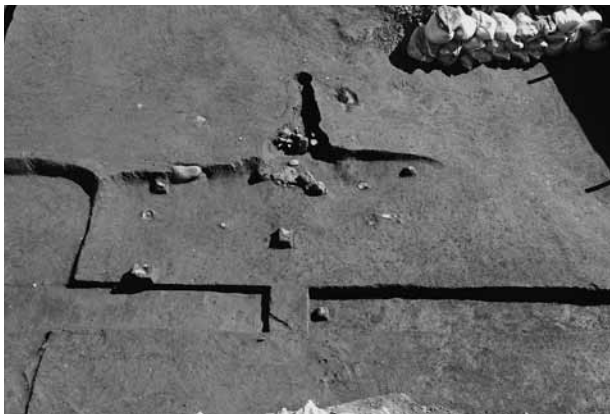
Ｈ－４カマド天井石崩落状況（南西から）

Ｈ－４－６須恵器小皿出土状況（南西から）

Ｈ－４カマド全景（西から）

Ｈ－４－12・13カマド構築材出土状況（西から）

Ｈ－４－17台石出土状況（南から）



Ｈ－５全景（西から）

Ｈ－５カマド全景（西から）

Ｈ－５－４須恵器小皿出土状況（北西から）

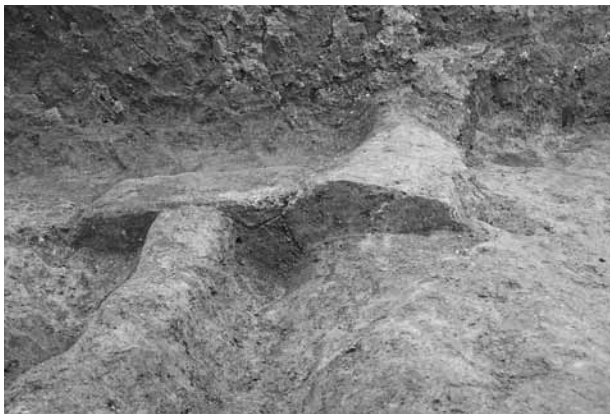
Ｈ－６全景（北西から）

Ｈ－６－２土師器甕出土状況（南から）

Ｈ－７カマド全景（南から）

Ｈ－８全景（南東から）

Ｈ－８カマド全景（南西から）



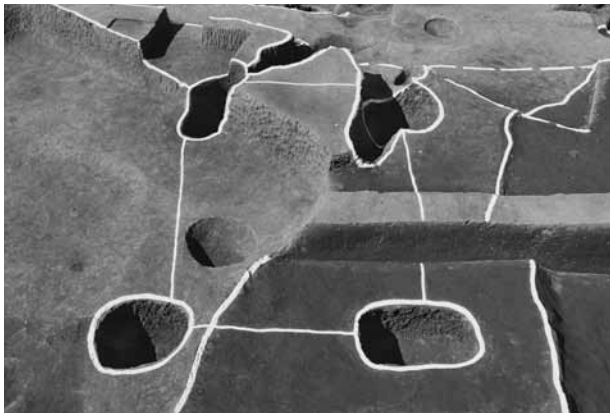
Ｈ－８カマドSPB北側袖部土層断面（南西から）

Ｈ－８貯蔵穴全景（南西から）

Ｈ－８掘り方全景（北東から）

Ｈ－９カマド全景（北西から）

Ｈ－10全景（北西から）



Ｂ－１全景（東から）

Ｗ－１全景（東から）

Ｗ－２全景（北から）

Ｗ－２遺物出土状況（北から）

Ｉ－１全景（東から）

Ｄ－１－３灰釉陶器皿出土状況（北から）

Ｄ－２全景（北から）

Ｄ－４全景（東から）

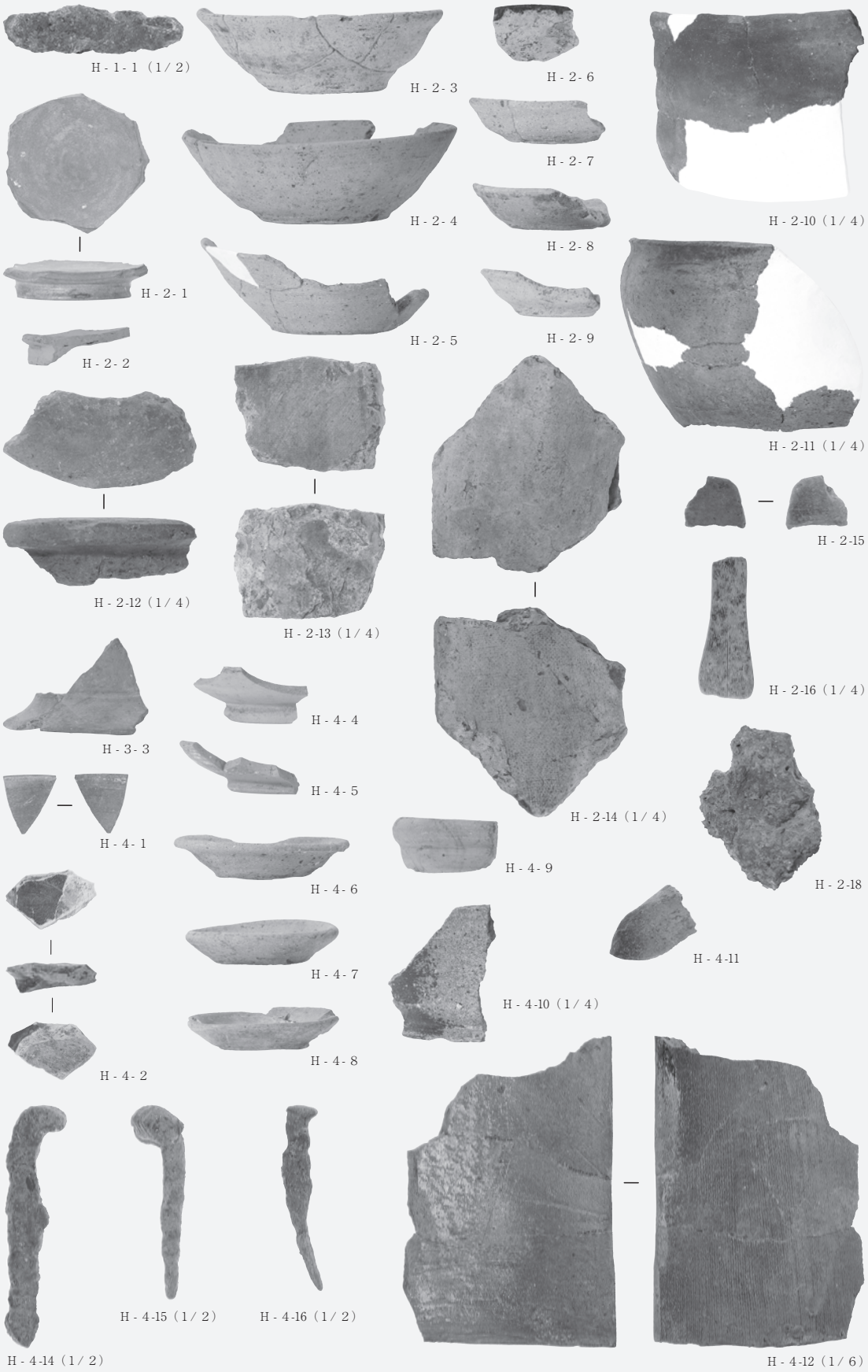
Ｄ－５SPA土層断面（北西から）

Ｄ－５全景（北西から）

Ｐ－１全景（西から）

Ⅷ～Ⅸ層遺構確認状況（南から）

調査風景（北東から）

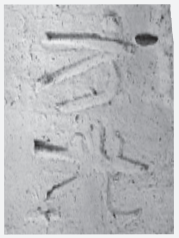

H - 1 - 1 （1 / 2）
H - 2 - 3
H - 2 - 6
H - 2 - 7
H - 2 - 4
H - 2 - 8
H - 2-10（1 / 4）
H - 2 - 1
H - 2 - 5
H - 2 - 9
H - 2 - 2
H - 2-11（1 / 4）
H - 2-15
H - 2-12（1 / 4）
H - 2-13（1 / 4）
H - 2-16（1 / 4）
H - 3 - 3
H - 4 - 4
H - 4 - 5
H - 2-14（1 / 4）
H - 4 - 1
H - 4 - 9
H - 2-18
H - 4 - 6
H - 4-11
H - 4 - 7
H - 4-10（1 / 4）
H - 4 - 8
H - 4 - 2
H - 4-15（1 / 2）
H - 4-16（1 / 2）
H - 4-14（1 / 2）
H - 4-12（1 / 6）

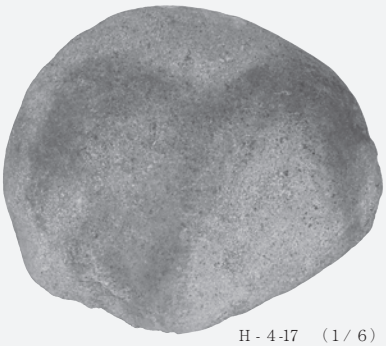
H - 4-13左側縁上端（1／2）

H - 4-13（1／6）

H - 4-13右側縁上端（1／2）

H - 4-13左側縁下端（1／2）


H - 4-13右側縁下端（1／2）


H - 4-17　（1／6）

H - 5- 1

H - 5- 4

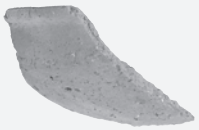
H - 5- 2

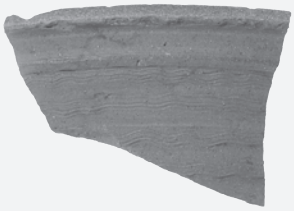
H - 6- 1

H - 6- 2

H - 7- 1

H - 8- 1


H - 8- 2


H - 9- 2（1／4）

H - 9- 1

H - 9- 3（1／1）

H - 8- 3

H - 6- 3（1／2）

W - 1- 2（1／2）

W - 2- 1

W - 1- 1

W - 2- 2

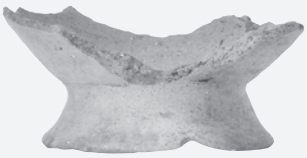
W - 2- 4

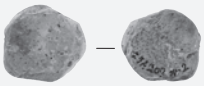
W - 2- 6

W - 2- 3

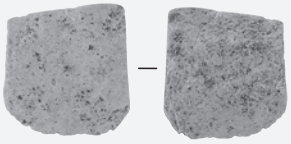
W - 2- 5

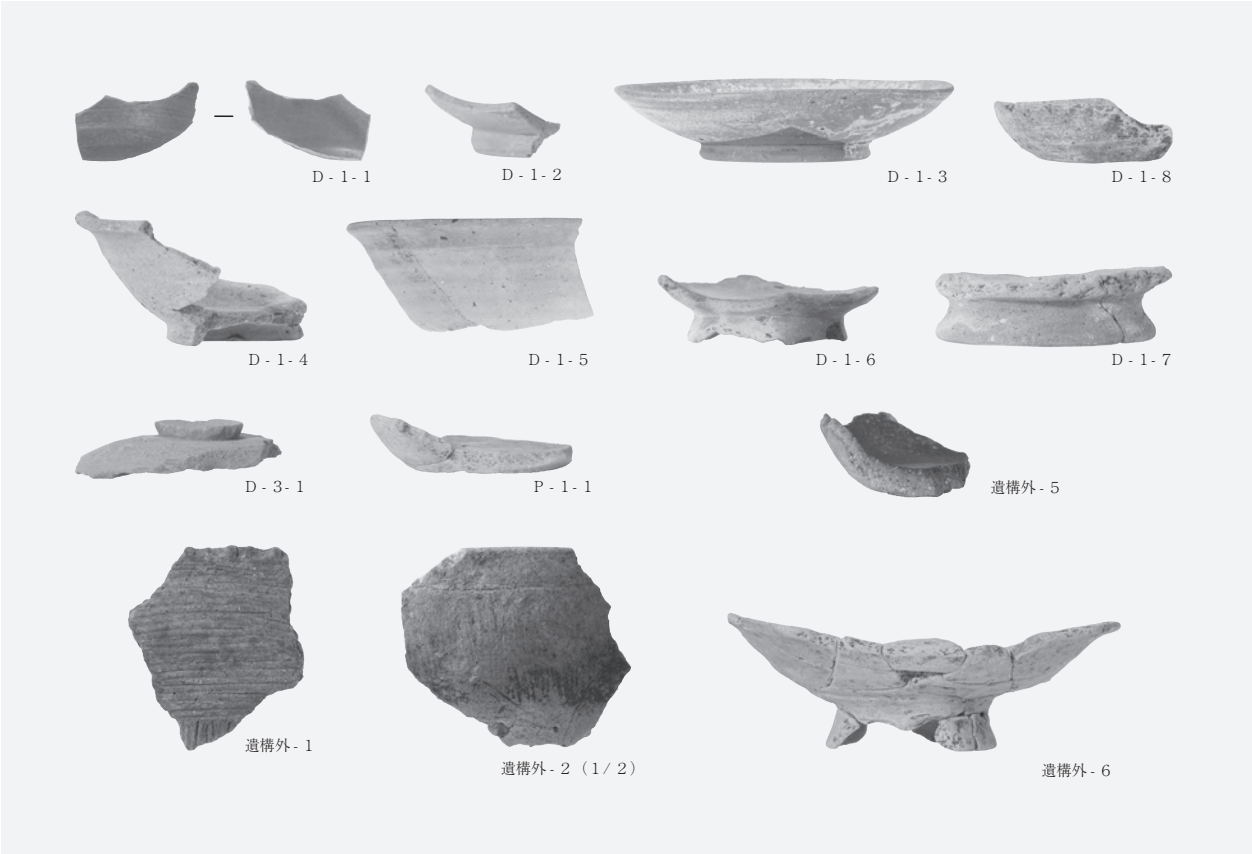
W - 2- 7


W - 2- 8


W - 2- 9（1／2）

W - 2-10（1／2）


W - 2-11



遺跡説明会の様子（北から）

報告書抄録

カタカナ	モトソウジャチュウガッコウイセキ
書名	元総社中学校遺跡
副書名	元総社中学校体育館改築建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	小峰　篤・中村岳彦
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371－0031　群馬県前橋市下小出町１-15-３
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0853　群馬県前橋市総社町３-11-４
発行年月日	2016年９月30日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャチュウガッコウイセキ 元総社中学校遺跡	マエバシシソウジャマチソウジャ 前橋市総社町総社 3148ほか	102021	27A207	36°23'32	139°2'20	20160208 ～ 20160229	130㎡	元総社中学校体育館改築建築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社中学校遺跡	集落	古墳時代 奈良時代 平安時代 中～近世	住居跡　10軒 掘立柱建物跡１棟 溝跡　２条 井戸　５基 土坑　５基 ピット　１基	縄文土器 （前期・晩期） 緑釉陶器 （輪花碗・碗・段皿・小壺） 灰釉陶器 （碗・皿・壺） 須恵器 （蓋・坏・埦・小皿・灯明具・鉢・鉄鉢形土器・壺・甕） 土師器 （坏・甕・三足土器） 鉄製品（刀子・釘） 土製品（竈形） 石製品 （碁石・砥石・臼玉）	縄文時代晩期の土器片。 古墳時代中期末～後期初頭の住居跡群。 奈良～平安時代前期の住居跡群と柱穴。 平安時代中期の総柱式掘立柱建物跡と溝。 緑釉・灰釉陶器、篠窯須恵器、竈形土製品。 平安時代後期の住居跡群。 カマド構築材に転用された「方光」銘丸瓦。

元総社中学校遺跡

元総社中学校体育館改築建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016年９月23日　印刷
2016年９月30日　発行

発行　前橋市教育委員会事務局文化財保護課
〒371－0853　群馬県前橋市総社町３-11-４
TEL　027-280-6511

編集　技研コンサル株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社